

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

和仏法律学校講義録

山口, 弘一

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

108

(発行年 / Year)

1901-05-27



明治三十四年五月廿七日發行

(第參部)

三十四年度乙種講習科用

和佛法律學校講義錄



第 參 號

國際公法(平時)

山口弘一

講習生諸氏ニ告ク

三十四年度講習生用講義録ハ規則所定ノ通二月ヨリ十一月マテノ間ニ於テ悉皆完了致スヘキハ勿論ニ候ヘトモ印刷上其他ノ都合ニ因リ毎月期日ヲ定メ又ハ定數ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス且第一部第二部第三部ノ順ニ依リテ發行セ難キ場合有之候故全部ヲ講習スル人ニハ毎月必ス一冊以上ノ配布ヲ爲スヘキモ一部門ヲ講習スル人ニハ場合ニ因リ配布スルコトヲ得サル月モ有之又全部ヲ講習スル人ニ對シテモ第一部第二部第三部ノ順ヲ逐ヒテ配布スルコトヲ得サル場合有之候ニ付此旨豫メ御承知相成度唯豫定期限十一月三十日マテニハ必ス完了スルコトハ斷シテ間違無之候故毎月ノ配布ニ多少アルモ決シテ懸念セラレタル様希望致候也

明治三十四年五月

和佛法律學校

090
1901
3-3

山口 弘 一 講述

國際公法(平時)

和佛法律學校發行

國際公法(平時)目次

緒論	一
第一編 總論	六
第一章 國際法ノ性質	六
第二章 國際法ノ名稱	一七
第三章 國際法ノ種類	二〇
第四章 國際法ト條理トノ關係	二四
第五章 國際法ノ淵源	二五
第六章 國際法ノ管轄區域	二八
第七章 國民主義	三二
第八章 權力平均	三三
第九章 萬國共同觀念	三八
第十章 國際法ノ沿革	四〇

第一節 古代ノ國際法.....四〇

第一款 埃及.....四〇

第二款 「フェニシヤ」人.....四三

第三款 「バビロン」及「アッシリヤ」.....四四

第四款 波斯.....四六

第五款 猶太人.....四六

第六款 希臘.....四七

第七款 羅馬.....五四

第二節 中世.....五八

第一款 耶蘇教.....五八

第二款 回回教.....六一

第三款 國ノ平和及ヒ神ノ平和.....六三

第四款 騎士.....六四

第五款 通商.....六四

第六款 「ハンザ」同盟.....六八

第七款 第十六世紀.....七一

第三節 近世.....七三

第十一章 國際法ニ關スル學說ノ沿革.....一〇一

第十二章 國際法ノ編纂.....一〇二

第二編 各論.....一〇四

第一章 國際法ノ主體.....一〇四

第二章 國際法主體ノ成立.....一一一

第三章 國際法主體ノ消滅.....一一四

第四章 國家ノ大權.....一六一

第五章 領地.....一六七

第一節 領地ノ性質.....一六八

第二節 境界.....一七二

第三節 領地ノ取得.....一七二

國際公法(平時)目次

四

第四節 國際河川……………一七四

第五節 公海……………一七四

第六章 條約……………一七五

第七章 使節……………一八一

第八章 領事……………一九二

第九章 國際爭議ノ調和手段……………一九八

國際公法(平時)目次終

國際公法(平時)

山口 弘 一 講述

緒論

人ハ社交的動物ナリトハ古人カ曾テ唱ヘタル金言ニシテ「ロビンソンクルソー」ノ如キハ殆ト有リ得ヘキ事實ニ非ス即チ人ハ孤立シテ生活ヲ爲ス能ハサルカ故ニ茲ニ始メテ一家ヲ組織シ一邑ヲ作成シ遂ニ國家ヲ樹立スルニ至ル抑モ人カ社會ヲ成スノ目的ハ自家ノ生存ヲ完ウセントスルニ在ルモ此際其自由ニ制限ヲ置クニ非サレハ忽チ其衝突ヲ來シ其極却テ非常ノ弊害ヲ醸シ社會作成ノ目的ヲ沒了スルヤ明ナリ乃チ自由ヲ制限スル方法ナキトキ「ミルトン」カ失樂園ニ演出シタル光景ヲ社會ニ呈スヘキヤ固ヨリ其所ナリ故ニ人カ一旦社會ヲ構

國際公法(平時) 緒論

成スルニ當リテハ必ス自由制限ノ方法ナカルヘカラス吾人此方法ヲ名ケテ法律ト謂フ

國家ハ一大社會ナリ而シテ文明ノ進歩ハ此一大社會ヲシテ他ノ一大社會タル外國ト交通往來シ以テ有無ヲ通スルニ至ラシム而シテ此交通往來ノ際ニ亦國家自由ヲ制限スル方法ナキニ於テハ忽チ自由ノ衝突起リ平和的ノ交通ヲ爲ハコト能ハサルニ至ルヘシ何トナレハ國家ハ己レノ利益ヲ圖ルニ急ナルカ爲メニ屢外國ノ利益ヲ顧慮スルニ暇アラサレハナリ故ニ一大社會タル國家カ互ニ往來交通スルニ當リテモ亦其自由ヲ制限シ各自ヲシテ適當ノ地位ヲ占メシメ相凌犯セシメサル必要アリ此方法ヲ稱シテ國際法ト謂フ要スルニ國際法ハ各國カ交通往來スル際ニ遵守スル行爲ノ標準ナリトス

法律カ社會ノ必要物トシテ生ヰタル如ク國際法モ亦國家交通上ノ必要ヨリ起リタルコト右ニ述フルカ如シ故ニ古代ニ於テモ處處ニ國際法ノ萌芽ヲ發見セリ例ヘハ印度ノ「マニール」法典ニモ左ノ規定ヲ見ル

國王ハ其隣王ヲ敵ト看做シ其朋友タル諸王ヲ同盟者ト看做シ其他ノ國王ヲ

局外中立者ト看做スヘシ又國王ハ贈物分割及ヒ兵力ノ三者ヲ以テ勢力ヲ養フヘシ又國王ハ使者ヲ遣フヘシ使者ハ「マニール」諸法典ヲ暗ンシテ外國人ノ手話風體ヲ解シ風采秀逸ニシテ賄賂ノ爲メニ汚サレス生活高尚ナル者ヲ選フヘシ云云又曰ク敵ニ對シテハ銳キ武器ヲ用フヘカラス又火器ヲ用フヘカラス云云

此規定ハ實ニ千八百六十八年露國「セントペーテルスブルグ」ニ於ケル列國會議ノ決議ト其精神ヲ同シウセリ又神ハ「モゼス」ニ告ケテ曰ク戰ヲ爲サントセハ先ヲ豫メ敵ニ戰端ヲ開クヲ通知スヘシ若シ敵ニシテ城門ヲ閉キテ降ヲ請ハハ之ヲ許スヘシト是レ宗教ノ書ニ見ユル所ナリ又丁魁良氏ノ支那古代萬國公法書名ヲ見ルモ亦同國ニ國際法ノ萌芽アルヲ知ルヘシ我國ニ於テモ戰國時代ニハ往往國際法ニ類似ノ形跡ヲ見ル要スルニ國際法ハ交通ノ必要上ヨリ生スル社會ノ現象ニシテ其成立ノ條件ヲ示セハ左ノ如シ

第一、獨立ノ國家カ互ニ交通ヲ爲スコト

第二、此國家カ交通上ノ標準トシテ一定ノ規則ヲ承認シタルコト

此ノ如ク國際法ナルモノハ獨立ノ國家カ互ニ交通ヲ爲シテ始メテ生スルモノニシテ國家ヲ組織セサル國民ノ間ニハ決シテ國際法ナルモノナシ又獨立ノ國家ハ一定ノ標準ヲ承認シタル時始メテ國際法ヲ成立スルカ故ニ隨テ甲國カ乙國ニ其承認セサルモノヲ交通上ノ標準トシテ強制スルコト能ハス

此ノ如ク國際法ハ獨立國ノ合意ニ基クモノトス然ラハ此合意ヲ爲シタル數多ノ國家所謂國際法團體 *La communauté du droit des gens* 以外ニ立ツ所ノ國家ハ國際法ノ下ニ立タサルモノトス例ヘハ我國ハ從來領國主義ヲ採リテ外國ト交通セザリシカ數十年前始メテ諸外國ノ強制ニ因リ遂ニ外國ト交通ヲ爲スニ至レリ當時ニ於ケル外國ノ行爲タルヤ果シテ國際法ニ違適スルカ予ハ決シテ其然ラサルコトヲ信スルモノナリ何トナレハ日本開國ノ當時歐米ニ行ハレタル國際法ハ歐米ニ於ケル諸國ノ合意ニ因リテ起リタルモノナルカ故ニ此合意ノ結果タル國際法ニ依リテ合意ニ與カラサル外國ヲ強制スルコト能ハサレハナリ況ヤ歐米諸國ノ條約ニモ將タ慣習ニモ外國ヲ強制シテ國際法團體ニ加入セシムル規定ナケレハナリ故ニ當時日本ハ腕力ヲ以テ領國主義ヲ實行スルモ全

ク不當ノ所爲ニ非サルナリ

國家新立ノ場合ニ於テモ亦同シ蓋シ國家ノ新立トハ從來國家ヲ組織セサル人民カ獨立國ヲ組織スル場合ニシテ其原因一ニシテ足ラスト雖モ此等ノ説明ハ後ニ讓ルヘシ而シテ國家カ新立スル場合ニハ當然國際法團體ニ入ルヘキモノナリヤ語ヲ換ヘテ云ヘハ既存ノ國際法ヲ當然遵奉スヘキモノナリヤト云フニ予ハ決シテ其然ラサルコトヲ信ス即チ新立國ハ國際法團體ニ加入スル意思ヲ表示スルコトヲ要ス然リ而シテ國家新立ノ承認ヲ國際法團體ニ對シテ請求セタルトキハ意思ノ表示アリタルモノトス

茲ニ一問題アリ即チ國際法團體ノ一員タル國家ハ他ノ國家ノ承認ヲ俟タズシテ自由ニ國際法團體ヨリ脫退スルコトヲ得ルヤ予ヲ以テ之ヲ見ルニ國際法團體ハ國際法團體ヨリ脫退スルモノ爲メニ成立スルモノニ非スシテ各國家ノ利益ヲ圖ラシカ爲メニ成立シタルモノナルカ故ニ此國家ノ利益ハ國際法團體ニ籍ヲ列スルカ爲メ害セラルル場合ニ於テハ國家ハ自由ニ此團體ヨリ脫退スルコトヲ得サルヘカラス然レトモ此說ハ一般ニ容レラレサルカ如シ但シ歐洲ニ於テハハ

フテル]及ヒ「ゲフケン」氏ノ説ク所都説ニ同シ

第一編 總論 第一章 國際法ノ性質

國際法ノ性質ニ付テハ學者間ニ議論ヲ生シタレトモ國際法學者ノ多數ハ國際法ヲ以テ法ナリト斷定セリ我國ニ於テハ法律論ト非法論ト相牟スルカ如シ然ルニ從來學者ノ論スル所ヲ見ルニ孰レモ法ノ性質ニ付キ解釋ヲ異ニセリ隨テ國際法ノ性質ニ付テ見解ヲ同シウセサルモ亦宜ナリト謂フヘシ

國際法ヲ以テ法ナリトスル見解ハ國際法學者ノ間ニ廣ク行ハルル所ニシテ「ワーストレイキ」「ローリメール」「ラッシュン」等ノ數氏カ僅ニ非法論ヲ唱フルノミ其他「イエーリンド」「ウツメルマン」「トマジウスライバチル」「ツラレン」「オーステン」等亦非法論者タリ就中「オーステン」氏ノ法理學ハ一時我國ニ行ハレシカ故ニ我國ノ非法論者ハ概テ同氏ニ私淑セリ

國際法學者ハ右ニ述フルカ如ク大抵國際法ヲ以テ法ナリト爲セトモ之ヲ唱道スルノ理由ニ至リテハ同シカラス或ハ「リスト」如ク各國民カ權利義務ノ標準

トシテ國際法ヲ承認スルカ故ニ之ヲ法ト視ルヘシト云フ者アリ或ハ「マルテン」ス「露國」ノ如ク法ハ強者弱者間ニ於ケル讓歩的ノ約定ニシテ國際法亦各國民ノ讓歩的約定ナルカ故ニ法ノ性質ヲ有スト論スル者アリ或ハ「ナグ井ニール」ノ如ク國際法ハ法律觀念ニ基因スルモノナルカ故ニ法ナリト云フ者アリ夫レ此ノ如ク其説明ノ理由ニ至リテハ各同一ナラスト雖モ國際法ヲ以テ法ト爲スハ即チ一ナリ然ルニ此說ハ何レモ法ノ性質ヲ誤解セルモノナリ何トナレハ法ノ成立ノ原因ハ個人間ニ於ケル自由ノ衝突ヲ豫防スルカ爲メニ生シタルモノナルカ故ニ法ニシテ其違反者ニ對シ制裁ヲ加フルコト能ハスンハ其自由ヲ制限シタル効能ナカルヘシ故ニ制裁ハ法ニ缺クヘカラサルモノト云フヘシ「イエーリンド」博士カ制裁力ナキ法律ハ恰モ焰ナキ火ノ如シト云ヒシハ道理アリト云フヘシ「オーステン」モ亦制裁ヲ以テ法ノ要素ト爲シ國際法ハ之ヲ缺クカ故ニ憲法行政法ト均シク道徳ナリト言ヘリ「予輩」ハ「オ」氏カ憲法行政法ニ制裁ナシト信スルヲ惜ム行政法就中警察法ニ制裁アルハ證明スルヲ要セス憲法違反ノ行爲例ヘハ立法カ無効ト爲ルハ一ノ顯著ナル制裁ニ非スヤ然ルニ法律論者中國國際法ニモ

制裁アリト云フ者アリ(法ニ制裁ヲ要セスト云フ學者ハ國際法ニ制裁アルコトヲ要セスト云ヒ或ハ又ノイマン)如ク法ニ制裁力ヲ要セスト論スル學者ノ中ニテモ尙ホ且ツ國際法ニ制裁アリト云フ者アリ(例ヘハ戰爭ヲ以テ制裁ナリトスルカ如シ然レトモ國際法ニ違反シタル者カ必ス戰爭ニ敗ルルニ於テハ之ヲ以テ制裁ナリト云フコトヲ得ルモ戰敗者ハ必スシモ國際法違反者ニ非サルヲ見レハ戰爭カ國際法ノ制裁ニ非サルコトヲ知ルヘシ是ニ於テカ說ヲ爲ス者アリ曰ク戰爭ハ尙ホ決闘ノ如シ古代法ノ發達セサル時代ニ於テ決闘ヲ以テ法ノ制裁ト爲シタルコトアルト同シク今日ノ國際法ハ未タ發達セサル法律ナルカ故ニ國際上ニ於ケル戰爭ハ尙ホ古代ニ於ケル決闘ノ如シ故ニ國際法ニモ亦制裁アリト云フヘシト此說タルヤ法ノ沿革ニ通セサルノ論ナリ何トナレハ古代決闘ヲ以テ一ノ制裁ト看做セシハ全ク宗教上ノ思想ニ出ツルモノニシテ當時世人ハ決闘ニ敗ルル者ヲ皆法ノ違反者ナリト信シタリ然ルニ今日ノ戰爭ハ此ノ如キ思想ニ出テス是レ腕力ハ正義ニ勝ツノ語ヲ生シタル所以ナリ(ジーゲワルトゲート、フヨルデームレヒテ、フアル)是ニ於テカノイマン)如キ法律論者ハ萬國

ノ歴史ハ萬國ノ裁判所ナリト云ヒシザルル)如ク是非ハ史上ニ之ヲ證ス可シト云ヘリ法律論者ノ論據ノ堅牢ナラサル此ノ如シ
 非法論者ハ國際法ニハ立法者ナシト云ヘリ然ルニ法律論者中國際法ニモ亦立法者アリト云フ者アリ而シテ此論者中或ハ「ブルンチユリ」「ボンフホース」ノ如ク萬國會議ヲ以テ立法者ト爲ス者アリ或ハ「フタル」「リスト」ノ如ク各國民ヲ以テ立法者ト爲ス者アリ然レトモ萬國會議ハ單ニ立法者タルノ外形ヲ備フルニ過キスシテ其實立法者ニ非ス何トナレハ萬國ニ對シテ主權ヲ有セザレハナリ又各國民ト雖モ同シク主權ヲ有セサル以上ハ之ヲ稱シテ立法者ト爲スコトヲ得サルナリ蓋シ是等ノ立法者カ定メタル決議ニ違反スルハ各國ノ自由ニシテ國際法違反ノ罪ヲ構成スルニ相違ナキモ之カ爲メ何等ノ制裁ヲ受ケザレハナリ是レ萬國會議若クハ各國民カ立法者タルノ形アルモ其實ナシトスル所以ナリ
 或ハ國際上ノ慣習ハ即チ法ナリト云フ者アリ此論者ハ以爲ラク各國ノ法律沿革史ヲ見ルニ慣習先ツ起リテ而シテ後ニ法律生ス國際上ニ於テモ亦然リ今日

ノ國際法ハ未ダ充分ノ發達ヲ爲ササルモノニシテ恰モ尙ホ各國ノ法律沿革史
上慣習ノミ行ハレタル時代ノ如シ而シテ各國民カ慣習ヲ以テ法ト看做セシ如
ク今日國際上ニ於ケル慣習モ亦一ノ法ナリト云ハサルヘカラス然ラハ國際上
法律ナキノ故ヲ以テ國際法ハ法ニ非スト云フコトヲ得スト抑モ慣習カ法律ニ
先テ生シタルハ各國ニ於ケル法律沿革ノ順序ナリト雖モ慣習カ法律トシテ
拘束ノ力ヲ有スルハ主權者カ之ヲ默認セルニ因ル慣習ヲ以テ國民法律思想ノ
表示ト爲ス學者ハ默認說ヲ採ラス然ルニ國際上ニハ一ノ主權者ナキカ故ニ國
際上ニ慣習法ノ存スヘキ理由ナシ

此ノ如ク國際上ニハ法律ナク又慣習法ナキヲ見ルトキハ益々國際法カ法ニ非
サルコト明カナルヘシ

非法論者ノ論旨ハ誠ニ明白ニシテ左ノ數語ヲ以テ之ヲ蔽フコトヲ得ヘシ曰ク
國際上ニハ主權者ナキカ故ニ法ナシト而シテ國際上ニハ法典ナク裁判所ナク
公力ナク隨テ萬國ヲ管轄スル規則ナシト云フハ畢竟此語ヲ敷衍セタルモノナリ
抑モ主權者ナキ所ニ法ナキハ別ニ説明ヲ要セサル所ナレトモ尙ホ之ヲ疑フ

者頗ル多キカ故ニ余ハ法ノ性質上ヨリ打算シテ國際法カ法ニ非サルコトヲ上
文ニ説明セリ以下更ニ進ンテ法律論者ノ國際上ニ裁判所アリトノ說ヲ批評ス
ヘシ

「ロイドリエール」曰ク野蠻時代ニ於テ各人ハ皆自ラ裁判ヲ爲シタリ中古常設
裁判所ノ設備ナキ時ニ於テ私闘及ヒ決闘ハ訴訟ト密着ノ關係ヲ有セリ此時ニ
當リ社會ノ人ハ何等ノ權利ヲモ知ラス又法律慣習ヲモ守ラズト云フコトヲ
得ヘキカト此論ハ法律ノ沿革ニ通セサルモノナリ抑モ野蠻時代ハ茲ニ採用ス
ルヲ要セス(否氏ハ野蠻時代ヲ援用シタルヲ後ニ於テ耻ツルナラン何トナレハ
今日ノ國際法時代ヲ野蠻時代ト比シタレハナリ)古代決闘ヲ以テ裁判ト認メタ
ル時代ニ於テハ決闘カ宗教上ノ觀念ニ出テタルコトハ上ニ述フル所ノ如シ而
シテ中古決闘カ行ハレシハ法ノ力カ行ハレサルニ因ルモノニシテ既設裁判所
カ其跡ヲ絶チシモ全ク此理由ニ出ツ

「ポンフェイス」曰ク法ハ權力組織タル裁判所以前ニ起リタルモノナリ裁判所ハ法
ヲ作ルモノニ非スシテ之ヲ適用スルモノナリ裁判機關ハ決シテ法ノ要素ニ非

「スト又曰ク民法ニ於テモ法律關係ノ多數ハ裁判所ノ干渉ヲ待タズシテ完全ニ行ハルト」マルテンヌモ亦同様ノ說ヲ唱フ然レトモ裁判所アルハ國法ノ常態ニシテ裁判所ナキハ國際法ノ常態ナリ裁判所ハ法律以後ニ起ルモノニ非スシテ之ト同時ニ起ルモノナリ法ニシテ之ヲ適用スル機關ナクシテハ法ノ名アリテ其實ナキモノナリ

一昨年和蘭ニ開キタル平和會議ハ常設仲裁裁判所ノ設立ヲ議決セリ國際上裁判所アリト信スル學者ハ定メテ満足スルナルヘシト雖モ此決議カ實行サルルヤ否ヤハ問題ナリ縱シ實行サルルトスルモ此裁判所ノ判決ハ執行力ヲ缺クカ故ニ裁判ナリト言ヒ難シ

法律論者中國國際法ニ裁判所アリトノ說ヲ唱フル者ハ往往仲裁裁判所又ハ捕獲審檢所ノ例ヲ援用セリ是レ謬見ナリ蓋シ裁判ノ性質タルヤ訴訟當事者以外ノ者カ當事者ノ爭論ヲ判定スルニ在レトモ捕獲審檢所ハ原告タル國家ノ機關カ原告ノ行爲ヲ判定スルニ過キス况ヤ捕獲審檢所カ往往ニシテ政略ノ機關ト爲リシコトハ歷史上有名ナル事實ニシテ英國ノ「ストウエール」聊ノ如キハ巧キ

英國ノ利益ヲ保護シ英國ノ政略ヲ輔ケシカ爲メニ名ヲ得タルノミ又仲裁裁判所ノ如キハ其裁判ハ執行力ヲ有セス執行力ヲ有セザル裁判ハ裁判ノ名アルモ其實一個ノ意見ニ過キスシテ殆ホ新聞紙カ人ノ行爲ヲ評論スルカ如シ

此ノ如ク國際法ハ法ノ性質ヲ缺クモノトセハ其性質果シテ如何予ハ制裁ナキ行爲ノ標準ナリト答ヘンノミ蓋シ吾人カ社會ニ生存スルヤ一面ニ於テハ法ノ管轄ヲ受ケ一面ニ於テハ社會ノ風習ニ從ハサルヘカラス而シテ吾人カ法ノ管轄ヲ受クルハ國家ニ對シテ服從ノ關係アルカ爲メナリト雖モ社會ノ風習ニ從フハ服從ノ關係ニ因ルニ非スシテ利害ノ關係ニ出ツルノミ即チ社會ノ風習ニ從ハサルトキハ往往不利益ヲ招クカ爲メナリ而シテ國家カ他ノ國家ニ對シテ國際法ヲ遵奉スルハ服從ノ關係ニ出ツルニ非スシテ利害ノ關係ニ出ツルモノナリ抑モ社會ノ發達ハ風習ノ進化ヲ促スカ如ク萬國交通ノ進歩ハ勢ヒ國際法ノ變遷ヲ惹起ササルヲ得ス是ニ於テカ苟モ天下ニ國ヲ立ツル者ハ國際法ヲ遵奉スルニ非サレハ其體面ヲ保ツコト能ハサルコト往往ニシテ之アルハ猶ホ吾人カ社會ノ風習ニ從ハサルハ之カ爲メニ往往非常ナル不利益ヲ招クコトアルカ

如シ仍テ予ハ國際法ニ左ノ定義ヲ下セリ

國際法トハ對外的國家行爲ノ標準ニシテ各國ノ間ニ存在スル所ノ制裁ナキ規則ヲ云フ

「マルテンス」曰ク從來學者カ國際法ニ下セシ所ノ定義ハ少カラスト雖モ予ハ未タ完全ナルモノヲ發見セスト蓋シ完全ノ定義ナキハ學理上ノ定義ヲ下スコトノ困難ナルカ爲メノミナラス國際法ノ發達幼稚ナルカ爲メナラン亦以テ國際法ノ定義ヲ下スコトノ困難ナルヲ知ルヘシ左ニ參考ノ爲メ二三ノ學者カ下シタル定義ヲ示スヘシ

「ビヘトリエーブル」曰ク國際法トハ各國カ其相互ノ關係ヲ管轄セシムル所ノ自然法ニ適合スル規則ノ集合ヲ云フ

「ボンフイース」曰ク國際公法トハ國家相互間ノ權利義務ヲ定ムル規則ノ集合ヲ云フ

「アリー」曰ク國際公法トハ慣習及ヒ條約ニ因リテ確定セラレ道理ヨリ出テ且ツ國家相互ノ公益上ノ關係ヲ定ムル規則ノ集合ヲ云フ

「カルボー」曰ク國際法トハ國家相互ノ關係上各國民ノ遵守スル行爲ノ標準ヲ云フ又曰ク一國カ他國ニ對シテ履行スヘキ義務及ヒ防衛スヘキ權利ノ集合ト云フコトヲ得ヘシト

「オルトラン」曰ク國際法ハ國際行爲ノ法及ヒ德義ノ集合ヲ云フ

以上ハ佛國學者ノ下シタル定義ナリ(但シカルボー「氏ヲ除ク)

英國ノ學者ヅワーカ「曰ク國際法ハ各國ノ臣民タル人類カ相互ノ交通上守ルヘキコトヲ文明ノ進歩ヨリ學ヒタル行爲ノ規則ヲ云フ

「ホール」曰ク國際法ハ良心アル人カ其國法ヲ遵守スルト同様ナル性質及ヒ程度ニ於テ現今ノ文明國カ相互ノ關係上己ヲ驅束スル力アリト認メタル一定ノ規則ニシテ違反ノ場合ニハ相當ノ方法ヲ以テ執行シ得ヘシト信スルモノヲ云フト」
「ローレンス」曰ク國際法トハ文明國間又ハ其臣民ノ交通ニ關スル文明國全體ノ行爲ヲ定ムル規則ノ集合ヲ謂フト

其他米國ノ「ホ非イートン」ハ國際法ヲ以テ獨立國民間ニ存在スル社會ノ性質ヨリ生スル規則ノ集合ニシテ道義ニ適合シタル者ナリト定義シ「ウールシー」ハ耶

嚴教國カ相互ノ關係上又ハ他ノ耶嚴教國臣民トノ關係上守ルヘキコトヲ認メタル規則ノ集合ナリト解セリ

次ニ獨逸學者ノ定義ヲ舉クレハ左ノ如シ

「ブルメンリント」曰ク國際法トハ國家相互ノ關係ノ爲メニ發達スル規則及ヒ制度ヲ云フ

「ブルンチユリ」曰ク國際法トハ各國ヲ人類の法律團體ニ結合スルノミナラス各國ノ人民ニ其人類權及ヒ國際權ニ付キ共同的法律上ノ保護ヲ與フル公認ノ萬國規則ヲ云フ

「タルマン」曰ク國際法ハ國家及ヒ國民ノ團體ニ附着スル生活關係ヲ定ムル規則ノ總念ヲ謂フ

「リスト」曰ク國際法トハ文明國ノ團體ニ屬スルノ間ニ存スル權利及ヒ義務ヲ定ムル規則ノ總念ヲ云フ

「ビエドリユー」ブル氏ハ諸學者ノ下シタル定義ヲ大別セテ左ノ四種ト爲シタリ即チ國際法ヲ以テ制裁ナキ萬國普通法ト爲ス者ニ條約及ヒ法律ヨリ生スル定

法慣習並ニ理論ト爲ス者ニ理想ナリト爲ス者ニ既定ノ規則ノミヲ國際法ト爲ス者四是ナリ猶ホ諸學者ノ定義ヲ知ラント欲セム「ブラジニ、ブラヂーレ」氏ノ書ヲ見ルヘシ

第二章 國際法ノ名稱

我國ニ於テ國際法ニ始メテ萬國公法ナル名稱ヲ附シタルハ明治ノ初年ニシテ恐ラクハ「ケント」氏ノ國際法ヲ譯セタル時ニ始マリシナラン然レトモ此語ハ日本人カ創作セタルモノニ非スシテ實ニ支那ヨリ傳來セシモノナリ即チ米人丁「賤良ウ」非ルヤム、マルマン(ス)氏カ西洋ノ國際法ニ關スル著書ヲ支那文ニ翻譯セシ時始メテ此文字ヲ用ヒシナリ爾來我國ニ於テモ萬國公法ナル文字ハ近來マナ慣用セラレタル所ナリ然ルニ故實作麟祥氏カ西洋ノ書籍ヲ譯スルニ當リ國際法ナル文字ヲ用ヒテヨリ以來往往之ヲ襲用スル者アルニ至レリ然レトモ今日ニ於テハ國際公法ナル文字却テ廣ク行ハル此語ハ歐語ノ譯字ナレトモ國際法ノ性質ニ適合スルモノニ非ス蓋シ世人カ國際公法ナル語ニ對スル國際私

法ナルモノハ決シテ國際法ニ非サレハナリ隨テ國際私法及ヒ國際公法ヲ以テ國際法ノ二種ナリトスルハ誤レリト云フヘシ
歐洲諸國ニ於テハ第十六世紀頭始メラヌス、グンチウム、ナル名稱ヲ當時ノ國際法ニ付スルノ例ヲ開ケリ爾來此名稱ハ廣ク各國ノ間ニ行ハレ英佛獨等ニ於テモ何レモ此語ニ適當スル譯語ヲ選フニ至レリ例ヘハ佛語「ドロワー、デー、ジャシ」「ドロワー、デー、ナシオン」英語「ロウ、オス、チーシオン」獨逸語「ルケル、レヒト」ナルモノ是ナリ然ルニ是等ノ文字ノ不當ナルコトハ漸漸世人ノ發見スル所ト爲レリ「グロチウス」氏モ已ニ其不當ナルコトヲ論セリ抑モ羅馬ニ於ケル「ユス、ゲンチニウム」ハ今日ノ國際法ト全ク其性質ヲ異ニシ外國人相互ノ間ニ起リタル關係又ハ羅馬人ト外國人トノ間ニ起リタル關係ヲ定メタル規則ニシテ第十六世紀頃ノ學者カ此文字ヲ國際法ニ相當セシハ全ク當時ニ於ケル所謂羅馬法熟ノ結果ニ外ナラサルナリ

千六百五十年英國人「ウィチ」氏ナル者始メテ「ユス、インタリゲンス」ナル名稱ヲ用ヒタリ但シ其文字ハ英語ニ非スシテ羅句語ナリキ是ニ於テ「ベンザム」氏ハ更ニ之ヲ「インタリ、ナシヨナルロー」ナル英語ニ譯シタリ
佛國人「エグモン」氏ノ著「ベンザム」氏ノ用ヒタル國際法ナル語ヲ同一ノ意味ニテ佛語「ドロワ、アンタルナシヨナル」ニ譯シタリ爾來此語ハ伊太利西班牙葡萄牙北米諸國ニ傳播スルニ至レリ
英國ニ於テハ「マツキントス」「オータ、マン」ニシテ「ツホス」等ノ諸氏ハ「ロー」ヲフネーシヨンス「テル」文字ヲ用ヒシカ「ワホルドマン」「レツチ」「ファイリモール」等諸學者ハ皆其著書ニ於テ國際法「インタリナシヨナルロー」ナル文字ヲ用ヒタリ是ニ於テカ此語ハ英米ノ學者間ニ廣ク行ハルルニ至リタリ
佛人「フエリキス」氏ナル者始メテ國際法ニ國際公法及ヒ國際私法ノ二種アルコトヲ主張シ吾人カ所謂國際法ニ國際公法ナル名稱ヲ附シタリ爾來佛伊等ニ於テハ國際公法ナル文字ヲ用フルヲ例トセリ然ルニ獨逸ニ於テハ今日尙ホ例ノ「フェルケルレヒト」ナル語ヲ用フル者多シ「ホルツェンドルフ」「スターターンレヒト」ナル文字ヲ按出シ「グフケン」ハ「インタリスタートロー」ナル文字ノ適當ナルコトヲ云ヘリ余輩ハ國際法ナル邦語ノ適當ナルコトヲ信スル者ナリ

第三章 國際法ノ種類

從來ノ學者ハ多クハ國際法ノ種類ト其淵源トヲ混同セリ然レトモ此二者ハ各ク其性質ヲ異ニスルモノナリ今國際法ノ種類ヲ左ニ列舉スヘシ

第一 慣習

一定ノ行爲ヲ數國ノ間ニ反覆スルトキ慣習ヲ發生ス而シテ此反覆アルヤ必ス相互的レシブシテナラサル可ラス甲乙二國ノ間ニ於ケル慣例ハ甲乙二國ヨリ互ニ之ヲ實行セタルコトヲ要ス片面的ノ行爲ハ如何程反覆スルモ慣例ト爲ラス而シテ慣習ノ效力ニ至リテハ從來學者間ニ議論アリ即チ慣習ノ效力ハ條約ニ勝ルト云フノ說ト條約ハ慣習ニ勝ルト云フノ說トノ二ニ分レタリ前說ヲ主張スル者ハ曰ク慣習ハ永久的ノ性質ヲ有スルモノニシテ國際法ノ原則ヲ最も正確ニ顯シノタルモ之ニ反シテ條約ハ往往偶然ノ事實ニ根據シ往往一時ノ政略ノ爲メニ締結セラルルコトアルカ故ニ之ヲ以テ永久的ノ標準ト看做スヘカラスト後說ヲ唱フル者ハ以爲ラク條約ハ當事者ノ意思ヲ直接ニ示スモノニシテ

之ヲ證明スルコト頗ル容易ナリ隨テ條約ノ爲メニ國際上ノ紛議ヲ發生スルコト極テ少シ是レ條約ノ效力慣習ニ勝ル所以ナリトス然レトモ慣習ト條約トハ其效力ヲ異ニスルモノニ非ス是レ二者ノ性質全ク同一ナレハナリ即チ慣習ハ當事國ノ暗黙ノ合意ニシテ條約ハ其明示ノ合意ニ過キス隨テ慣習カ條約ヲ變更スルコトアリ又條約カ慣習ヲ變更スルコトアルハ明白ナル事實ナリトス

今日國際法カ慣習トシテ行ハルル例頗ル多シ主權者又ハ公使ノ治外法權領事ノ制度海上慣例戰時公法ノ大部分等ハ何レモ慣習ニ屬ス

慣習ヲ證明スルハ頗ル困難ニシテ「ビイドリエーブル」如キハ歴史ニ依リテ其存在ヲ證明スルコトヲ得ヘシト云ヘリ然レトモ或事項カ一ノ慣習ナリヤ否ヤノ問題ハ畢竟事實論ニシテ其或事實ニ付キ國家間互ニ意見ヲ異ニシテ論ヲ生シタルトキハ今日ニ於テハ之ヲ裁斷スル機關ナラズ要スルニ慣習ハ之ヲ證明スルコト困難ナルカ故ニ先ツ學者ノ力ヲ藉ラサル可カラス左レハ英國ニ於テ「レ、コーセイユ、グーロンヌ」アリ伊佛ニ於テ「ハ、コミテ、コンヌユニチーフデ

ニ、コンタンチエアリ國際法殊ニ國際慣習ノ存在ヲ證明スルニハ、
 慣習ヲ分チテ一般の慣習及ヒ特別の慣習ノ二ト爲ス一般の慣習トハ國際法團
 體ノ全體ニ行ハルル慣習ニシテ特別の慣習トハ或二三ノ國ノ間ニ行ハル
 ル慣習ヲ云フ此二者ハ其效力ヲ異ニスルモノニシテ特別の慣習ハ其慣習ノ行
 ハルル以外ノ國ニ其效力ヲ及ホスコト能ハス例ヘハ或國カ新ニ國際法團體ニ
 加入スルトキハ一般の慣習ヲ承認シタルモノト云フコトヲ得ルモ特別の慣習
 ヲ承認シタルモノト云フコト能ハス從來ノ歴史ヲ案スルニ特別の慣習ヲ第三
 國ニ於テ遵奉セタルノ例ナキニ非スト雖モ國際法上之ヲ遵奉スヘキ義務アリ
 然ルニ非ス單ニ自己ノ便宜上之ヲ承認セシニ過キササルナリ

第二 條約

條約ハ慣習ト同シク各國ノ間ニ存スル意思ノ合致即チ契約ニシテ其慣習ト異
 ル所ハ當事者ノ意思ヲ直接ニ明示セタルノ點ニ在リトス而シテ又條約モ其效
 力區域ヨリ之ヲ分チテ一般の及ヒ特別のノ二ト爲スヘシ即チ一般のノ條約ト
 ハ國際法團體ヲ組織スル各國ノ全體ニ通シテ行ハルル條約ヲ云フモノニシテ

今日ニ於テハ此種ノ條約未ダ存在セス之ニ反シテ特別のノ條約トハ二三ノ國
 ノ間ニ行ハルルモノヲ云フ而シテ一般の條約ト特別の條約トノ效力上ノ
 差異ハ一般の慣習ト特別の慣習トノ間ニ存スル效力上ノ差異ト同一ナリトス
 余輩ハ一般の條約及ヒ特別の條約ナル名稱ヲ二義ニ解シタリ一ハ條約ノ現在
 ノ效力區域ヨリ區別シタル者ニシテ一ハ性質上ヨリ區別シタル者ナリ普通一
 般條約ト云ヘハ性質上ヨリ各國ニ通シテ行ハルヘキ者ヲ指シタルモノニシテ
 本章ニ云フ一般の條約ト混スヘカラス

右ニ述ヘタル如ク今日ニ於テハ一般の條約存在セザルカ故ニ之ヲ以テ國際法
 ノ團體ノ守ルヘキ規則ト爲スハ全ク謬論タリ唯或種ノ條約ハ殆ト一般ノ文明
 國間ニ締結セラルルカ故ニ事實上國際法團體ノ規則ナルカ如キ觀アリ例ヘハ
 巴黎海上法宣言亦十字條約萬國郵便電信條約萬國工業保護條約等ノ如キ是ナ
 リ而シテ今日ノ傾向ヲ察スルニ是等ノ條約ニ加入スル者漸漸多キヲ加フルニ
 至レリ

條約ノ效力ニ付テハ往往之ヲ第三國ニ及ホスト言フ者アリ特ニ條約カ數多ノ

國ノ間ニ締結セラレタル場合ニ何レモ同一ノ原則ヲ揭タルトキハ是レ一ノ國際法ノ原則ヲ制定シタルモノナルカ故ニ當然其效力ヲ第三國ニ及ホスト言フ者アリ然レトモ「ホール」ガ駁撃セシ如ク條約ヲ一ノ契約ナリトセハ其性質上第三國ニ效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス尤モ今日多數ノ學者「ホール」ト同一ノ見解ヲ持セリ

條約ハ當事國ノ意思ヲ明示スルモノナレハ國際上ノ紛議ヲ防クノ利益アリ隨テ國際法學者中國際法ノ原則ヲ悉皆條約ニ於テ確定セントスルヲ説ク唱アル者少ナカラス而レラ「ホール」ガ説ニ依レハ條約ニ三種アリテ第一ヲ國際法ノ原則ヲ證明スル條約ト爲シ第二ヲ現行國際法ニナキ所ノモノヲ規定スル條約ト爲シ第三ヲ國際法ニ關係ナク單ニ相互ノ利益ヲ交換スルノ條約ト爲セリ而シテ「ホール」ガ右ノ第三種ノ條約ヲ弊害アルモノトシテ之ヲ非難シタリ

第四章 國際法ト條理トノ關係

國際法ノ問題生ゼタルトキ條約及ヒ慣習ニ徵スルモノ何等ノ標準ヲ發見スルコ

ト能ハサルトキハ國際問題ヲ如何ニ處理スヘキヤ此場合ハ何等ノ標準ナキノ故ヲ以テ其問題ヲ決スヘカラサルモノト爲スヘキ乎予輩ハ其然ラサルヲ信スルモノナリ何トナレハ國家カ互ニ相交通スル以上ハ必スシモ其間ニ交通ヨリ生スル事物必然ノ道理ノ發生セザル理山ナシ而シテ此道理ヲ予輩ハ假ニ條理ト名ク抑モ國際交通ヨリ起ル關係ハ實ニ千差萬別ニシテ慣習及ヒ條約ハ僅ニ其重要ナル部分ヲ規定スルニ止マリ細葉ニ亙リテ之ヲ規定シ得ヘカラサルコトハ尙ホ國內法律ノ條文以外ニ種種ノ問題ヲ發生スルト同一ナリ然ルニ此條理ナルモノハ之ヲ證明スルコト容易ノ業ニ非スト雖モ亦決シテ爲シ得ヘカラサルモノニ非ス例ヘハ尙ホ國內法ニ不備ノ點アル場合ニ裁判官カ裁判ヲ拒絶スルコト能ハスシテ條理ニ依リテ裁判スルト全ク法理ヲ同ウスルモノナリ而シテ各國カ實際條約及ヒ慣習以外ニ於テ條理ヲ認メタルコトハ歷史上之ヲ證明スルニ難カラサル所ナリ

第五章 國際法ノ淵源

國際法ノ成立シタル根源ハ即チ所謂國際法ノ淵源ニシテ今其主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 外交文書

國家カ互ニ往來交通スル場合ニ互ニ文書ヲ往復セテ其意見ヲ示スコトアリ所謂外交文書是ナリ而シテ外交文書ハ或ハ條約締結ノ先驅ト爲ルコトアリ或ハ條約ノ解釋ニ供セラルルコトアリ或ハ單ニ國際法ノ解釋説明ノ爲メニ之ヲ往復スルコトアリ或ハ將來ノ國際法ニ對スル意見ヲ示スコトアリ要スルニ外交文書ハ國際法ノ説明及ヒ解釋上重要ナルノミナラス往來ノ國際法ノ爲メニ淵源ト爲ルコト少ナカラス今日外交文書ヲ公ニスルノ例ハ歐洲ニ之レアリ英佛埃等ハ孰レモ議院ニ公ニス英ハ其報告書ニ青色ノ表紙ヲ用ヒ佛ハ紫色獨ハ白色埃ハ赤色伊ハ黄色ヲ用之又一私人カ外交文書ヲ編纂シテ公ニスルノ例モ亦敢テ少シトセス例ヘハ「ルノー」氏ノ「アルシスヂ」プロマチツクノ如キ「スタルク」氏ノ條約彙纂ノ如キ「ロロツ」ノ「スターツアルヒ」ノ如キ是ナリ

第二 學說

學者カ國際法ノ發達ヲ促シタルコトハ著明ナル事實ニシテ何人モ之ヲ非認スル者ナカルヘシ然レトモ世間或ハ學說ヲ以テ直チニ國際法ナリト解釋スル者アリ或ハ學者ヲ目シテ立法者ナリトマテ主張スル者アリ然レトモ其全ク誤謬ノ說タルハ敢テ論スルヲ要セス何トナレハ學者ハ眞理ヲ發見スル力アルニ相違ナシト雖モ萬國ニ對シテ主權ヲ有スルモノニ非ス隨テ學者ノ主張スル所ハ政治家ノ參考ト爲ルニ過キササルモノナリ世界ニ於テ有名ナル國際法學者ノ組織ニ係ル萬國國際法學會ノ如キハ國際法ノ發達ニ與リテ大ニ力アルモ萬國カ其決議ヲ國際法ト同視シタルコトハ未ダ之レアラサルナリ加之同學會ハ其決議ヲ實行センカ爲メ往往各國政府ノ贊成ヲ求メタリト雖モ之ヲ却ケラレタルコト屢アリ由是觀之學說カ國際法ノ要素ニ非サルハ明カナリト云フヘシ然レトモ國際法ノ發達ヲ促シ之カ進步ヲ計リタルハ一ノ事實ナルカ故ニ予輩ハ之ヲ國際法ノ淵源中ニ編入セリ

第三 歴史

歴史ハ既往ノ事實ヲ證明スルモノナレトモ往往國際法ノ發達ヲ促スコトアリ

例ハ政治家カ外交ヲ爲スニ當リテ既往ノ歴史ニ照シ其方針ヲ定ムルカ如キ即チ是ナリ此場合ニ各國ノ外交官カ同一ノ方針ヲ採リ國際上一種ノ慣習ヲ馴致スルニ至ルトキハ即チ歴史ハ國際法ヲ作成シタルモノト云フコトヲ得ヘシ是レ歴史カ國際法ノ淵源タル所以ナリトス

第四 法令

一國內ノ法令カ往往國際法ニ影響ヲ及ホスコトアリ例ヘハ外國人取扱規則外國人ノ遺産取扱規則海上規則檢疫規則領事規則等ノ如キ是ナリ千五百年代ニ於テ地中海ノ邊ニ發生シタル「コンゾラード、デール、マールレー」如キハ國際法ニ非常ノ影響ヲ及ホシタルコトハ著名ナル事實ナリトス

第五 裁判例

各國ノ裁判例ハ往往國際法ノ發達ヲ促シタルコトアリ特ニ英國ノ裁判例ハ戰時公法ノ淵源ト爲リタル例頗ル多シ

第六章 國際法ノ管轄區域

國際法ノ行ハルル區域ニ付テハ種種ノ學說アリ之ヲ四種ニ分類スルコトヲ得ヘシ

第一 博愛說

此說ヲ唱フル者ハ以爲ラテ國際法ハ人ノ天性ニ基因スルモノナルカ故ニ苟モ人類ノ棲息スル所ニ國際法ノ行ハレサル理由ナシト「モンテスキウ」^一「ブーフエンドルフ」^二以來獨逸ノ「ブルンチユリ」^三等ノ唱道スル所即チ是ナリ然レトモ此說ハ國際法ノ性質ヲ誤解セルモノナリ何トナレハ既ニ上文ニ説明セン如ク國際法ハ各國ノ合意ニ基因スルモノナレハナリ故ニ合意ヲ表示セサル國民間ニ國際法ノ行ハルヘカラサルハ誠ニ明白ナリト「スプリンチユリ」^四「二派」ノ學者ハ此合意說ヲ否認スト雖モ國際法ヲ遵奉スル能力ナキ國民ニ對シテ何か故ニ國際法ヲ遵奉スルノ必要アリヤノ問題ニ對シテハ何等ノ説明ヲ與ヘス否之ヲ説明スルコト能ハサルナリ博愛說ノ穩當ナラサルヤ此ニ至リテ明カナリト云フヘシ

第二 耶蘇教國ノ間ニ行ハルト云フ說

此説ヲ唱フル者ハ國際法ノ出所ト國際法ノ現狀トヲ混同セルモノナリ蓋シ國際法ハ耶蘇教國タル歐羅巴ニ發生シタルモノニシテ特ニ其發生ハ耶蘇教ノ力ニ依ルコト頗ル大ナリト雖モ今日ニ於テハ北米合衆國南米ノ諸國亞弗利加及ヒ亞細亞ノ一部分ニモ行ハルルコトハ誠ニ明白ナル事實ナリトス蓋シ國際法ハ國家交通ノ必要ニ基因セルコトハ既ニ上文ニ説明セリ然ラハ此必要カ耶蘇教國ノ間ニノミ存在セテ其他ノ國ノ間ニ存在スヘカラサル理由ナキカ故ニ國際法カ耶蘇教國ノミニ制限セラルヘキ理由ナキハ誠ニ明カナル事實ナリ

宗教ヲ基礎トシテ國際法ノ管轄區域ヲ定ムルノ説ハウエーストフハリヤ條約以來漸漸世人ノ非難ヲ被ルニ至レリ就中「グロシユース」「ブーヘンドルフ」等既ニ之ヲ非難セリ近來ニ於テハ之ヲ非難スル者益々多キヲ加フルニ至レリト雖モ尙ホ有名ノ學者中現行國際法ニ歐洲國際法ナル名稱ヲ附スル者鮮カナラス

第三 文明國間ニ行ハルト云フ説

此説ハ前説ニ對スル反動ニシテ國際法ノ根據ヲ相互主義ニ採リ文明國ニ非サレハ國際法ヲ遵奉スル能力ナシト斷定セリ然レトモ文明國トハ果シテ如何ナルモノナリヤノ問題ニ付テハ今日完全ナル管轄ヲ爲ス者ナシ否文明ノ定義ノ明カナラサル今日ニ於テ此問題ヲ解釋スル能ハサルヤ固ヨリ其所ナリトス故ニ此説ハ國際法ノ管轄區域ヲ曖昧ニ付スルモノト云ハサルヘカラス

第四 獨立國間ニ行ハルト云フ説

國際法ノ主體タルカ爲メニハ必スシモ國力ノ同一ナルコトヲ要セス苟モ獨立國ナルニ於テハ國際法ノ主體タルコトヲ得ルモノトス即チ國際法ノ行ハルル管轄區域ハ獨立ノ國家間ニシテ所謂國際法團體ト稱スルモノ即チ是ナリ而シテ國際法ハ同意ニ基因スルモノナルカ故ニ獨立國ト雖モ互ニ交通セサル間ハ國際法ノ管轄區域外ニ立ツモノトス

以上ハ國際法ノ土地ニ關スル管轄ナレトモ尙ホ時ニ關スル管轄ニ付キ一言スルコトヲ要ス蓋シ新法カ舊法ヲ廢スル如ク新國際法カ舊國際法ヲ廢スルハ勿論ナレトモ新國際法ハ將來ニ對シテ效力ヲ有スルニ止マリ既往ニ遡ル力ヲ有セス然レトモ舊國際法ニ依リ得タル權利カ新國際法ノ存在ト抵觸スル場合ニハ之ヲ認ムルコトヲ得サル者トス例ヘハ千八百九十年奴隸貿易禁止條約ノ以

前ニ於テ爲シタル貿易ノ結果新條約實施ノ後ニ奴隷ノ引渡ヲ爲サントスルモ得ヘカラサルナリ

第七章 國民主義

伊太利ノ學者ハ所謂國民主義ナルモノヲ以テ國際法上ノ原則ナリト云ヘリ蓋シ國民ノ定義ハ伊國學者ノ間ニ於テモ頗ル區區ニ岐ルルモ同學派ノ鼻祖タル「マンチニ」ノ定義ニ依レハ「國民トハ國土祖先風俗言語等ヲ共ニシ生活及ヒ團結心ヲ俱ニシ之ニ因リテ結合シタル人類ノ自然的團體ナリ」ト言ヘリ而シテ國民主義ヲ唱フル者ノ說ヲ聞クニ國家ト國民トハ必スシモ同一ニ非ス一國ノ中ニ數多ノ國民ヲ包含スル場合アリ或ハ一國カ一國民ヨリ組織セラルル場合アリ然ルニ國家ハ其性質上必ス一國民ヨリ組織セラルヘキモノニシテ之ニ反スル國家ハ不完全ナル國家ニシテ國際法上ノ主體ト云フコト能ハスト此說タルヤ政治上ノ議論ト國際法上ノ議論トヲ混同セタルモノト云フヘシ何トナレハ一國カ一國民ヨリ組織セラルルコトハ國家ノ生存上大利益アリト云フヲ得ヘキ

モ之ヲ以テ國際法上ノ原則トスルトキハ今日ノ國際法ハ其根本ヨリ破壞セラルルニ至レハナリ蓋シ今日國際法上ノ主體ニハ不完全ナル國家頗ル多ク隨テ其合意ニ基因スル國際法ハ其實國際法タル資格ヲ缺クト云フコトヲ得ヘケレハナリ伊太利學者ハ一國民ヨリ組織セラルル國家ヲ完全ナル國家ト名ク之ヲ以テ真正ナル國際法ノ主體ト爲セリ之ニ反シテ異種ノ國民ヨリ成立スル國家ヲ稱シテ不完全ナル國家ト名ケタリ

伊太利學者ノ說ハ伊太利外特ニ佛國ニ於テ之ヲ贊成スル者尠カラス然レトモ獨逸其他ノ國ニ於テハ之ヲ政治論トシテ却ケタリ但シ此學說カ政治上ニ及ホシタル影響ハ頗ル大ナルモノアリ例ヘハ伊太利統一ノ如キ是ナリ

第八章 權力平均

權力平均ハ果シテ國際法ノ原則ナリヤ此問題ニ付テハ從來種種ノ說ヲ生シタレトモ予輩「ブルメリシク」ト共ニ一ノ政理ナリト斷定セント欲ス而シテ此說ヲ證明スルカ爲メニハ先ツ權力平均ノ意味ヲ明カニセサルヘカラス

從來世ノ大亂ハ權力ノ平均ヲ破リタル結果若クハ權力ノ平均ヲ破ラントスルモノヲ防禦スル結果ニ非サルハナシ例ヘハ「チャーレス」五世「ヒイリッブ」三世「ルイ」十四世「那破翁」一世ノ如キハ歐洲ノ權力平均ヲ破リタルカ爲メニ若クハ之ヲ破ラントセシカ爲メニ諸外國ノ抗敵ヲ受ケテ遂ニ歐洲ノ大亂ヲ醸成シタリ即チ權力平均カ歴史上最モ重大ナル關係ヲ有スルコトハ一ノ事實ナリト雖モ果シテ國際法ノ原則ト視ルコトヲ得ヘキカ先ツ此問題ニ關シテ説ヲ立テタル「ブルンチユリ」ヲ權力平均ニ關スル見解ヲ示スヘシ同氏ハ曰ク「真正ナル權力平均トハ各國カ平和的ニ對立スルヲ云フ」ト而シテ同氏ハ之ヲ以テ國際法上ノ原則ト爲セリ然レトモ此見解ノ不當ナルコトハ左ノ假例ニ徴シテ明カナルヘシ」例ヘハ日本カ國際法團體ニ籍ヲ列スル國ノ多數ヲ併呑シ而シテ僅ニ其二ノ弱邦ヲ殘存シタル場合ニ日本カ尙ホ禮ヲ守リテ此弱邦ト平和的ノ交通ヲ爲セリトセヨ「ブルンチユリ」ノ説ニ依レハ此場合ニモ尙ホ權力ノ平均アリト云ハサルヘカラス何トナレハ平和的ニ對立スル事實存スレハナリ次ニ「フタル」氏ノ説ヲ紹介セシニ同氏曰ク「各國カ他國ニ對シ國際法違反ノ所爲ヲ爲サントス

ルトキハ被害國ノミナラス國際法團體ニ列籍スル國ノ反抗ヲ期セサルヘカラス是レ即チ權力平均ナリ」ト然ルニ「ダフケン」ハ之ヲ駁シテ曰ク「此豫期ハ權力平均ノ結果ニシテ權力平均其モノニ非ス」ト此駁論ハ至ク肯綮ニ當ルモノト云フヘシ「ホルツェンドルフ」ハ曰ク「將來ノ繁榮カ他國ノ生存又ハ獨立ヲ危ウスル程ノ勢力アル優大國ニ對スル總劣小國ノ共同的反對ヲ歐洲權力平均ト謂フ又ダシ「ワ」氏ハ左ノ如ク權力平均ヲ解セリ曰ク「一國カ他國ヨリ抵抗ヲ受ケス且ツ之カ爲メニ危害ヲ被ラスシテ他國ノ獨立又ハ其重大ナル權利ヲ侵害スルコト能ハサル各對立交通國ノ間ニ於ケル組織ヲ云フ」ト而シテ「予」ハ遂ニ左ノ如ク定義ヲ下サントス

權力平均トハ國際法團體ノ一員カ他ノ總員ヲ制壓スル力ナキ狀態ヲ云フ上文ニ説明シタル如ク權力平均ハ歴史上重大ノ關係ヲ有スルモノニシテ此權力平均ヲ維持センカ爲メニハ歐洲諸國カ同盟ヲ結ヒタル例少カラス例ヘハ三十年戰爭ニ於テ佛蘭西瑞典二國カ奧地利ニ對シテ同盟シタル如キ千七百七年英蘭奧諸國カ佛蘭西班牙ニ對シテ同盟シタル如キ又「那破翁」一世ニ對シ歐洲

カ同盟シタルカ如キ又千八百五十一年英佛二國カ埃國ニ對シテ同盟セタルカ如キ即チ是ナリ

特ニ同年ニ於ケル英佛二國ノ同盟ニ付キ英租バルメルストン^ルカ公ニシタル外交文書ニ於テハ明カニ權力平均維持ノ必要ヲ認メタリ又千八百五十六年ノ巴黎條約ニ於テモ又權力平均ノ必要ヲ認メタリ特ニ英國ニ於テハ内亂ニ關スル法律ニ於テ常備軍ハ歐洲ノ權力平均ヲ維持スル爲メニ缺クヘカラサルモノナリ云ト云ヘリ此ノ如ク各國ニ於テ權力平均ノ必要ヲ認ムルコトハ一ノ事實ナリト雖モ之ヲ以テ國際法上ノ原則ナリト云フコトヲ得ス

佛國革命ノ結果歐洲ノ權力平均カ破レタルトキニ「サンピエール」ハ歐洲各國ノ版圖ヲ變更シテ以テ權力ノ平均ヲ保ツヘシト唱道セタレトモ當時一ノ空想トシテ冷笑セラレタリ然レトモ「サンピエール」ノ説ハ後世政治家カ之ヲ口實トシテ其政略ヲ實行シタルコトアリ又「ラッソン」ノ如キハ今日ノ國際法團體ニ小邦ヲ存スルハ却テ權力ノ平均ヲ妨タルモノナルカ故ニ宜ク之ヲ絶滅スヘシト論セタリ然レトモ此等ノ説ハ何レモ權力ノ平均ヲ以テ國際法上ノ原則ト看

倣シタル例證トスルニ足ラス而シテ權力平均カ一ノ政理ナルコトヲ明カニセシトセハ先ツ之ヲ以テ國際法ナリトスル説ノ謬點ヲ指摘スルノ必要アリ

第一 權力平均カ果シテ國際法上ノ原則ナルニ於テハ戰時公法ノ大部分ハ國際法ニ非ストノ結論ヲ爲ササルヘカラス

戰時公法特ニ海戰法ハ殆ト英國ノ海上主權ノ結果ニシテ從來英國カ海上ニ勢力ヲ振ヒタルカ爲メニ途ニ今日ノ海戰法ヲ馴致シタルモノナリ即チ海戰法ハ權力不平均ノ賜ナリ故ニ反對説ノ如ク權力平均ヲ以テ國際法ノ原則ニ非ストスルトキハ海戰ニ付キ國際法ノ原則ナシト云ハサルヘカラス

第二 國家カ其領土ヲ割キ又ハ互ニ併合スルコトハ今日國際法ニ於テ認メラレタル原則ナリトス然ラハ國際法團體ヲ組織スル國ノ多數カ互ニ相併スルモ國際法上ノ權利ヲ行ヒタルニ外ナラサルカ故ニ他國ハ之ニ對シテ抗議ヲ爲スコト能ハス然レトモ權力ノ不平均ハ併合ノ結果トシテ必ス生スヘシ

權力平均ヲ基礎トシテ國際法上ノ權利ヲ主張スルハ今日漸ク其跡ヲ絶ツニ至レリ蓋シ世人カ漸ク權力平均ヲ以テ國際法上ノ原則ト爲ス説ノ不當ナルコト

ヲ悟リタルニ由ルモノトス

第九章 萬國共同觀念

個人カ孤立シテ其生存ヲ全ウスルコト能ハサルト同シク國家モ亦孤立シテ生存スルコトハ容易ノ業ニ非サルカ故ニ遂ニ萬國互ニ相交通往來スルニ至レリ即チ此互ニ相交通往來シ有無ヲ通スルノ必要ヲ萬國ニ於テ認メタルモノニシテ此觀念ヲ稱シテ共同觀念ト云フ而シテ此共同觀念ハ種種ノ方面ニ於テ發露セリ

第一 各國ニ於ケル立法上ニ發露セリ
各國カ國內ヲ閉鎖シテ外國ト交通セサル時代ニ於テハ單ニ一國內ニ於ケル必要ニ迫ラレテ法律ヲ制定スルモノナレトモ一旦外國ト交通スルニ及ヒ其結果トシテ種種ノ法律ヲ制定スルニ至ルハ何レノ國ニ於テモ見ル所ノ事實ナリトス而シテ予輩カ茲ニ所謂立法トハ國際上ニ於ケル法律ノ意味ニ非スシテ單ニ規則ヲ指稱スルモノト知ルヘシ例ヘハ明治三年我國ニ於テ發布シタル局外中

立ノ布告ノ如キ或ハ外國人ノ抵當權其他ノ權利ニ關スル規則ノ如ク或ハ近來制定シタル國籍法ノ如ク何レモ外國ト交通ヲ爲シタル爲メニ生シタル結果ニシテ即チ萬國共同ノ觀念ヲ此等ノ規則ノ上ニ發露シタルモノナリ又外國ニ付テ之ヲ云ハシニ英國ノ如キハ從來所謂生地主義ヲ國籍上ノ原則トシテ認メタル國ナレトモ外國トノ交通頻繁ナルノ結果トシテ遂ニ從來ノ國法ヲ改正シ所謂折衷主義ナルモノヲ採用セリ

第二 司法上ニ發露セル現象

今日交通ノ頻繁ナルヤ外國ノ犯罪人カ內國ニ逃レ來リ內國ノ犯罪人カ外國ニ遁逃スル例實ニ少カラス而シテ此等ノ犯罪人ハ內國ノ刑法ニ觸レサル故ヲ以テ國內ニ留置シ外國政府ノ請求ヲ拒絕スルコトヲ得ハ實ニ外國ノ不幸ノミナラス又內國ノ不幸ト爲ルヘシ何トナレハ內國ノ犯罪人カ外國ニ遁逃シタル場合ニ外國ノ政府モ亦其引渡ノ請求ヲ拒絕スヘケレハナリ果シテ然ラハ法律ノ力ハ事實上微弱ト爲ルニ至ルヘシ是レ今日各國ノ間ニ犯罪人引渡條約ノ締結アル所以ナリトス又外國ニ於テ民事ノ判決ヲ受ケタル敗訴者カ判決確定後內

國ニ來リタル場合ニ内國裁判所ハ往往外國ノ確定判決ヲ執行スルコトアリ例
ヘハ我國ノ執行判決ノ如キ即チ是ナリ凡ソ此等ノ方法タルヤ何レモ萬國共同
觀念ヲ事實ニ表示シタルモノト云フヘシ

第三 行政上ニ發露セル現象

郵便電信ノ事務ノ如キハ一國ノ力ノミニテハ善ク其目的ヲ貫徹スル能ハサル
處アリ殊ニ海底電線ノ如キハ萬國カ共同シテ之ヲ保護スルニアラサレハ其效
果ヲ收ムル能ハサルヘシ又傳染病ノ如キ其害毒ノ及ホス所一國內ニ局限スル
モノニ非サルカ故ニ萬國共同シテ其豫防若クハ撲滅ニ從事スル必要アリ凡ソ
此等ノ必要ハ各國ノ行政機關ヲシテ萬國共同觀念ヲ代表セシムルニ至レリ

第十章 國際法ノ沿革

第一節 古代ノ國際法

第一款 埃及

埃及ノ國民カ外國ト平和的ノ交通ヲ爲セシ事實ハ今日歐羅巴ノ歴史家カ他ニ

比類ナシトシテ驚嘆スル所ナリ蓋シ埃及ノ文明カ夙ニ發達セシコトハ其建築
術其美術天文地理等ノ研究事跡ニ徹シテ明カナリ隨テ當時地中海并ニ亞細亞
ノ諸國カ埃及ノ文明ニ頼リシコトハ固ヨリ其所ニシテ外國貿易ノ盛ナリシコ
トモ亦今日ニ於テ想見スルコトヲ得ヘシ
埃及ハナイル河ノ利澤ヲ蒙ルコト頗ル多ク同國ノ農業カ發達セシコトハ此
河ノ賜ナリト謂フモ過言ニ非サルヘシ此故ニ埃及國民ハ國內ニ於テ經濟上ノ
必要ヲ滿タスコト充分ニシテ更ニ進ンテ外國ト交通スルコトヲ爲サナリシ
ト雖モ他ノ國民ハ競フテ埃及ニ交通ヲ求メ遂ニ盛大ナル外國貿易ヲ見ルニ至
レリ

此ノ如ク外國ト交通ヲ開始スル以上ハ其間ニ外交上ノ關係ヲ發生スルモノ固ヨ
リ其所ナリトス是ニ於テカ往往外國ト戰爭ヲ開始スルニ至レリ又外國民ハ埃及
及ノ富力ヲ見テ之ヲ侵略セント欲シ遂ニ戰爭ヲ開始シタル例少カラス然ルニ
此等ノ戰爭ニ埃及國民ハ毫モ殘虐ノ所爲ヲ爲サナリシコトハ又後世ノ驚嘆ス
ル所ナリトス而シテ埃及國民ハ戰爭ヲ好マヌ且テ戰ニ於テ殘暴ノ風ヲ學ハサ

リシコトハ諸種ノ事實ニ徴シテ之ヲ知ルヘシ例ヘシ今日ニ殘存スル同國ノ碑石ヲ見ルニ僅ニ敵兵ノ斷臂ヲ畫クノミ又ラムゼス第三世ノ如キハ質ト爲シタル敵ノ王女ヲ娶リタルコトアリ又同國ニ於テハ通常外國兵ヲ雇フテ國內ノ守備ニ充テタルコトアリ殊ニ女子カ埃及ニ君臨セシ例少カラス又ハ同國ノ埃及ノ國王ラムゼス第二世ハヘタノ國王ト條約ヲ締結セリ此條約ハ蓋クヘキ材料ヲ包含セリ即チ同條約ニ依レハ條約當事國一方ノ臣民カ罪ヲ犯シテ他ノ一方ノ領地ニ逃ケ入りタルトキニ他ノ一方ハ之ヲ本國ニ引渡スヘキモノトス而シテ犯罪人ノ引渡ヲ受ケタル本國ハ犯罪人ニ對シ殘虐ノ刑ヲ科スルコトヲ得ス又其親族ヲ罰スルコトヲ得サルコト是ナリ此等ノ規定カ古代ノ條約ニ存セシコトハ殆ト吾人ノ豫想外ニシテ今日世人ノ驚嘆スルモ宜ナリト謂フヘシ其他本條約ニ依レハ條約當事國ノ一方ヨリ他ノ一方ニ移住スル者アルトキハ本國政府之ヲ引渡スヘキモノトス又本條約ハ兩國間ニ攻守同盟ヲ結フヘキコトヲ規定セリ

外國貿易ノ盛ナルニ及ヒ外國人ノ埃及國內ニ來リ住スル者頗ル多シ此時ニ方

リ希臘人ハ埃及國ニ於テ一ノ居留地ヲ設ケタリ所謂「ナウクラチス」ナルモノ是ナリ即チ希臘人ハ此居留地ニ於テ一種ノ共和政體ヲ組織シ自由ノ政治ヲ施行セリ然レトモ希臘人ハ必スシモ「ナウクラチス」ニ住スルヲ要セス埃及ノ内地ニ於テ商店ヲ開キ又己ノ信スル宗教ニ據リ自由ニ寺院ヲ設クルコトヲ得タリ但シ此場合ニ於テハ埃及ノ法律ニ從ハサルヘカラス要スルニ埃及ノ「ナウクラチス」ニ於テハ一種ノ治外法權行ハレタリ然レトモ後世ニ生シタル領事裁判權トハ其精神ヲ異ニスルカ如シ何トナレハ後世ノ領事裁判權ハ領事裁判ノ設アル國ヲ信用セサル結果ナレトモ埃及國ニ於ケル治外法權ハ埃及國民ノ標度ヲ示スニ足ルモノニシテ畢竟希臘國民ノ利益ノ爲メニ恩惠のニ之ヲ認メタルニ過キサレハナリ是ニ依リテ之ヲ觀レハ埃及國民カ古代ノ人民中最モ善ク國際法ノ萌芽ヲ助長シタルコトヲ知ルニ足ルヘシ

第二款 「フニシヤ」人

「フニシヤ」人カ古代ニ於テ航業并ニ商業ノ實權ヲ握リシコトハ有名ナル事實

ニシテ隨テ經濟上ノ歴史若クハ商業上ノ歴史トシテ此國民ノ事跡ヲ觀察スルトキハ大ニ趣味アルヘシ例ヘハ航海術ニ精通シ希臘羅馬人ニ其術ヲ傳ヘ又ハ北極星ヲ發見シテ各國ノ航業ニ一步ヲ進メタルカ如キ又商船ノ構造ヲ緻密ニシ始メテ軍艦ヲ造リタルカ如キ又當時ノ物物交換ヲ變シテ貨幣貿易ト爲シタルカ如キ(銀貨ヲ始メテ造リタルハ此國民ナリ)何レモ顯著ナル事跡ナリトス隨テ此國民カ多數ノ國民ト交通ヲ爲シタルコト固ヨリ其所ナリトス而シテ「フニシヤ」人ハ此條約ヲ解釋スルニ當リ常ニ自己ノ利益ヲ計リテ條約ヲ曲解スルコト殆ト其慣手段ニシテ羅馬希臘ノ人民ハ「フニシヤ」人ノ信用スヘカラサルコトヲ一ノ謔ニ作リテ後世ニ傳ヘシ程ナリト云フ(拉典語ノ所謂「ブニカ」フ「非デス」)如キ是ナリ要スルニ「フニシヤ」人ハ國際法ノ沿革上吾人ニ惡例ヲ遺シタリ

第三款 「パピロン」及ヒ「アツシリヤ」

亞細亞ノ西部ニ於テ繁盛ナル都府ヲ開キテ東西ノ交通并ニ貿易ヲ互ニ聯結シタルモノハ實ニ「パピロン」人ナリトス「パピロン」人ノ文明ハ埃及人ニ及ハスト雖モ他ノ未開ノ人民ニ及ホシタル勢力ハ決テ少カラズ殊ニ同國ノ文字ハ諸國ニ傳播シテ大ニ他國ノ文明ヲ裨益セタリ而シテ「パピロン」人カ他ノ諸國ト交通スルニ方リ條約ヲ締結セルコト其例ニ乏シカラス此條約ハ通商條約若クハ同盟條約ニシテ其中今日ニ傳リタルモノ亦少カラズ然レトモ此等ノ條約タル今日ノ國際法ノ發達ヲ助ケタル程重要ナルモノニ非ス

次ニ「アツシリヤ」人ノ事ヲ説明セ「アツシリヤ」人ハ「ニニベ」ノ開市以來大ニ國力ヲ増進シ隨テ兵力ヲ以テ外國民ヲ征服シタル例少カラス然レトモ「アツシリヤ」人ハ戰爭ニ於テ殘虐ノ例ヲ後世ニ遺シタリ例ヘハ敵ノ俘虜ヲ安ニ殺戮シ或ハ敵ノ市府ヲ焚燬シタルコト屢之アリ又敵ト交戦スルニ方リ安ニ殘虐ノ所爲ヲ爲セシコトハ歴史ノ證明スル所ナリ然レトモ「アツシリヤ」人ハ敵ノ領地ヲ畧取スルコトヲ爲サス其財貨ヲ奪フテ國王ノ寶庫中ニ入ルルヲ例トセリ

「パピロン」人及ヒ「アツシリヤ」人カ各國ニ派遣シタル公使并ニ各國ヨリ「パピロン」及ヒ「アツシリヤ」ニ派遣シタル公使ハ後世ノ公使ト其趣ヲ異ニス蓋シ當時ノ公

使ハ駐在國ノ國王ノ名譽ヲ表示スルカ爲メニ設ケラレタルモノニシテ公使ノ名譽ヲ毀損スルハ即チ駐在國ノ君主ノ名譽ヲ毀損スルモノト看做サレタリ

第四款 波斯

波斯ハ其國力ノ増加セシ時ニ方リ隣國ヲ併呑シテ西ハ埃及東ハ印度ノ國境ニ及ヒタリ然ルニ一旦隣國ヲ併呑スルヤ之ニ對シテ施ス所ノ政治ハ頗ル穩和ニシテ後世ノ歴史家ハ波斯ノ領セシ全土ニハ一種ノ聯邦政治行ハレタリト云ヘリ而シテ波斯國民カ諸外國ト締結シタル條約ヲ見ルニ何レモ穩和的ノモノナリ殊ニ外國人ニ對スル感情ハ頗ル公平ナルモノニシテ埃及人ニ優レルカ如クハ波斯人カ外國ト戰爭ヲ爲スニ方リ殘虐ノ所爲ヲ爲サザリシコトハ後世ノ賞讃スル所ナリトス隨テ敵國ト締結シタル媾和條約ヲ見ルニ戰敗國ヲ苦ムル條件ヲ掲グルコト少ク

第五款 猶太人

猶太人カ宗教政治ヲ行ヒシ爲メ後世ノ國法學者ハ政教一致論ヲ辨明スルニ方リ猶太人ノ制度ヲ參考ニ供スルモノ往往ニシテ之アリ然ルニ猶太人ノ制度ハ獨リ國法學者ノ材料ト爲ルノミナラス國際法學者ノ爲メモ亦材料ヲ供スルコト少カラス而シテ猶太人ノ法律思想ハ古代ニ於テ之ヲ證明スルコトヲ得ルノミナラス今日ニ於テモ學者ノ之ヲ驚嘆スルモノ頗ル多シ而シテ猶太人ハ國家ノ滅亡以來四方ニ流寓シ今日尙ホ諸國民ノ迫害ヲ受クルニ拘ラス將來新ニ國家ヲ組織スル企圖アリト云フ
法律家ハモゼズテ十戒ヲ以テ法律學ノ總テノ原則ヲ網羅シタリト云フ者アリ而シテ猶太人ハ外國ノ人民ト交通ヲ爲スニ方リ種種ノ條約ヲ締結セシカ其條約ハ今日ヨリ觀ルモ秘密ノ思想ヲ表示スル點頗ル多シ唯猶太人ハ宗教ト政治トヲ混同スル人民ナルカ故ニ異宗ノ人民ヲ見ルコト公平ナラスシテ往往殘虐ノ所爲ヲ加ヘタルコト其例少カラス

第六款 希臘

希臘國民カ外國ト交通往來シ若クハ之ヲ戰闘ヲ開始スル場合ニ於テ爲セシ所ヲ見ルニ其文明的ノ舉動ハ人ヲシテ敬服セシム學者ハ往往國民ノ性質ヲトスルニハ其國民ノ國風ニ徴スルヲ可トスト例ヘハ猶太國民ノ國風ニハ殺伐ノ習ヲ含ム者多シ隨テ其國民カ温和ノ性質ヲ有セサルコトヲ知ルベシ之ニ反シテ希臘國民ノ國風ニハ更ニ殺伐ノ習ナク隨テ其國民ノ温和ナル性質ヲ知ルニ見ルヘシト希臘國民ノ歴史ヲ觀ルニ是等ノ學者カ云ヒシ如ク殺伐ノ風ナシ例ヘハ敵國ト戰爭ヲ爲サントスルトキハ安ニ其國內ニ侵入スルコトヲ爲サス豫メ敵國ニ使節ヲ派遣シテ希臘國民ノ被フリタル損害ノ事情ヲ開陳シ其賠償ヲ請求スルヲ常トシ敵國カ此請求ヲ容レサルトキ始メテ開戦ノ布告ヲ爲セリ殊ニ驚クヘキハ戰爭ヲ爲ス前往往仲裁裁判ニ由リテ國家間ノ爭論ヲ決定シタルコト是ナリ而シテ此仲裁裁判ヲ爲スカ爲メニハ或ハ第三國ヲ選シテ裁判セシムルコトアリ或ハ一名若クハ數名ノ人民ヲ選シテ仲裁裁判官ト爲スコトアリ或ハ爭論ヲ爲ス國家ノ臣民ヲシテ互ニ決闘ヲ爲サシメ爭論ヲ決定セシコトアリ

希臘國民カ彌々戰爭ヲ開始スルトキハ戰爭ニ關係ナキ者ノ利益ヲ可成保護スルコトヲ力メタリ吾人ハ已ニ希臘國ニ所謂中立人及ヒ中立物ノ制度ヲ見タリ即チ僧侶又ハ觀戰者ハ中立人ト看做シ其身體ヲ保護スルコトヲ力メタリ又寺院并ニ之ニ附屬スル物品ノ如キモ戰爭上之ヲ侵害スルコトヲ許サス若シ之ヲ侵害者アルトキハ重キ刑ニ處セラレタリ又後世歐羅巴ニ起リタル所謂容隠權ハ已ニ希臘ニ認メラレタリ即チ寺院内ニ逃入りタル敵兵ハ之ヲ殺戮シ若クハ捕獲スルコト能ハサリキ

戰場ニ於テ戰死シタル敵ノ死體ハ充分之ヲ保護シ之ニ對シテ殘虐ノ所爲ヲ加フルコトヲ許サス又敵國ヨリ敵兵ノ死體ヲ埋葬スル爲メ人夫ヲ派シタルトキハ六ニ害ヲ加ヘスシテ自由ニ埋葬ヲ爲サシメタリ然ルニ敵國ノ財産ニ至リテハ人民ノ財産タルト否トヲ問ハス總テ之ヲ奪略スルヲ例トシ其十分ノ一ハ之ヲ寺院ニ奉納シ其餘ハ悉ク之ヲ軍人ニ分配セリ敵兵ヲ虜ニシタルトキハ當時ニ於テハ他ノ國民ノ如ク之ヲ虐待スルコトヲ爲ササルノミナラス當時專ラ行ハレタル凱旋ノ行列ニモ俘虜ヲ用フルコトヲ避

ケタリ

希臘國民カ戰爭ヲ終結スルニ方リ締結セタル條約ヲ見ルニ何レモ其期限ヲ定メタリ而シテ大抵十年若クハ五年等ノ短期ニシテ百年ニ至ルモノハ殆ト稀ナリ然レトモ此期限ノ滿了セタル後ト雖モ當然戰爭ヲ再ヒスルモノニ非ス又條約ニ定メタル期限内ト雖モ戰爭ノ原因ト爲ルヘキ事實ヲ生シタルトキハ勿論戰爭ヲ爲スコトヲ妨ケサリキ

希臘國民カ實行セタル國際法ニハ人質ノ制ヲ認メ男子ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トセリ

又希臘國民カ條約ヲ締結シタルトキハ之ヲ碑面ニ刻スルヲ例トセリ蓋シ條約ノ正文ヲ後世ニ證明セシカ爲メナルヘシ然レトモ希臘國民ハ往往自ラ建立シタル碑石ヲ破壊シタルコトアリト云フ

希臘國民ハ外國ノ公使ヲ非常ニ尊重セリ殊ニ其公使ノ本國ト戰爭ヲ開始スル場合ニ於テ其公使ノ身體ヲ充分保護スルコトヲ力メタリ而シテ公使カ戰爭開始後尙ホ國內ニ止マルトキハ之ヲ追放スルコトヲ爲サス

以上ハ希臘國民カ戰時ニ於テ實行セタル國際法ノ一般ナリトス今左ニ希臘國民カ實際行ヒタル平時國際法ノ一斑ヲ示スヘシ希臘國民カ締結シタル條約ハ甚タ多シト雖モ就中最モ重要ナルモノハ同盟條約政權付與條約并ニ宗教條約ノモノナリトス而シテ此等ノ條約中最モ重要ニシテ且ツ條約當事者國ノ數ノ多キ者ヲ宗教條約トス此條約ニ依レハ希臘國民ハ同一ノ神ヲ信スルカ爲メニ此神ノ祭祀ニ供スル寺院其他ノ物件ヲ互ニ保護スル義務アリ若シ條約當事國ノ一方カ此條約ニ違反スルトキハ他ノ當事國ハ之ニ對シテ戰爭ヲ宣告スルコトヲ得ヘシ而シテ希臘國民ハ此條約ヲ締結セシ以來大ニ共同ノ觀念ヲ増加シ益々團結力ヲ堅クスルニ至レリ是ニ於テ希臘國民カ平時互ニ交通往來スル上ニ於テモ國際關係ヲ平和的ニ整理スルコトヲ得タリ

希臘國民ハ外國人ヲ寛待スル美風アリ隨テ平時ニ於ケル國際關係ニ現ハルル所ノ諸現象ハ外國人ヲ劣等視スルモノ殆ト少シ唯政治ニ參與スル權利ニ至リテハ今日ニ於ケルト同シク外國人ニ與ヘサルヲ例トス然レトモ往往外國人ニ此權利ヲ與フル必要生スルコトアルトキハ所謂政權付與條約ヲ締結シタリ此

條約ニ依レハ條約當事國ノ臣民ハ議會ニ出席シ又ハ官吏ト爲ルコトヲ得タリ」此ノ如ク希臘人ハ一般ニ外國人ヲ寬待スル風アリシカ後世「スバルタ」ニ「リク」ル「グ」出テ憲法ヲ制定セシ以テ「スバルタ」入ハ大ニ外國人ヲ擯斥スルニ至レリ「クルグ」以爲ラク外國人「スバルタ」ノ士氣ヲ壞廢スルモノナリト蓋シ當時希臘以外ノ國ヨリ希臘諸國ニ來リタル外國人ハ多クハ商人ニシテ利益ノミヲ圖ル者ナルカ故ニ「スバルタ」入ヨリ擯斥セラレタルハ故ナキニ非サルナリ希臘諸國ニ於テ殊ニ寬待セマハ希臘ノ神ヲ禮拜センカ爲メニ希臘國內ニ來リタル外國人ナリト云フ

希臘國民カ締結シタル條約中最モ重大ナルモノハ所謂宗教條約ナリトス此條約ハ祭祀ヲ目的トスルモノニシテ此條約ヲ締結シタル當事國カ條約ニ違反シタル場合ニ於テ他ノ部分ハ之ニ對シ戰爭ヲ宣告スルコトヲ得ヘシ此條約ヲ締結シタル國ハ毎年春秋二季ニ委員ヲ一定ノ地ニ派遣シテ種種ノ國際問題ヲ審議セム面シテ此條約ヲ締結セシ以來希臘國民ノ團結力ハ益々鞏固ニ至リシト云フ

次ニ政權付與條約ノコトヲ説明スヘシ希臘國民ハ自國內ニ於テ公權ヲ享有スルコトヲ外國人ニ許サザリシカ政治ノ必要上一定ノ外國臣民ニ此權利ヲ與ヘントスルトキハ先ツ其本國ト條約ヲ締結スルコトヲ例トス所謂政權付與條約ナルモノ是ナリ而シテ此條約當事國ノ臣民ハ他ノ當事國ノ議會ニ出席シ又ハ官吏ト爲ルコトヲ得タリ

希臘國民カ外國人ヲ寬待セシ風ハ頗ル盛ニシテ殊ニ希臘ノ寺院ニ巡拜スル爲メニ來リタル外國人ハ大ニ之ヲ寬待セシト云フ此ノ如ク外國人ヲ一般ニ寬待セシカ故ニ往來之ニ特權ヲ與ヘタルコトアリ例ヘハ内地ヲ通行スルニ當リ關稅ヲ免除シタル如キ是ナリ而シテ外國人カ希臘國內ニ永住スル場合ニ於テ不動産ノ所有ヲ許シタルコトアリ又今日ノ國際上ニ見ルコトヲ得サルモノアリ即チ外國人ニ兵役ヲ課シタルコト是ナリ蓋シ今日ニ於テハ外國人ニ兵役ヲ課セサルヲ原則トス但シ無籍人ニ兵役ヲ課スルノ例ハ今日歐洲ノ一國ニ於テ之ヲ見ルノミ

第七款 羅馬

羅馬國民カ戰爭ヲ爲ス場合ニ於テハ二個ノ要件ヲ必要トセリ假リニ之ヲ實質上ノ要件及ヒ形式上ノ要件ト名クヘシ實質上ノ要件ハ三アリ其第一ハ外國人カ羅馬ノ領地ヲ侵害シタル場合ニシテ第二ハ羅馬ノ公使ヲ侮辱シタル場合第三ハ條約當事國カ條約ニ違反シタル場合はナリ蓋シ羅馬人ノ思想ニ依レハ一定ノ要件ヲ具ヘタル戰爭ハ神意ニ適スルモノナリト是ニ於テカ以上三個ノ場合以外ニ戰爭ヲ爲スハ全ク神意ニ忤ルモノナリトセリ

外國人民カ羅馬ノ領地内ニ來リテ財産ヲ侵奪シ又ハ人ヲ殺シ火ヲ放ツ等ノ場合ニハ羅馬ノ領地ヲ侵害シタルモノニシテ即チ羅馬人ノ權利ヲ侵害シタルモノナルカ故ニ不法ノ所爲トシテ必ス神ノ怒ルモノナリト看做シタリ又條約當事國カ羅馬ト締結シタル條約ニ違反シタル場合若クハ羅馬ノ使節ヲ侮辱シタル場合ハ何レモ羅馬ノ神ノ激怒スル所ニシテ懲戒ヲ加フヘキ理由アリト認めラレタリ

以上ノ要件ヲ備ヘタルトキハ羅馬國民ハ先ツ使節(フエチアーレン)ト名クルモノヲ國境ニ送リ外國ノ使節ト外交談判ヲ開始スルヲ例トス而シテ羅馬ノ使節ハ先ツ其權利ヲ侵害セラレタル理由ヲ説明シ以テ賠償ヲ求ム然レトモ此請求ニ付テハ即答ヲ要セス一定ノ期間ヲ與フルヲ例トシ若シ此期間内ニ加害國カ回答ヲ爲ササルトキハ始メテ此加害國ニ對シ戰爭ヲ宣告スルモノトス而シテ戰爭ヲ宣告スルニ方リテハ更ニ一定ノ使節ヲ國境ニ送ルモノトス此使節ハ宣戰ノ印トシテ槍ヲ加害國ノ領地内ニ投ス此ノ如ク羅馬國民ハ實質上ノ要件ト形式上ノ要件トヲ備フル場合ニ非サレハ戰爭ヲ爲ササルカ故ニ當初外國民ト戰爭ヲ爲シタル例ハ頗ル僅少ナリ然レトモ右ニ述ヘタル實質上ノ要件ハ後世ニ至リ全ク無用ト爲レリ

羅馬國民ハ晩年外國ト安ニ戰爭ヲ開キシモ開戰前戰爭ノ宣告ヲ爲スコトノミハ之ヲ認メタリ蓋シ羅馬ノ領地カ漸漸廣大ト爲ルニ隨ヒ從來ノ方式ヲ守ルコト能ハサルカ故ニ單ニ敵國ニ開戰ノ旨ヲ通知スル風習ヲ開クニ至レリ而シテ一旦戰爭ヲ開キタル後ハ希臘國民ト異ナリ中立人又ハ中立物ヲ認メス敵兵

ヲ殺戮スルハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ認メタリ即チ敵兵カ降服シタル後ト雖モ之ヲ殺戮スルコト屢是アリ而シテ敵國人民ノ財產又ハ敵國政府ノ財產ハ之ヲ奪略スルヲ例トス唯其奪略品ノ幾部分ヲ寺院ニ奉納セシコトハ希臘國民ニ異ナラサルカ如シ抑モ羅馬國民カ此ノ如ク敵兵ヲ虐待セシハ全ク戰爭ヲ以テ神意ニ敵スルモノナリトノ觀念ニ出ルカ如シ即チ敵國ハ羅馬ノ神ニ對スル敵ナレハナリ

羅馬國民カ通商條約ヲ締結シタルコトハ今日ニ於テ之ヲ知ルコト能ハスト雖モ同國民カ同盟條約ヲ締結シタルハ明白ナル事實ナリトス此條約ハ大抵戰後ニ締結セラルルモノニシテ羅馬ノ國民ハ特ニ媾和條約ヲ締結セス何トナレハ羅馬國民ノ爲メニ滅亡セラレタル國民ハ媾和條約ヲ締結スルノ必要ナク之ニ反シテ羅馬ト戰爭ヲ爲スモ之カ爲メニ亡ホサレサル國民ハ羅馬國民ト將來同盟國タル事實ヲ舉クル必要アレハナリ蓋シ羅馬人ノ考ニ依レハ諸外國ハ羅馬ノ同盟國ニ非サレハ必ス敵國タリ隨テ羅馬ト同盟ヲ結ハサルトキハ敵國ト看做サレ種種ノ不利益ヲ招クノ虞アリ

羅馬國人カ締結シタル同盟條約ニハ對等的ノ條約アリ不對等的ノ條約アリ而シテ羅馬ト不對等的ノ條約ヲ締結セル國ハ何レモ小國ニシテ羅馬ノ保護ヲ受クルヲ以テ同盟條約ノ本旨ト爲ス而シテ羅馬國民カ同盟條約ヲ締結スルニ力ヲハ種種ノ宗教的儀式ヲ用ヒタリ

羅馬國民カ條約ニ違反スル例ハ當初頗ル少カリシカ後世ハ全ク之ニ反シ條約ニ違反セシ例屢之アリ殊ニ帝政時代ニ至リテハ一層甚シク故ラニ條約ニ違反シテ敵國ノ挑戰ヲ待チタルコトアリト云フ而シテ羅馬國民ノ締結シタル同盟條約ハ何レモ皆攻守同盟ナリ

右ニ示シタル同盟條約ニハ人質領地割讓等ノコトヲ規定スル例頗ル多シ然レトモ領地割讓條約ノ如キハ至テ簡單ナルモノニシテ今日ノ割讓條約ト同一ノ談ニ非ス

羅馬國內ニ外國人カ逃レ來リタル場合ニ羅馬國ハ此犯罪人ヲ本國政府ニ引渡シタリ又羅馬ニ於テ罪ヲ犯シタル外國人カ其本國ニ逃ケ歸リタルトキハ本國政府ニ對シテ犯罪人ノ引渡ヲ要求スルヲ例トセリ又羅馬人カ羅馬國ニ於テ罪

ヲ犯シ外國ニ遣レタル場合ニ於テモ其引渡ヲ請求スルコトヲ例トセリ而シテ此等ノ外交事務ヲ掌ル官吏ヲ稱シテ「フェチアーレン」下謂ヒ又此官吏ノ掌ルヘキ外交事務ノコトヲ定メタル規則ヲ稱シテ「ユス、フェチアーレ」外交法ト譯スヘキモノナランカ)下謂フ此ノ如ク羅馬人ハ一種ノ國際法ヲ有シタルモノナレトモ同國ノ國力漸漸増加スルニ至リ殆ト之ヲ無視スルニ至レリ羅馬ニ行ハレタル「ユス、ゲンチニ」ト以テ羅馬ニ行ハレタル國際法ナリト謂フ者アリ而シテ此等ノ學者ハ所謂國際公法ト同視セリ然レトモ其規定スル所ヲ觀ルニ羅馬人ト外國人トノ間ニ生シタル關係又ハ外國人間ニ生シタル關係ノミヲ規定スル法律ナルカ故ニ寧ロ國際私法ニ類スルモノト謂フヘシ要スルニ「ユス、フェチアーレ」以テ國際法ト觀ル方正當ナランカ但シ今日ノ國際法ト相違スル點ハ羅馬國民カ作リタル法律ナルニ在リ

第二節 中世

第一款 耶蘇教

耶蘇教ノ本旨ハ政治ト宗教トヲ分離スルニ在ルカ故ニ當初耶蘇教ノ寺院カ政治ニ曠ヲ容レサリシコトハ一ノ事實ナリシト雖モ後世耶蘇教ノ寺院カ漸漸勢力ヲ有スルニ至ルニ及ヒテ寺院ハ人民ニ對シ往々政府ト同様ノ權力ヲ有シ政府ト寺院トハ社會ニ於ケル二大勢力ト爲ルニ至レリ羅馬法王「グレチニス」ハ既ニ第五世紀ニ於テ此事ヲ公言セリ其後寺院ノ勢力益々盛ナルニ至リ寺院ハ政府ニ比シ優等ノ地位ヲ有スヘキモノナリトノ說ヲ爲ス者漸漸多キヲ加フルノミナラス此事實ハ實際ニ現ハレタリ即チ寺院ハ法律ヲ制定シ裁判ヲ爲ス等ノ權力ヲ有スルノミナラス寺院ハ其利益ヲ圖ルカ爲メニ諸國ノ君主ヲシテ戰爭ヲ爲サシメタルコトアリ

當時寺院ハ隱密權ヲ有シ寺院ノ建物内ニ逃込ミタル犯罪人ハ之ヲ政府ニ引渡ササルノ權利アリ又一定ノ祭日ニハ租稅ノ義務ヲ免除スルヲ例トセリ又寺院ハ奴隸ノ制度ニ痛ク反對セシノミナラス高利ヲ嚴禁セシ等ノ事實アリシカ爲メ人民カ寺院ヲ尊奉スルノ念一層深厚ト爲レリ

各國ノ政府カ宗教ニ關スル規則ヲ制定セントスルトキハ必ス寺院ノ承諾ヲ經

サルヘカラス而シテ各國ノ政府ニ於テ制定シタル規則カ寺院ノ承諾ナキ爲メ無効ト爲リタル例少カラヌ又羅馬法王カ外國ノ君主ニ對シ廢王ノ宣告ヲ爲シタルコトアリ要スルニ當時寺院ハ人民ニ對シテ非常ノ勢力ヲ有セシカ故ニ各國政府カ之ニ對抗スルコト能ハナリシハ勿論ナリトス隨テ寺院ハ宗教ニ關スル事項ノミナラス宗教以外ノ事項ニモ干涉ヲ試ミタリ斯ク寺院ノ勢力最モ盛ナリシ時代ハ第十二世紀ヨリ第十四世紀ニ至ルマテナリトス然ルニ寺院ノ勢力カ漸ク減スルニ及ヒ寺院ハ宗教ニ關スル規則ヲ制定スルニ當リ少シク宗教以外ノ事項ヲ含ムトキハ各國政府ノ承諾ヲ經ル例ヲ生シタリ而シテ此承諾ハ條約ノ形ヲ以テ表示セラレルヲ例トス所謂「コンコルダート」ハ此時ニ始マレリ(千四百四十八年當時「コンコルダート」中ニ規定セシモノハ多クハ僧侶ノ財産ニ關スル事項又ハ僧侶ノ裁判權ニ關スル事項ナリトス

耶蘇教ハ一般ニ外國人ヲ嫉視スル念慮ヲ薄カラシメタル點ニ於テ少クトモ國際法ノ沿革上效益アリタルモノナレトモ寺院カ其勢力ヲ擡ニセシ時ニ當リ起リタル戰爭ハ殘虐ノ分子ヲ含ミタル點頗ル多シ殊ニ宗教ノ爲メニ戰爭ヲ起シタル場合ニ耶蘇教徒ハ互ニ暴虐ヲ行ヒタリ

第一款 回回教

「マホメット」ハ其經典コーランニ於テ教ヘテ曰ク「若シ「マホメット」ノ教ヲ信セザル者アルトキハ劍ヲ以テ之ヲ征服スヘシ」ト要スルニ「マホメット」ノ精神ハ回回教ヲ以テ全世界ニ行ハルル宗教ト爲サントスルモノニシテ其方法ハ平和的ナルヲ要セスト謂フニ在リ而シテ「マホメット」ハ又天命ノ教竝ニ魂魄不死ノ教ヲ傳ヘシカ故ニ此教ヲ奉スル者ハ戰爭ヲ爲スコトヲ好ミ勇敢ノ風ヲ馴致セリ隨テ回回教徒ハ屢々外國ト戰爭ヲ爲シシカ一種ノ戰時公法ヲ守リタリ即チ開戰前先ツ敵國ニ使者ヲ送リテ回回教ニ改宗シ且ツ貢物ヲ納ムヘキコトヲ要求シ敵國カ此要求ヲ聽カサル場合ニ始テ戰ヲ開始セタリ而シテ戰爭ヲ開始シタルトキ敵國政府又ハ人民ノ財貨ヲ略奪スルコトハ之ヲ認メタリト雖モ一定ノ法則ニ依リテ之ヲ行ヒタルカ如シ又回回教徒ハ戰時禁制品ノ制度ヲ認メタリ即チ一種ノ局外中立ノ制度カ該教徒中ニ行ハレタルコトヲ知ルヘシ

回回教徒カ敵國ニ於テ軍事上ノ負擔ヲ課シタル例ヲ觀ルニ今日ノ國際法ニ類
 似スル點頗ル多ク殊ニ歎服スヘキハ回回教徒ノ法律書ニ敵兵ノ鼻耳等ヲ殘害
 セサルコト戰爭中外國公使ニ侮辱ヲ加フヘカザルコト、俘虜ヲ虐待セザル
 コト、戰爭中毒物ヲ使用スルコトヲ禁スル等ノ規定アリシコト是ナリ抑モ此等
 ノ規定ハ歐羅巴諸國ニ於テハ近世ニ至リ始テ生シタル原則ニシテ回回教徒
 カ千有餘年前ニ於テ此ノ如キ法律ヲ制定セシコトハ實ニ吾人ノ意想外ナリト
 ス蓋シ千八百五十四年ノ露土戰爭並ニ千八百七十年ノ普佛戰爭ニ於テ佛蘭西
 ノ傭兵タル「チュルコース」兵カ獨逸ノ兵並ニ露西亞ノ兵ニ對シテ殘暴ナル所爲ヲ
 行ヒシ時ニ當リ世人カ之ヲ非難セシコトハ國際法史上ニ於テ抹殺スヘカラサ
 ル事實ナリトス今回回教徒ノ法律ニ記載シタル右ノ事項ト「チュルコース」兵ノ所
 爲トヲ對照セハ回回教徒カ豐富ナル國際法上ノ智識ヲ具ヘルコトヲ證スルニ
 餘リアリ又回回教徒ノ法律中ニ記載セタル俘虜ノ規定ノ如キ該教徒ノ襟度ヲ
 窺フニ足ル當時回回教徒カ戰ヒタル國民例ヘハ波斯人ヲ見ルニ俘虜ヲ虐待セ
 シコト甚ク一旦敵兵ヲ俘虜ト爲セタル後其身體ニ害ヲ加ヘ若クハ奴隸ト

シテ之ヲ苦役シタリ然ルニ回回教徒ハ其捕ヘタル所ノ波斯人ヲ優遇セシノミ
 ナラス本國ニ之ヲ送還シタルコトアリト云フ又回回教徒ハ原狀回復ヲ認メタ
 リ此ノ如ク回回教徒ハ國際法ノ沿革上實ニ特筆大書スヘキモノナレトモ外國
 人民ヲ征服スルコトヲ主眼トセシカ故ニ平時國際法ト認ムヘキモノ殆ト之ナ
 カリキ但モ外國ノ公使ヲ優遇セシ事實ハ疑フヘカラス

第三款 國ノ平和及ヒ神ノ平和

中古歐洲ニ於ケル各國ノ法律カ充分國內ニ行ハレナリシカ故ニ爭訟ヲ決スル
 爲メニ人民カ武器ヲ弄スル風益々盛ナルニ至レリ是ニ於テカ寺院ハ所謂神ノ平
 和ナル制度ヲ設クルニ至レリ此制度ニ依レハ一定ノ祭日ニハ如何ナル事情ア
 ルモ武器ヲ弄スルコト能ハス若シ此禁制ヲ犯セハ寺院ノ規則ニ從ヒテ罰セラ
 レタリ然ルニ寺院ノ罰則ノミニテハ充分弊風ヲ防クコト能ハナリシカ故ニ各
 國ノ君主及ヒ貴族ト一ノ條約ヲ結ヒ安ニ武器ヲ弄スルコトヲ禁スルニ至レリ
 此條約ヲ稱シテ國ノ平和ト謂フ然ルニ此條約ハ後世一變シテ法律ト爲ルニ至

第四款 騎士

騎士ハ日耳曼人ノ武勇ヲ經トシ而シテ宗教心ヲ縛トシ當時ノ社會ニ行ハレタル總テノ弊風ヲ除カンコトヲ目的トシ殊ニ耶蘇教ヲ保護スルコトニ力メタリ隨テ其社會ニ及ホシタル效力ハ頗ル大ナルモノアリ即チ騎士ノ制度カ完成セル時代ニ於テハ又敵ノ婦女子又ハ老幼ヲ保護シ寺院ノ隱容權ヲ認メタル等要スルニ從來ノ戰爭上ノ弊風ヲ大ニ矯正セリ又騎士ハ俠勇ヲ以テ自ラ任セシ結果トシテ大ニ禮讓ヲ重シ餘風ハ各國ノ朝廷ニマテ及ヒ外交上禮讓ヲ重ンスル風實ニ此時ニ胚胎ス

第五款 通商

歐羅巴ノ中原カ蠻民ノ爲メニ蹂躪セラレシ時ニ於テ獨リ伊太利ノ「ヴェネジヒ」「アマルフ」等ハ兵亂ヲ免レ貿易ヲ盛ニ營ミタリ而シテ一方ニ於テハ地中海ニ

散在スル諸島ハ十字軍以來東西交通ノ媒介ヲ爲シシカ爲メニ伊太利及ヒ其近海ハ第十二世紀以來通商ノ中心ト爲レリ而シテ通商ノ發達ト共ニ各種ノ商慣習亦生スルニ至レリ而シテ此商慣習ハ時ヲ經ルニ隨ヒ伊太利以外ノ國ニモ行ハルルニ至リ殆ト歐洲ノ通商ハ此商慣習ノ管轄ニ屬スルニ至レリ當時生シタル商慣習ノ中最モ注意スヘキモノハ株式銀行手形保險商號運送取扱業等ニ關スルモノ是ナリ當時伊太利ノ「フローレンツ」ニ行ハレタル手形ノ制度ハ頗ル發達シタルモノニシテ今日ニ於テモ之ヲ模範トスヘキ點甚タ多シト云フ此ノ如ク伊太利ノ商法ハ各國ニ行ハレタルカ故ニ後世ノ學者ハ往往伊太利ヲ以テ四大法ノ母國ナリト謂ヘリ蓋シ民法寺院法商法及ヒ貴族ノ制度カ各國ニ於テ採用セラレタレハナリ

次ニ海商ノコトニ付テ一言スヘシ中世ニ於テハ海上ニ於テ難破シタル船舶ハ海岸ノ屬スル國ノ所有ニ歸シタリ加之各國ハ往往海賊ヲ公認シタル例アリ蓋シ當時ノ思想ニ依レハ海水ノ幾部分ハ海岸ノ屬スル國ノ所有ニシテ此海水ヲ通行スル船舶ハ通行稅ヲ拂フヘキ義務アルノミナラス難破シタル場合ニ於テ

海岸ノ屬スル國ノ爲メニ取得セラレハ海水ニ對スル所有ノ結果ナリト信セ
 リ然ルニ海賊ノ斃害少カラナリシカ爲メ第十五世紀以來其跡ヲ滅スルニ至リ
 シト雖モ同時ニ所謂私艦免狀ナルモノ各國間ニ行ハルルニ至レリ蓋シ私艦免
 狀ナルモノハ人民ニ軍艦ヲ擬裝スルコトヲ許ス書面ニシテ此書面ヲ所有スル
 者ハ戰爭ノ際敵國ノ船舶其他ノ財產ヲ奪略スルコトヲ得タリ當時私艦免狀ヲ
 有スル者ハ其本國ノ海軍ヲ輔翼スヘキモノナリシカ故ニ各國ニ於テ私艦免狀
 ヲ下付セシム故ナキニ非ス

第十三世紀以來歐洲各國ニ於テ鎮守府ヲ設クルニ至レリ鎮守府トハ一種ノ裁
 判所ニシテ海上ニ於テ起リタル犯罪並ニ海上ノ通商航海ヨリ起リタル民事ノ
 訴訟ヲ裁判セリ其他沈没シタル船舶ノ引上ケ船舶ノ難破等ニ關スル事務ヲ管
 轄セリ又戰爭カ起リタル場合ニ海軍ノ司令權ヲ握有セリ而シテ此鎮守府ニ於
 テ適用セラレタル法律ハ羅馬法ナリトス

當時歐洲ニ行ハレタル商法ヲ分テテ四箇ト爲スコトヲ得ヘシ即チ歐洲ノ東部ニ
 行ハレタル商法伊太利ノ中央ニ行ハレタル商法歐羅巴ノ南部殊ニ佛蘭西ノ南

部ニ行ハレタル商法並ニ歐洲ノ北部ニ行ハレタル商法是ナリ歐洲ノ東部ニ行
 ハレタル法律ノ中最モ有名ナルモノハ所謂ローヅースノ海商法ナリ而シテ歐
 洲ノ北部ニ行ハレタル商法中最モ有名ナルモノハ所謂オレロンノ法典ナリト
 ス又地中海ノ海岸ニ發達シタル商慣習ヲ編纂シタル「コンゾラート、デル、マ
 レ」以上四種ノ商法中何レノ部分ニ屬スヘキヤ明カナラサレトモ「ワグナル民
 ノ考證ニ依レハ「バルセロナ」ノ裁判所ニ於テ之ヲ編纂シタルモノナルカ如シ而
 シテ「コンゾラート、デル、マール」海商ニ關スルノミナラス海戰ニ關スル原則
 ヲモ規定シタルモノナルカ故ニ以上ノ諸商法中今日ノ國際法ニ最モ關係アル
 モノハ此「コンゾラート、デル、マール」ナリトス

次ニ領事ノコトヲ一言スヘシ領事ハ埃及時代ニ既ニ行ハレタルモノナレトモ
 當時ニ於テハ領事ヲ設クル國至テ少カリシカ中世以降萬國通商ノ盛ナルニ隨
 ヒ各國ニ於テ領事ヲ設クルニ至レリ就中伊太利ハ前ニ一言セシ如ク通商ノ中
 心ナリシカ故ニ伊太利ニ派遣セラレタル各國領事ノ數亦少カラズ即チ今日歐
 米諸國ニ行ハルル領事ノ原語「コンシユル」ヲ伊太利ニ起リタルヲ見テモ之ヲ知

ルニ足ル領事ハ本國ノ通商ヲ保護スルコトヲ以テ主タル職務ト爲スモノニヤ
テ本國商人ノ質問ニ答ヘ又ハ居留地ノ保護ヲ爲シ又通商ノ事ニ關シ駐在國ノ
政府ト交渉スル等ノ事ヲ司レリ

第六款 「ハンザ」同盟

羅馬人カ有シタル伊太利以外ノ領地及ヒ伊太利ニ於テハ羅馬人ノ舊法ニ則リ
何レモ完全ナル市府ヲ見ルニ至リシカ歐洲ノ北部ニ於テハ之ニ反シ「スレー
ブ」(人ノルマン)人羅馬人等ノ暴行甚シキカ爲メニ何レノ市府モ殆ト太平ノ日ヲ見
ルコト能ハサリシヲ以テ歐羅巴ノ北海岸ニ於ケル「ハンブルヒ」「リウーベック」「ブ
レーメン」等ノ諸市府ハ互ニ同盟條約ヲ結ヒ「スレーブ」人等ノ侵略ヲ防クニ至レ
リ即チ此等ノ諸市府ハ所謂防禦同盟ヲ締結セリ然ルニ防禦同盟ニテハ未ダ充
分外患ニ備フル能ハサルコトヲ發見セシカ故ニ此等ノ市府ハ終ニ攻守同盟ヲ
結フニ至レリ歐洲ノ文明竝ニ國際法ノ發達ニ大關係アル所謂「ハンザ」同盟ナ
ルモノ即チ是ナリ然ルニ「ハンザ」同盟ハ後ニ至リ互ニ貿易上ノ利益ヲ共通セ

ンコトヲ計畫シ此同盟ヲ組織スル諸市府ノ間ニ種種ノ規約ヲ立ツルニ至レリ
例ヘハ「ハンザ」同盟ヲ組織スル諸市府ノ人民カ債務ヲ履行セスシテ「ハンザ
」同盟中ノ他ノ市府ニ通レタルトキハ之ヲ抽縛シテ本國ニ送還スル規約ノ如
キ是ナリ此「ハンザ」同盟ハ貿易上ノ利益ヲ共通センカ爲メニ海外ニ於テモ共
同シテ同盟ノ利益ヲ保護スルコトヲ圖レリ而シテ「ハンザ」同盟カ實行シタル
制度中著明ナルモノハ貨幣制度「漂著品獲得權」ノ制限等是ナリ其他航海及ヒ貿
易ノ區域ヲ擴張シテ萬國貿易ニ變動ヲ與ヘタル如キ亦「ハンザ」同盟カ舉ケタ
ル功績中ノ重大ナルモノトス

右ノ外「ハンザ」同盟ハ船舶ノ製造ヲ改良シ竝ニ歐洲諸國ノ農業ヲ發達セシメ
タリ蓋シ「ハンザ」同盟ノ成立以來歐羅巴北部ノ貿易ハ非常ニ發達シ農産物ノ
需要益増加セシカ故ニ隨テ農業ノ發達ヲ惹起スルニ至リ農業ノ景況ハ全ク大
規模ト爲レリ而シテ「ハンザ」同盟ハ國際上ニ於テハ恰モ國際法ノ主體タル地
位ヲ有シ「ハンザ」同盟ノ人民ハ外國例ヘハ英國ニ於テ獨立ノ裁判權ヲ享有セ
リ即チ「ハンザ」同盟ノ人民間ニ起リタル訴訟ハ「ハンザ」同盟ノ裁判權ニ依リ

ヲ裁判セラレ 留在國ノ法律ニ從ハス又獨立ノ集會及ヒ結社ノ權利ヲ有シ留在國ノ法律ニ從ハスシテ隨意ニ會社ヲ組織シ又ハ集會ヲ爲シタリ其他數モ注意スヘキハ所謂帶兵ノ權利ニシテ「ハンザ」同盟ノ人民ハ國外ニ於テ自己ヲ保護スルカ爲メ兵力ヲ備ヘタリ此事タル今日ノ國際法ニ於テ認メタル所ナリ又「ハンザ」同盟ノ人民ハ海外ニ於テ食料品ニ付キ關稅ヲ免除セラレタリ此ノ如ク「ハンザ」同盟ノ人民ハ海外ニ於テ優遇セラレ他ノ外國人民ニ比シ優等ノ權利ヲ享有シタル理由ハ明カナラスト雖モ惟フニ「ハンザ」同盟ハ當時歐羅巴北部ニ於ケル貿易ノ中心トナリシカ爲メ隨テ歐洲諸國モ之ニ依ルコト頗ル多ク其報酬トシテ此ノ如キ特權ヲ與ヘタルモノナルヘシ殊ニ「エドワード」一世ノ如キハ一ノ勅令ヲ發シテ英國ニ於ケル「ハンザ」同盟ノ商人ヲ優遇セリ然ルニ「ハンザ」同盟内部ノ軋轢ヲ生シ又一方ニ於テハ和蘭人民カ「ハンザ」同盟ニ學ヒタル智識ニ因リテ其航海及ヒ貿易上ニ於テ新ニ勢力ヲ得シカ故ニ「ハンザ」同盟ハ漸漸從來ノ地位ヲ失フニ至レリ

第七款 第十六世紀

第十六世紀以來歐洲諸國ハ何レモ常備兵ヲ設ケルニ至レリ是ニ於テ突然外國兵ノ來襲スルコトナキヲ保セサルカ故ニ平時ニ於テモ使節ヲ外國ノ朝廷ニ常置スルノ必要ヲ生シタリ又外交ノ局面一變セシカ故ニ平時使節ヲ外國ニ派遣シテ其國ノ内情ヲ探偵セシムル必要アリ是レ使節常置ノ例ヲ開キタル所以ニシテ或ハ路易十一世カ始テ此例ヲ開キタリト謂フ者アリ或ハ伊太利内ノ小國間ニ此例ヲ開キタリト謂フ者アリト雖モ第十六世紀以來使節常置ノ制度アリシコトハ明白ナル事實ナリ其以前ニ於テハ外國ノ皇太子カ帝位ニ即ク場合又ハ臨時ニ生シタル事件ヲ整理センカ爲メニ殊ニ締和條約ヲ締結セシムルカ爲メニ使節ヲ派遣シタル例アルノミ

此ノ如ク當時常置ノ使節ヲ生シタルハ各國ノ交際親密ニ爲リシカ故ニ非スシテ全ク朝廷間ニ於ケル猜忌心ノ結果ニ外ナラザリシカ當時使節カ往往駐在國政府ノ機械ト爲リタル例少カラザリシカ故ニ伊太利ノ諸國ニ於テハ使節ヲ外

國ニ派遣スル前豫メ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシメタリ殊ニ「ヴェニス」ノ使節ニ關スル制度ハ最モ著名ナルモノニシテ他國ニ於テモ漸漸之ヲ模倣シタリト云フ「ヴェニス」ノ制度ニ依レハ使節ハ駐在國ニ於テ土地ヲ所有スルコトヲ得ス又使節ヲ羅馬法王ノ朝廷ニ派遣スル場合ニ於テハ親戚中ニ僧侶ヲ有セサル者ヲ選ミテ派遣シタリ又使節ハ其駐在國ヲ離ルルコト能ハス而シテ使節カ其任務ヲ終リテ歸國スル場合ニハ必ス報告書ヲ本國政府ニ提出スルモノトス而シテ此報告書タルヤ單ニ外交ノ事情ヲ報告スルノミナラス會計ノ事ニ至ルマテ報告セリ

此時歐洲ノ外交政策ニ一變動ヲ與ヘタル者アリ伊太利「フロレンツ」府ノ「マキアベリ」千四百六十九年生氏是ナリ氏ノ説ニ依レハ政治上殊ニ外交上ノ目的ヲ貫カンカ爲メニハ決シテ其手段ヲ選フヲ要セスト隨テ當時「マキアベリ」ノ主義ヲ遵奉シタル各國ノ外交家ハ道義ヲ蹂躪スルニ至レリ又「マキアベリ」ノ考ニ依レハ所謂萬國統一ハ全ク根據ナキ議論ニシテ各國ハ可及的權力ノ平均ヲ維持スル丈ケノ數ニ於テ分立スルコトヲ要ス且ツ各國カ交際スルニ當リテハ宗教ノ

如何ヲ顧ルヘカラス土耳其ノ如キモ宜シク之ト同等ノ交通ヲ爲スヘシト云ヘリ但シ「マキアベリ」ハ局外中立ノ説ヲ以テ全ク迂遠ナリトシテ斥ケタリ

第三節 近世

宗教改革カ行ハレテヨリ以來歐洲大陸ハ新教及ヒ舊教ノ二大黨派ニ分裂シテ閉止ムコトナク遂ニ千六百十八年ニ至リ此黨派間ニ戰爭ヲ開クニ至レリ所謂三十年戰爭ナルモノ是ナリ而シテ歐洲ノ國民カ此戰爭ノ爲メニ非常ノ害ヲ被リタルコトハ史ヲ讀ム者ノ皆知ル所ナルカ當時ニ於テ識者ハ大ニ之ヲ痛嘆シ之ヲ宗教ノ罪ニ歸スル者鮮カラザリキ此戰爭ハ千六百四十八年「ウエストハリヤ」媾和條約ニ由リテ終結スルニ至レリ而シテ此條約以來宗教ノ勢力カ衰頽セシコトハ種種ノ事情ニ徴シテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ今此條約ノ内容ヲ示セハ左ノ如シ

第一 新教舊教ノ間ニ權利上ノ區別ヲ立テサルコト即チ各國民ハ右二教中孰レヲ信スルモ自由ナルノミナラス宗教ノ異同ニ依リテ國際上ノ權利ヲ異ニ

セナルコト
 第二 瑞西及ヒ和蘭ノ獨立ヲ認メタルコト其他三百有餘ノ獨逸小邦ノ獨立ヲ認メタルコト即チ此小邦ハ國際法ノ主體ト認メラレタルモノニシテ唯外國ト條約ヲ締結スルニ當リ獨逸ニ於ケル他ノ小邦ノ利益ヲ侵害スル能ハサルコト

第三 佛蘭西及ヒ瑞典二國カ少カラサル土地ヲ取得シタルコト

全ウエストハリヤ條約ノ國際上ニ於ケル效力ヲ示セハ左ノ如シ
 第一 此條約ハ從來其例ヲ見サル多數ノ當事國間ニ締結セラレタルモノニシテ所謂萬國會議若クハ國際會議ト稱スルモノノ先例ト爲リタルコト

第二 此條約以來新舊兩耶蘇教ノ間ニ權利上ノ區別ヲ見サルニ至リシコト

第三 此條約ハ干渉ノ端緒ヲ開キタルコト

第四 權利平均ノ原則ヲ認メタルニ拘ラス一方ニ於テ之ヲ破リタルコト即チ佛蘭西國ノ勢力カ俄ニ勃興シタルコト
 「ウエストハリヤ條約ハ右ニ述ヘタル如ク歐洲ニ於ケル政治上ノ關係ヲ一變シ

タルモノニシテ國際法上ニ及ホス所ノ影響頗ル大ナルカ故ニ學者ハ往往此條約ヲ以テ近世國際法ノ初期ト看做ス者多シ即チ予モ亦此例ニ倣ヒタリ

「ウエストハリヤ」條約ニ因リテ佛蘭西ハ其勢力ヲ非常ニ勃興セシカ佛王路易十四世ハ其皇后ノ相續權ヲ主張シ和蘭ニ於ケル西班牙ノ領地ヲ併吞センコトヲ計畫セシカ西班牙政府之ニ應セザリシカ爲メ遂ニ同國ト戰爭ヲ開始スルニ至レリ其結果佛蘭西ハ西班牙並ニ同盟國ニ勝テ遂ニ「アーヘン」條約千六百六十八年ニ依リテ其領地ヲ擴張スルニ至レリ

路易十四世ハ西班牙ト戰爭ヲ爲セシ際和蘭ノ已ニ抵抗セシヲ憤リ遂ニ和蘭ニ對シ戰爭ヲ布告セリ而シテ其結果遂ニ同國ニ勝チ千六百七十八年「ニムウエ」ヒ條約ニ依リ領地ヲ擴張スルニ至レリ爾來路易十四世ノ政略ニ反對スル者漸ク多キヲ加ヘ就中「ウエルヘルム」ブオンオラー「ニエン」ハ權力平均說ヲ唱ヘテ英國「西班牙」サウヲ「エ」瑞典「丁抹」諸國ヲ聯合シ路易十四世ト爭衡セリ

路易十四世ハ一ノ調査委員會ヲ設ケテ從來自己ノ領地ニ併合シタル外國ノ領地ノ歴史ヲ調査シ從來右ノ領地ニ屬シタル部分ヲモ併吞スルニ至リタリ其後

「ウエルヘルム、フォン、オラーニエン」ハ、英吉利ノ王位ニ即キシカ歐洲ノ諸國ハ路易十四世ニ對スル聯合ニ依リテ其目的ヲ達スルコト能ハサルコトヲ悟リシカ爲メ更ニ路易十四世ト同盟スルニ至リタリ即チ「ウエルヘルム」ハ此同盟ニ依リテ西班牙ノ領地ヲ分割センコトヲ圖リ佛王ト千六百九十八年「ヘーグ」ニ於テ條約ヲ締結セリ然レトモ未タ此條約ヲ實行セサルニ當リ所謂西班牙皇嗣問題起レリ

「ヘーグ條約」ヲ實行セサル中ニ「チャーレス」ニ世ハ崩御セリ千七百零一年「チャールス」ニ世ハ遺言ヲ以テ「ヒリョフ、ド、アンジユ」ヲ其皇嗣ト定メタリ蓋シ「ヒリョフ、ド、アンジユ」ハ路易十四世ノ孫ナリ路易十四世ハ其遺言ヲ承認セシト雖モ此遺言タルヤ佛國ノ勢力ヲ一層増進スルモノナルカ故ニ歐洲諸國ノ君主殊ニ英王「ウエルヘルム」ハ權力平均ヲ破フルモノトシ異議ヲ申込ミタリ然ルニ路易十四世ハ此異議ニ拘ラス「ヒリョフ、ド、アンジユ」ヲ相續テ禁セザリシカハ遂ニ佛國西ト他ノ歐洲諸國獨英蘭普「ヤウラエン」トノ間ニ戰爭ヲ開クニ至レリ此戰爭ハ千七百零一年ニ起リ千七百十三年ニ終リタリ

此戰爭佛國ノ軍氣振ハス千七百十三年路易十四世ハ己ノ敵タル同盟軍ニ對シ媾和ノ申込ヲ爲メ遂ニ「ユートレヒト」ニ於テ媾和條約ヲ締結スルニ至レリ此條約ニ依レハ「ヒリョフ、ド、アンジユ」ハ西班牙ノ皇位ニ即クコトヲ認メラレタリト雖モ將來佛國ノ君主カ同時ニ西班牙ノ君主ト爲ルコトヲ得サルコトト爲レリ當時ノ人ハ此規定ヲ以テ歐洲ノ權力平均ヲ維持スルカ爲メニ缺クヘカラサルモノト爲シタリ

又英國ハ此條約ニ依リ「ジブラタル」ヲ取得シ「埃太利」ハ「西班牙」ヨリ「白耳義」ニ於ケル「西班牙」ノ領地ヲ讓受ケタリ又翌年「千七百十四年」「バーデン」條約ニ依リ「西班牙」ハ更ニ「ロンバルダイ」並ニ「チヤープル」ニ地ヲ「埃太利」ニ讓渡シ「佛蘭西」ハ米國ニ於ケル其殖民地ノ或部分ヲ英國ニ讓渡セリ今此條約ノ結果ヲ擧クレハ佛國ノ勢力ノ失墜ト同時ニ歐洲ニ於テ權力平均ヲ恢復シタルコト並ニ英國カ其勢力ヲ増加シタルコト是ナリ此時ニ當リ露國ハ漸ク歐洲ノ國際法團體ニ加入スルニ至レリ蓋シ露西亞ハ從來他ノ歐洲諸國ト風俗及ヒ宗教ヲ異ニセザラ以テ歐洲諸國ト交通ヲ爲スコト少ク隨テ歐洲諸國モ亦殆ト之ト齒スルヲ恥ヂタリ

シカ彼得大帝以來其國力ヲ大ニ伸張シ歐洲ノ外交ニ影響ヲ及ホスニ至レリ千七百二十一年ニスタット條約ハ露國カ勢力ヲ獲タル一原因ナリ) 普魯西ハ選君公「フリードリッヒ」一世カ國王ナル名稱ヲ始メテ唱ヘシヨリ以來歐洲ノ強國ト同等ノ交際ヲ爲スニ至レリ然ルニフリードリッヒ天王カ普魯西ノ王位ニ即タニ及ヒテ其國力大ニ増加セシヲ以テ外交上ニ於テ歐洲ノ霸權ヲ握ランコトヲ計畫シタリ此時埃太利ノ「チャーレス」六世ハ其女マリヤテレシヤヲ皇嗣ニ定メンコトヲ圖リ歐洲各國ノ承諾ヲ求メタリ然ルニ普魯西其他ノ國ハ何レモ埃太利ノ請求ヲ承諾セシニ拘ラス「チャーレス」崩後間モナク千七百四十一年「ニム」ヘンブルヒ條約ヲ締結シテ埃太利ノ領地ヲ分割センコトヲ約束セリ然ルニフリードリッヒ二世ハ一面ニ於テ「シユレ」ジェン「兵ヲ出シテ之ヲ占領シタリ」千七百四十年是ニ於テ埃太利普魯西ノ間ニ開戦ヲ見ルニ至リタリシカ千七百四十二年「ブレ」スラウ條約ニ於テ埃太利ハ普魯西ニ「シユレ」ジェン「及ヒ」「グ」ラツツヲ割讓セリ其後フリードリッヒ二世ハ更ニ埃太利ト戦ヲ開キ千七百四十四年四十五年「ドレ」スデン」ノ條約ニ於テ「ブレ」スラウ」ノ條約ヲ追認セシメタリ然ルニ一方ニ

於テハ佛蘭西バイエルン西班牙等ハ何レモ埃太利ノ土地ヲ併有センコトヲ圖リ遂ニ埃太利ト戦ヲ開クニ至レリ所謂埃太利皇嗣戰爭ナルモノ是ナリ(千七百四十年乃至四十八年)而シテ「マリヤ」テレシヤハ其強敵ニ抗スル能ハサリシカ爲メ遂ニ「鴉」牙ニ於テ媾和條約ヲ締結シタリ此條約ニ依レハ埃太利ノ敵國ハ戰爭中ニ於テ獲タル所ノ一切ノ土地ヲ保有スルコト並ニ埃太利ハ「サル」ジニヤ」王「ニ」ロ「ン」ベル「ダイ」ノ一部分ヲ割讓スルコト其他「ド」ン「ヒ」リッ「ブ」ニ伊太利ニ於ケル領地ヲ割讓スルコトト爲レリ今埃太利皇嗣戰爭ノ結果ヲ舉クレハ埃國ノ勢力地ニ墜テタルト同時ニ普魯西ノ國力増加シ歐洲ノ外交界ニ於テ重大ナル勢力ヲ占ムルニ至リタルコト是ナリ

此ノ如ク普魯西ノ勢力増加セシト且ツ一身上ノ關係ヨリシテ露亞西ノ女王「イ」リサ「ベ」ス「ハ」マリヤ「テ」レ「シヤ」ノ孤立ヲ憐ミ千七百四十六年遂ニ同國ト同盟ヲ締結スルニ至リ千七百五十六年佛國モ亦此條約ニ加入シ普魯西ノ勢力ヲ控カンコトヲ圖レリ所謂七年戰爭千七百五十六年乃至千七百六十三年ノ總緒即チ是ナリ而シテ露亞西ノ女王ハ千七百四十七年「ザ」ク「モン」下秘密條約ヲ締結シ普魯西

國ヲ分割セシメテヲ謀リタリシカ普魯西王ノ知ル所ト爲リ遂ニ同國ト戰爭ヲ開クニ至レリ而シテ英國ハ普魯西ニ與ミテ獨逸ノ諸邦並ニ佛國ハ露西亞埃太利ニ與ミセシカ爲メ此兵亂ハ殆ト歐洲ノ全土ヲ蔽ヒタリ

會「イリサマス」崩レ「ベートル」三世カ露國ノ皇位ヲ相續セシカ「ベートル」三世ハ「フリードリッヒ」二世ヲ非常ニ信スル人ナリシカ故ニ「イリサマス」遺圖ヲ受ケテ「フリードリッヒ」二世ト爭フコトヲ爲サス普王ト媾和ヲ爲シタリ其後「ベートル」三世崩シ「カタリナ」二世王位ニ即クニ及ヒテモ同シク埃太利ヲ援クルコトヲ爲サナリシヲ以テ從來ノ戰爭ハ漸ク茲ニ終結ヲ告ケ遂ニ普魯西埃太利二國ハ千七百六十三年「フリーベルツ」條約ヲ締結シテ媾和ヲ結ヒタリ而シテ此條約ニ依リ普魯西ハ從來埃太利ヨリ獲タル領地ヲ依然所有スルコトヲ得ルニ至レリ又英佛二國モ同年「バリス」於テ媾和條約ヲ締結シ此條約ニ於テ佛蘭西ハ米國ニ於テ有スル所ノ一部ノ殖民地ヲ英國ニ割讓スルニ至レリ爾來英國ノ殖民政畧益々其歩武ヲ進メ英佛二國ノ勢力ハ此ニ至リテ全ク顛倒セリ其千七百七十二年普魯西埃太利及ヒ露西亞ノ三國ハ波蘭ノ分割ヲ始メ千七百九十三年及ヒ九十

五年ニ於テモ亦波蘭ノ分割ヲ爲シ波蘭ノ全土ハ遂ニ三國ノ爲メニ分割セララルニ至レリ而シテ千七百七十四年露國ハ更ニ「バルカン」半島ニ其勢力ヲ及ホスコトヲ得タリ「クーチカ」イナルヂ「條約」即チ是ナリ爾來露西亞ハ歐洲ノ外交界ニ於ケル一ノ勢力ト爲レリ

千七百七十八年埃太利「バイエルン」王ノ崩御ニ乘シ其領地ヲ併合センコトヲ計リタリシカ普魯西ハ之ヲ以テ歐洲ノ權力平均ヲ破ルモノナリトシ爭フコトアリシカ其極兩國間ニ戰爭ヲ開クニ至レリ所謂「バイエルン」皇國戰爭ナルモノ是ナリ(千七百七十八年乃至七十九年此戰爭ハ「テュシエン」條約千七百七十九年)ニ依リ落著ヲ見ルニ至レリ而シテ此條約ニ依リ埃太利ハ「バイエルン」ノ或部分ヲ拋棄スルコトト爲レリ蓋シ露國カ此條約ヲ媒介センモノナリト云フ

千七百七十四年米國獨立ノ戰爭起リタリシカ佛蘭西ハ從來ノ歷史上ノ關係並ニ英國ノ勢力ヲ覆サントスル目的ヨリ英國ノ殖民地ト聯合シ英國ト戰フニ至レリ而シテ此戰爭ハ英國ノ敗ニ歸セシカ佛國ハ竟ニ千七百八十三年「ベルサイユ」條約ニ依リ英國ト媾和ヲ爲シタリ而シテ此戰爭ノ國際關係ニ及ホシタル影

海ハ頗ル大ナルモノアリ英國ハ佛國ノ希望シタル如ク其勢力ヲ減殺セラレタルコト及ヒ國際法團體ノ區域カ擴張セラレタルコト等是ナリ就中北米合衆國ハ其憲法ニ國際法ヲ遵守スヘキコトヲ明言シタル程ナルカ故ニ國際法ノ價值ハ英米戰爭ノ爲メ大ニ増加シタリト謂フヘシ

千七百八十年露國カタリナ二世ハ所謂武力局外中立ナル同盟ヲ組織シ東北ニ於ケル諸國ハ大抵之ニ加入セシカ其目的トスル所ハ海上ニ於ケル英國ノ跋扈ヲ弱センカ爲メニ外ナラス而シテ此同盟ハ一ノ宣言ヲ公ニセリ此宣言ニ依レハ交戰國ハ中立國ノ貿易ヲ妨クルコト能ハス殊ニ交戰國ノ一方ト中立國トノ交通ヲ妨害スルコト能ハサルモノトス又中立國ノ船舶ニ搭載シタル敵ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ差押フルコトヲ得ス又封港ハ必ス封港線ニ接近スル軍艦ニ依リテ之ヲ實行スルコトヲ要ス而シテ以上ノ規定ニ違反シタルモノアルトキハ必ス捕獲審檢所ニ於テ之ヲ裁判スルコトヲ要ス若シ同盟國以外ノ國カ此原則ヲ守ラザルトキハ同盟國ハ武力ヲ用ヒテ之ニ當ルヘキコトヲ約束セリ是レ所謂第一回武力局外中立ノ宣言ニシテ局外中立ノ沿革上著明ナルモ

ノナリ千八百一年露國皇帝「バウルク」ハ所謂第二回武力局外中立宣言ヲ公ニセシカ大體ニ於テハ「カタリナ」ヲ宣言ヲ標準ト爲セタルモノナリ

佛蘭西ハ西班牙皇嗣戰爭以來其勢力漸漸減少セシカハ佛國ノ國民ハ之ヲ憤リテ遂ニ革命ヲ起スニ至レリ(勿論他ニ原因アルモ)而シテ其結果タルヤ舊制ヲ顛覆シ國王ヲ死刑ニ處シ且ツ國王ヲ奉スル國ヲ一般ニ佛蘭西ノ敵國ト看倣シ以テ其人民ヲ煽動スルノミナラス佛國王カ從來締結シタル條約ハ佛國ノ人民ヲ羈束スルモノニ非スト宣言セリ是ニ於テ千七百九十三年歐洲ノ諸國ハ互ニ同盟シテ佛蘭西ノ國民ニ對シテ開戰ヲ宣言スルニ至レリ蓋シ佛國ノ無政ニ乘シテ領地ヲ擴張シ且ツ革命ノ思想ヲ鎮壓センカ爲ナリ然ルニ同盟軍ハ内訌ノ爲メ充分ノ戰爭ヲ爲スコトヲ得ス屬ニ敗北セシカ故ニ其團結漸ク脆弱ト爲リ普魯西ハ先ツ佛國ト「バーゼル」ニ於テ千七百九十五年媾和條約ヲ締結シ對佛同盟ヨリ脫退スルニ至レリ又奧太利モ千七百九十七年カンポフォルミヨ條約ヲ締結シテ佛國ト媾和ヲ爲スニ至レリ而シテ同條約ニ因リ奧太利ハ佛蘭西ニ白耳義及ヒ「ロンバルダイ」ノ地ヲ割讓シ佛國モ亦奧太利ニ「ウニチエン」イストリエ」及

「タルマチエン」ヲ割讓スルニ至レリ又獨逸諸邦も同年「スタット」ニ於テ佛國ト媾和條約ヲ締結シ來因河左岸ノ諸洲ヲ佛蘭西ニ與ヘタリ然ルニ佛國ハ此等ノ媾和條約ニ關セス益々強暴ヲ擅ニセンカ故ニ歐洲諸國ハ更ニ干涉ノ必要ヲ認メ千七百九十八年第二回ノ對佛同盟ヲ組織スルニ至レリ然レトモ埃太利政府及ヒ露西亞政府ノ間ニ再ヒ反目ヲ生シタリシカ爲メ露國ノ兵士ハ埃太利ヲ助タルコトヲ爲サス而シテ埃太利ハ孤立シテ佛國ノ國民ト戰フコト能ハサリシカ故ニ遂ニ千八百一年「リョンネビ」ニ於テ媾和條約ヲ締結スルニ至レリ此條約ニ於テ埃太利ハ「エツテユ」河及ヒ來因河ノ鐵路ヲ以テ獨佛ノ國界ト認メ且ツ「カンボフオルミ」條約ヲ追認セリ而シテ英國モ亦千八百二年佛蘭西ト媾和條約ヲ締結シ英佛戰爭中佛國ヨリ奪ヒタル總テノ土地ヲ佛國ニ返還セリ千八百六年奈破翁ハ伯林及ヒ「マイラント」ヨリ二箇ノ勅令ヲ發シテ英國ノ全土ヲ封鎖セリ而シテ歐洲大陸ニ留在スル英國ノ人民ハ總テノ俘虜ト看做サレ其財產ハ悉ク沒收セラレタリ是ヨリ先キ奈破翁ハ帝位ニ即キタル以來益々外國ノ土地ヲ侵畧センコトヲ圖リシカ故ニ更ニ第三回ノ對佛同盟起ルニ至レリ千

八百五年而シテ此戰爭ノ結果亦同盟軍ニ利アラキリレカ爲メ千八百五年埃太利ハ先ツ佛國ト「ブレスブルヒ」ニ於テ媾和條約ヲ締結シ其結果チロル外二地ヲ佛蘭西ニ割讓セリ此時ニ當リ普魯西英吉利及ヒ露西亞ノ三國ハ秘密條約ヲ締結シ佛國ノ勢力ヲ減殺スル計畫ヲ爲セシカ奈破翁之ヲ知リテ直チニ普魯西ニ兵ヲ進メ遂ニ之ヲ破リタル後「テルヂット」ニ於テ媾和條約ヲ締結セリ千八百七年此條約ニ依リ普魯西ハ其領地ノ半ヲ失ヒタリ

千八百六年獨逸内ニ於ケル十六國ハ「ラインブント」ナル同盟ヲ組織シ奈破翁ヲ其保護者ト仰キタリ是ニ於テ奈破翁ハ此同盟ニ據リテ獨逸ニ強固ナル地歩ヲ占ムルニ至レリ先ニ說明シタル如ク奈破翁ハ「テルヂット」條約ニ依リ普魯西ノ土地ヲ奪ヒシカ露西亞及ヒ佛蘭西ノ二皇帝ハ「テルヂット」ニ於テ媾和條約ヲ締結ト同時ニ秘密條約ヲ結ビ歐羅巴ヲ二分シテ各其一ヲ保ツコトヲ約束セリ故ニ爾來露國ハ佛國ノ同盟國ト爲レリ千八百九年佛蘭西ハ更ニ埃太利ト戰ヲ開キ其結果維納ニ於テ條約ヲ締結シ露佛ハ更ニ埃太利ノ土地ヲ讓受ケタリ而シテ奈破翁ハ英國ニ對シテ其目的ヲ達スルコト能ハサリシカ爲メ更ニ其同盟國

タル露國ヲ破ランコトヲ圖リ千八百十二年、モスコイニ侵入セシカ、遂ニ敗レテ歸國スルニ至レリ其結果ハ更ニ歐洲諸國對佛同盟ト爲リ千八百十四年、シヨームンニ於テ同盟軍ハ條約ヲ締結シ其提出ニ係ル媾和條約ヲ奈破翁カ承諾スルマテハ奈破翁ト箇箇ニ媾和條約ヲ締結セサルコトヲ約束セリ

千八百十二年奈破翁ハ「モスコイ」ニ敗レテ歸國セシカ同盟軍ハ巴里ニ侵入シ其極竟ニ同盟軍及ヒ佛國ノ間ニ媾和條約ヲ締結スルニ至レリ(千八百十五年此媾和條約ノ結果奈破翁ハ「エルバー」島ノ領主ト爲リ又「バルマ」ヲ領スルニ至レリ又佛蘭西ハ千七百九十二年ノ當時ニ於ケル領地ノミヲ保有スルコトヲ認メテレタリ蓋シ佛國カ此ノ如ク其領地ヲ削減セラレタルハ左ノ理由ニ出テタルモノナリ佛國ノ領地ヲ膨脹スルコトハ國際團體ノ治安ト相容レサルコト是レ一ナリ佛國カ革命以後其領地ヲ擴張シタルハ正當ノ方法ニ依リタルコト是レ一ナリ又巴里條約ノ當事國ハ將來ニ於ケル國際問題ヲ決定スルノ必要ヲ覺リ同年ノ末ヨリ塊太利ノ首府維納ニ於テ國際會議ヲ開クコトヲ議決セリ然ルニ維納會議ニ於テ各國ノ代表者カ紛擾ヲ極ムルニ當リ奈破翁ハ「エルバー」ヨリ逃レ

テ再ヒ佛國ノ政權ヲ握リシニ因リ更ニ第四回ノ對佛同盟ヲ見ルニ至リシカ奈破翁ハ更ニ敗北セシカ故ニ千八百十五年佛國及ヒ其敵國ノ間ニ媾和條約ヲ締結スルニ至レリ此條約ハ千八百四十年巴里條約ノ一部分ヲ廢棄シ奈破翁ハ「エルバー」ニ對スル主權ヲ失ヒ同時ニ佛國ハ千七百九十年ノ當時ニ於ケル領地ノミヲ所有スルヲ得ルコトト爲レリ又佛國民ハ七億フランノ償金ヲ其敵國ニ賠償シ佛國ノ敵國タル同盟國ハ十五萬ノ兵士ヲ佛國ニ駐屯スルコトト爲レリ

維納會議ニ列席シタル各國ノ代表者ハ實ニ四百五十人ノ多キニ達セシト云フ而シテ露西亞普魯西等ノ帝王モ亦之ニ親臨セリ國際會議ノ目的ハ二アリ一ハ奈破翁ノ爲メニ奪ハレタル權力ノ平均ヲ回復スルコトニシテ一ハ獨逸内ノ關係ヲ處理スルコト是ナリ此會議ハ二種ノ委員ヲ設ケテ各箇ノ問題ヲ調査セシメシカ各國ノ利益互ニ相衝突セシヲ以テ容易ニ決議ニ至ラス殊ニ露國皇帝ハ「ワールンシャウ」ノ全體ヲ取得セント欲シ普魯西ハ「ザクセン」ノ全體ヲ取得セント欲セシカ故ニ議論容易ニ纏ラサリシカ終ニ普魯西ハ「ザクセン」國ノ半ヲ取得シ又露西亞ハ「ワールンシャウ」ノ大部分ヲ取得スルコトニ決セリ今維納國際會議ニ

於テ各國ノ代表者カ陳述シタル意見ヲ分テハ三箇ト爲ル曰ク便宜主義曰ク適法主義曰ク公益主義是ナリ而シテ千八百十五年六月ニ至リ歐洲各國ノ代表者ハ維納會議ノ決議ヲ條約トシテ署名セリ此條約ニ依レハ前ニ述ヘタル如ク普魯西ハ「ザクセン」國ノ半ヲ取得シ又露西亞ハ「ワールシャウ」ノ或部分ヲ取得セリ其他普魯西ハ「チルヂャト」條約ニ於テ失ヒタル領地ヲ全然回復シ奧太利ハ「カンプフォオルミ」條約並ニ「リユンテピル」條約ニ依リテ失ヒタル領地ヲ回復セシ「ミナラス」ウエテチエン及ヒ「ロンバルダイラ」モ回復スルコトヲ得タリ又「クラカウ」市ハ普魯西奧太利露西亞三國ノ擔保ニ依リテ永久局外中立國ト爲レリ然ルニ千八百四十六年ニ至リ同市ハ奧太利ノ併合スル所ト爲リ其他瑞西國ヲ永久局外中立國ト定メ其中立ヲ擔保セリ蓋シ瑞西ノ歴史ニ徵スルモ將タ其位置ニ徵スルモ之ヲ中立國トスル歐洲ノ平和ノ爲メニ利益アルモノナレハナリ又英國ハ「マルタ」島ヲ取得シ且ツ「ジョニア」群島ヲ其保護地ト爲スニ至レリ其他和蘭及ヒ白耳義ヲ併合シ「ニーデルラント」ナル國ヲ興シタルカ故ニ爾來國家併合ノ問題ハ實際家及ヒ法律家ノ研究スル所ト爲レリ然レトモ「ニーデ

ルラント」ノ建立ハ英國ノ大陸ニ於ケル勢力ヲ増加シ又「マルタ」島及ヒ「ジョニア」群島ニ對シ得タル英國ノ權利ハ海上ニ於ケル英國ノ勢力ヲ膨脹スルノ結果ヲ見ルニ至レリ又「ザルヂニヤ」一部分モ中立國ト爲レリ其他維納會議ハ奴隸ノ賣買ヲ禁止セリ蓋シ一國カ奴隸ヲ其國內ニ於テ有スルコトハ國內ノ問題ナレトモ奴隸ノ賣買ニ至リテハ國際法團體ノ治安ヲ妨害スルコト甚シキカ故ニ維納會議ニ於テ之ヲ禁止セリ是レ西班牙佛蘭西等ハ當時盛ニ「亞弗利加」ノ内地ヨリ黑奴ヲ運來リテ「亞米利加」ニ賣買スルノ風頗ル盛ナリシカハ歐洲各國ノ宗教家ハ何レモ奴隸賣買ヲ禁止ヲ各國ヲシテ認メシメシコトヲ主張セシカ維納會議ニ於ケル各國ノ代表者ハ此說ニ勸カサレテ遂ニ奴隸ノ賣買ヲ禁スルニ至レルモノナリ又維納會議ハ國際河川ノコトヲ議決シ其他使節ノ階級ヲ定メタリ蓋シ國際河川ノ問題ハ爾來各國ノ間ニ議定セラレタリシカ故ニ往々國際紛議ヲ生シタルコトアリ又使節ノ階級ニ關シテモ從來ノ慣例ハ曖昧ナリシカ爲メ屢々各國ノ使節ノ間ニ爭論ヲ生シタルコトアリキ是レ維納會議ニ於テ此等ノ問題ヲ議決シタル所以ナリ

「ワユストフアリヤ」會議及「維納會議」ハ古來ノ有名ナル萬國會議ナレトモ其間ニ二箇ノ著シキ相違アリ「ワユストフアリヤ」會議ノ當時ニ於テハ各國ノ君主ノ一身上ノ問題ト國際上ノ問題トハ全ク同一ナリ例ヘハ相續ニ因ル領地ノ取得ハ全ク國際上ノ問題タリ然ルニ今日ニ於テハ各國君主ノ相續問題ハ國際上ノ問題ト爲ラサルコトト爲レリ

千八百十五年九月維納會議ニ列リタル諸國ハ所謂神聖同盟ヲ組織シ内治及ヒ外交上總テ正義ノ觀念ヲ基礎トシ神意ニ適合スル政治ヲ行フヘキコトヲ約シ其後千八百十九年「カルスバード」及ヒ千八百二十年「ウォーレン」ニ於テ歐洲諸國ハ會議ヲ開キ革命的思想ヲ鎮撫スルカ爲メニ外國ノ内政ニ干渉スルハ國際法上ノ權利ナル旨ヲ議定セリ千八百二十年「トロバウ」條約及ヒ千八百二十一年「ライバフ」條約ニ依リ塊太利普魯西露西亞ノ三國ハ「カルスバード」及ヒ「ウォーレン」條約ト殆ト同一ナル議決ヲ爲シ殊ニ「チアープル」ノ内亂ヲ鎮定スルカ爲メニ塊太利ハ兵力ヲ以テ干渉スヘキ旨ヲ議決セリ又千八百二十二年「ベロナー」ニ於テ歐洲諸國ハ會議ヲ開キ佛國カ西班牙ノ内政ニ干渉スヘキコトヲ議決セリ然ルニ

英國ハ當時非干渉主義ヲ政略ト爲シシカハ佛國カ西班牙ノ内政ニ干渉スルハ國際法ニ違反スルモノナリト宣言セリ又千八百二十一年希臘ハ土耳其ニ叛キ兵ヲ擧ケシカ露國ハ從來ノ政略ニ反シ非干渉ノ政略ヲ採リ英國其他ノ國モ同一ノ政略ヲ採リタリ爾來干渉ハ如何ナル程度マテ之ヲ認ムヘキモノナリヤ否ヤノ問題ヲ生スルニ至レリ千八百二十六年ニ至リ英露二國ハ始メテ希土戰爭ニ干渉スヘキ約定ヲ爲セシカ千八百二十七年ニ至リ他ノ諸國モ此約定ニ加入シ希土戰爭ニ干渉ヲ爲スニ至レリ然ルニ偶露西亞ノ艦隊カ土耳其ノ軍艦ヲ擊沈セシカ爲メ遂ニ露土ノ戰爭ト爲リ千八百二十八年ヨリ千八百二十九年ニ亘リ面シテ其結果ハ「アドリアノーベル」媾和條約ト爲リ希臘ヲ獨立國ト認ムルニ至レリ越エテ千八百三十年更ニ倫敦條約ニ依リ希臘ヲ王國ト定メタリ然ルニ希臘ノ獨立戰爭ハ各國ニ於ケル内亂ノ導火線ト爲リ革命ノ亂ヲ續登スルニ至リ千八百三十一年佛國ニ於テ革命起リ「ルイ、フヒリヤ」ゾハ其地位ヲ保ツコトヲ得サルニ至リ又白耳義ハ和蘭ト分離センカ爲メニ兵ヲ擧ケ其結果ハ千八百三十一年ニ至リ白耳義ヲ以テ獨立國ト認メタリ然ルニ和蘭ハ千八百三十九年ニ

至リ始メテ之ヲ獨立國トシテ承認セリ又其後「シユレスウ」ツツヒホルスターイ
 ン」丁抹ニ叛キシカ千八百五十年ニ至リ伯林條約ニ於テ依然トシテ丁抹ノ領地
 タルコトヲ認メラレタリ
 千八百五十三年露土ノ間ニ再ヒ戰端ヲ開キシカ千八百五十六年巴里媾和條約
 ニ依リ始メテ其終結ヲ見ルコトヲ得タリ而シテ此條約ニ依リ露西亞ハ土耳其
 ニ住居スル耶蘇教徒ニ對スル保護權ヲ失ヒ爾來歐洲諸國ニ於テ共同的ニ此保
 護ヲ引受タルコトト爲レリ又國境ニ於ケル露國ノ城砦ヲ破却スルコトト爲リ
 タルノミナラス將來ニ於テモ城砦ヲ設クルコト能ハサルニ至レリ又黑海ハ中
 立水ト爲リ平時ト雖モ露國ハ其艦隊ヲ茲ニ置クコト能ハサルニ至リ其他ワラ
 ハイ「モルダウ」セルビヤ」等ニ君主ヲ置キ「ダブルダメル」ノ海峽ヲ封鎖シ軍
 艦ノ出入ヲ禁止スルコトト爲レリ
 以上ハ巴里條約ニ於テ議決セシ重要ナル事項ナルカ千八百七十一年倫敦條約
 ニ於テ黑海ノ中立水タルコトト露國ノ城砦ニ關スル制限トヲ廢止スルニ至レリ
 右ノ條約ヲ議決シタル諸國ハ同年所謂巴里海上法宣言ヲ議定スルニ至レリ此

宣言ハ四箇條ヨリ成立セリ我國ハ明治十九年之ニ加入シタリ左ニ之ヲ列舉ス

- 第一 私艦ヲ廢止スルコト
- 第二 中立國ノ旗章ハ敵ノ貨物ヲ保護スルコト但シ戰時禁制品ハ此限ニ在ラス
- 第三 敵國ノ旗章ノ下ニ於ケル中立國ノ貨物ハ之ヲ拿捕セサルコト但シ戰時禁制品ハ此限ニ在ラス
- 第四 封港ハ眞實ナルコトヲ要スルコト

千八百五十九年「サルジニヤ」及ヒ佛國ハ埃國ト戰爭ヲ開キ其極同年埃佛二國
 ハ「ワキル」フランカニ於テ媾和條約ヲ結ビ「ミンチ」河ヲ以テ伊太利ニ於ケル埃
 太利領地ノ境界ト定メタリ又埃太利ハ佛蘭西ニ「ロンバルダイ」ヲ割讓シ其他伊
 太利諸邦聯合シテ羅馬法王ヲ保護者ト爲スコトヲ約定セリ然ルニ此條約ニハ
 「サルジニヤ」ハ與ラサリシカ千八百五十九年「テウリ」ト「ヒ」條約ヲ埃太利佛蘭西
 「サルジニヤ」間ニ締結シ「ド」フランカ」ノ條約ヲ確認スルニ至レリ
 千八百六十年佛國ハ「サルジニヤ」ト「テウリン」ニ於テ條約ヲ締結シ「ザ」ニ

及ヒ「ミツサ」ヲ同國ヨリ讓受ケタリ而シテ其報酬トシテ拿破翁第三世ハ伊太利ノ現状ヲ認ムルコトト爲レリ千八百六十四年「ユレスリッヒ」ニホルスタイン問題ニ付キ丁抹ハ普魯西及セ埃太利ト戰爭ヲ爲セシカ千八百六十四年「ウキン」締和條約ニ依リ此戰爭ノ終結ヲ見ルニ至レリ而シテ此條約ニ依リ丁抹ハ普魯西及セ埃太利ニ「ユレスリッヒ」ホルスタイン及ヒ「ラウエンブルヒ」ヲ讓渡セリ是ニ於テ普埃二國ハ「ユレスリッヒ」ホルスタイン及ヒ「ラウエンブルヒ」三國ニ對シ共同主權ヲ有スルニ至レリ「ユレスリッヒ」ホルスタイン問題ニ付キ常ニ衝突ヲ爲セシカ爲メ遂ニ千八百六十六年普埃間ニ開戦ヲ見ルニ至リタリ然ルニ同年埃國ハ遂ニ敗レタルカ爲メ「ブラーグ條約」ニ依リ「ユレスリッヒ」ホルスタインニ對スル共同主權ヲ拋棄スルニ至リタリ而シテ當時「ユレスリッヒ」ホルスタインノ北部ハ其住民ノ承諾アルニ非サレハ普國ニ割讓セザリシ約定ナリシモ普國ハ之ヲ實行セザリキ而シテ普國ハ埃國ヲ敗リタル後獨逸ノ國民ヲ統一スル方針ヲ採リ益々其歩武ヲ進メタルカ爲メ遂ニ佛國ト衝突ヲ生スルニ至リシナリ

「ブラーグ條約」ニ依リ埃太利ハ「アエチナ」佛國ニ割讓セシカ佛國ハ更ニ之ヲ伊太利ニ割讓セリ伊太利ハ事實上既ニ統一國ト爲リシカ千八百七十年始メテ國際法ノ王體ト認メラルルニ至レリ而シテ伊太利國ノ統一ト共ニ羅馬法王ハ其勢力ヲ失ヒ僅ニ「ラテラン」二州ヲ所有スルヲ得ルコトト爲レリ爾來羅馬法王ハ單ニ宗教上ノ勢力者タルニ止マリタリ此時ニ當リ「ルクセンブルヒ」問題ニ付キ普魯西ハ佛國ト爭ヲ生シタルシカ遂ニ千八百七十年倫敦條約ニ依リテ「ルクセンブルヒ」ヲ永世中立國ト定メ而シテ普魯西國ハ從來「ルクセンブルヒ」ニ派遣シタル守備兵ヲ悉皆引揚タルニ至レリ「ルクセンブルヒ」千八百七十年西班牙ノ王位問題ニ付キ更ニ普魯西及ヒ佛國ノ間ニ爭鬪ヲ生シタリシカ遂ニ兩國間ニ戰爭ヲ開ケニ至レリ其結果千八百七十一年「ブラシタブルト」締和條約ニ由リ佛國ハ「エルザース」並ニ「ロートリンゲン」一部分ヲ普魯西ニ割讓シ其外巨額ノ償金ヲ支拂フコトト爲レリ又普魯西ハ償金ノ支拂ヲ受ケルマテ其守備兵ヲ佛國西ニ置ク權利ヲ留保セリ抑モ普魯戰爭ハ現行國際法上ニ最モ關係アルモノニテ殊ニ戰時公法ノ研究ニ巨多ノ材料ヲ與ヘタリ例ヘハ

輕氣球問題軍服問題中立問題野蠻人使用人質等ノ問題はナリ其ハ一カノ問題ニ非ズ
 普魯西軍ノ佛國ヲ通過セシ時鐵道ヲ使用シタルニ佛國人民ハ瀛軍ノ通行ヲ妨
 害セシカ故ニ普魯西軍ハ遂ニ佛國人民中名望アル者ヲ瀛軍中ニ收容シ之ヲ人
 質トシテ運搬シタルコトアリ當時此所爲ハ國際法違反ナリト論スル者アリ或
 ハ之ヲ辯護スル者アリシカ今日ニ於テハ普魯西兵ノ處置ハ國際法違反ナリト
 斷定セラレタリ又佛國軍ハ往往輕氣球ヲ用ヒタリシカ此輕氣球ニ乗込ミシ者
 ハ偵察ナリヤ又ハ間諜ナリヤノ問題ヲ生シタルコトアリ又軍人ハ必ス一定ノ
 軍服ヲ着用スヘキコトモ此時ニ確定セラレタリ
 今日ノ戰爭ニ於テハ猛獸又ハ蠻民ヲ使用スルコトヲ得サルコトト爲レリ然ル
 ニ佛蘭西(「ナルコー」)兵ヲ使用シ殘虐ノ所爲アリシカ故ニ大ニ世人ノ非難ヲ被
 リタリ

右ノ外國國際法ノ研究上趣味アル問題少カラズ即チ領地割讓問題及ヒ國籍選擇
 問題はナリ蓋シ「フランクフルト」條約ニ依リ普魯西(「エルザース」)及ヒ「ロートリ
 ングン」二州ヲ讓受ケタリシカ其地方住民ノ國籍問題ヲ充分明カニセザリシカ
 爲メ兩國間ニ媾和條約締結後種種ノ議論ヲ生シタリ然レトモ一方ニ於テハ之
 カ爲メ未決ノ問題ヲ決定スルコトヲ得タリ例ヘハ割讓地住民ノ意味ハ學說上
 畧ホ一定スルニ至レリ即チ割讓地住民トハ割讓地ニ住所ヲ有スル人民ノミヲ
 意味スルコト是ナリ蓋シ割讓地ニ住所ヲ有スル者ハ割讓地ニ最モ密著ノ關係
 アレハナリ

千八百七十四年歐洲各國ハ「ブレッセル」會議ニ於テ陸戰ニ關スル原則ヲ議セシ
 カ遂ニ批准ヲ見ルニ至ラザリキ
 千八百七十五年「ヘルゼゴウホナ」ノ内亂以來歐洲諸國殊ニ露西亞ハ「バルガン」半
 島ノ問題ニ付キ土耳其政府ノ行爲ニ干渉スルニ至リ其結果ハ土耳其及ヒ露西
 亞ノ衝突ト爲リ遂ニ「サンスタフ」ハ「假條約」ヲ以テ「バルガン」半島ノ問題ヲ決定
 セシカ本條約ニ於テ露西亞カ得ル所ノ權利頗ル廣大ナリシカハ歐洲諸國ハ更
 ニ萬國會議ヲ開キ「バルガン」半島ノ問題ヲ確定スルノ必要ヲ悟リ千八百七十八
 年柏林ニ於テ萬國會議ヲ開キ條約ヲ締結シテ始メテ右ノ問題ヲ確定スルコト
 ヲ得タリ此條約ハ「ルーマニア」「セルビヤ」「モンテネグロ」等ノ獨立ヲ認メ「東」

メリヤ」ナル一州ヲ土耳其國內ニ置キ又「ヘルゼゴリキナ」及「ボスニエ」ヲ埃
利ノ管轄ノ下ニ置キタリ又露國ハ「ベスアラビヤ」「アルダハン」カ「ルス」等ノ返還
ヲ受ケ波斯モ亦「コーツル」ノ地ヲ獲タリ其他各國ハ「ダゴブ」河交通ノコトヲ議定
シ各國ノ船舶ハ自由ニ此河流ヲ往來スルコトヲ得ルニ至レリ其他交通ノ安全
ヲ擔保スルカ爲メ「ニダゴブ」河ノ沿岸ニ於テ城砦ヲ築クコトヲ禁シ從來建設シ
タル城砦ヲ併セテ破却スルニ至レリ要スルニ伯林條約ハ千八百五十六年巴里
條約ノ精神ヲ一層明白ニ發揮シタルモノト謂フヘシ

千八百七十九年獨逸埃太利間ニ同盟ヲ締結セシカ千八百八十一年伊太利ハ更
ニ此同盟ニ加入スルニ至レリ其後佛蘭西ハ露西亞ト秘密同盟ヲ締結セシカ今
日ニ於テモ猶ホ此同盟ヲ存立スルコトハ千八百九十一年佛蘭西ノ軍艦「ブラン
ダットホー」ヲ訪問シ千八百九十七年佛蘭西ノ大統領露都ヲ訪問セシ等ノ事情
ニ徴シテ之ヲ知ルヘシ要スルニ以上ノ同盟ハ權力平均ヲ維持スルニ與リテ力
アルモノナレトモ國際法自體ニハ密著ノ關係ナキモノトス
歐洲諸國ハ從來ノ殖民政略ニ依リテ自國ヲ利スルコト頗ル大ナルコトヲ悟リ

シカ故ニ其方針ヲ一轉シテ亞弗利加ヲ分割スルノ方針ヲ採ルニ至レリ就中佛
蘭西ハ千八百八十一年「チウニス」ヲ保護領ト爲シ又英吉利ハ千八百八十二年埃
及ヲ占領シ伊太利ハ黃海ノ沿岸ニ於テ「アビシニヤ」ヲ取得セントセリ又獨逸
モ亞弗利加ニ於テ殖民地ヲ設クルニ至レリ就中英獨ハ種種ノ會社ニ特權ヲ與
ヘテ領地取得ノ方法ニ實セリ此ノ如ク亞弗利加ハ歐洲諸國カ殖民政略ヲ實行
スル中心ト爲リシカ故ニ屬國國際法ノ適用問題ヲ生スルニ至レリ殊ニ「コンゴ」
國カ國際法團體ニ加入セシヨリ以來國際法ノ管轄區域ハ一層廣汎ト爲リタリ
其後千八百八十五年清佛間ニ戰爭ヲ開キタル外千八百九十四年日清戰爭ノ開
始マテ國際法上ノ問題ト爲リタルモノハ唯リ平和的ノ事項ノミナリ例ヘハ萬
國郵便條約海底電線條約鐵道條約版權工業等ニ關スル條約奴隸廢止ニ關スル
條約等ハ何レモ平和的問題トシテ最モ國際法ト重大ノ關係ヲ有スルモノナリ
殊ニ鐵道ニ關スル問題ハ近來國際法學者及ヒ實際家ノ間ニ研究ノ材料ト爲リ
タルモノニシテ鐵道ノ運搬ヨリ生スル損害ニ對シテノ責任問題ニ付テハ最モ
議論ヲ生ズタル所ナリシカ漸ク近代此等ノ問題ヲ或程度マデ確定スルニ至レ

リ奴隸賣買ヲ禁止ニ關スル條約モ亦然リ從來此事ニ付キ條約ヲ締結シタル例尠カラス就中維納條約ニ於テ既ニ此問題ヲ議定セシカ千八百九十年ニ至リ萬國ノ間ニ條約ヲ締結シテ此問題ヲ十分確定スルニ至レリ

千八百九十四年日清間ニ戰爭ヲ開始セシカ其結果タルヤ遂ニ下ノ關係約ニ依リ清國ハ大陸ニ於ケル領地ノ一部分並ニ臺灣澎湖島ヲ日本ニ割讓スルニ至リシカ遂ニ露僑獨三國ノ干渉ト爲リ大陸ニ於テ得タル領地ヲ更ニ返還スルニ至レリ下ノ關係約第五條ハ從來ノ領地割讓條約ニ先例ヲ見サル所ニシテ所謂選擇期間ノ滿了後ト雖モ割讓地住民ハ日本國政府ノ意思ニ因リテ自由ニ日本臣民ト看做ササルコトヲ得ルモノトス從來ノ例ニ依レハ選擇期間ノ滿了後ハ割讓地ノ國籍ヲ取得スルヲ原則トセリ又下ノ關係約ハ割讓地住民ノ性質ヲ明カニセサリシカ我國ノ學者ハ之ヲ割讓地ニ住所ヲ有スル清國人民ナリト解釋セリ千八百九十七年希土間ニ戰爭ヲ開始シ遂ニ歐洲諸國ノ干渉ヲ惹起シ其結果ハクレタ萬ノ自治ヲ認ムルニ至レリ千八百九十八年西班牙北米合衆國間ニ戰端ヲ開キ其結果遂ニキユウバーヲ拋棄シ並ニ比律賓群島ヲ割讓スルニ至レリ

千八百九十九年ヘイジニ於テ開カレタル萬國平和會議ニ於テ解兵ノ說ハ遂ニ認メラレサリシカ陸戰ニ關スル問題國際爭議ニ關スル問題亦十字條約ヲ海戰ニ適用スル問題輕氣球ヨリ危險物ヲ投下スル問題危險ナル瓦斯ヲ發散スル問題危險ナル彈丸ヲ使用スル問題ヲ議決シタリ

第十一章 國際法ニ關スル學說ノ沿革

國際法ニ關スル學說ノ沿革ハ之ヲ三期トス第一期ハ自然法一名性法時代ニシテ第二期ハ成法時代一名實際時代第三期ハ所謂折衷時代是ナリ

第一期ニ於テハ國家ノ性質ヲ抽象的ニ觀察シ自然法ト國際法トヲ混同セル時代ニシテ「グロシユース」氏ハ此時代ノ學說ヲ代表セルモノニシテ世人ハ此人ヲ國際法學ノ鼻祖ト稱セリ

第二期ハ國際法ヲ事實上ヨリ觀察セル學說ノ流行セル時代ニシテ亦條理ヲ眼中ニ置カス

第三期ハ第一期ニ於ケル學說ト第二期ノ學說トヲ折衷セル時代ニシテ「マルテ

ンズ氏ノ意見ニ依レハ今日ハ即チ此三期ニ屬スルモノナリトス
以上ハ國際法ニ關スル學說ヲ略述セルモノナリ而シテ予ハ國際法ノ基礎ハ條
理ニ在リト信ス

第十二章 國際法ノ編纂

今日國際法ノ編纂ニ就キ種種ノ見解行ハル或ハ國際法ノ規定ハ往往曖昧ナル
カ故ニ今日ニ於テ之ヲ一大法典ト爲ス必要アリト云ヒ或ハ國際法ノ編纂ハ國
際法ノ發達ヲ妨タルモノナリト云ヒ或ハ今日ノ時期ハ猶ホ法典編纂ノ時期ニ
非スト云フ而シテ政治家ノ意口ハ概チ非法典論ニシテ或ハ時機尙早論ヲ根據
トスル者アリ或ハ學說未タ一致セサルヲ理由トスル者アリ
抑モ法典論ハ英人ベンザーム氏ヨリ出タルモノニシテ譯語ノ所謂成典コジフ
ク「グロブ」ナル語ハ「ベンザーム」ノ案出シタルモノナリ爾來「ブルンチユリ
」「グロブ」ヒルド「ドマンブトル」ニエ「フキヤール」「アオグスト」「パロ
ウド」等ハ何レモ法典ニ擬シタル著述ヲ公ニシ煥ニ法典論ヲ鼓唱シタリ然レト

モ法典論ヲ今日ニ於テ實行スルノ困難ナルコトハ國際法ノ原則ヲ確定シタル
諸條約ニ徴シテ明瞭ナリ例ヘハ千八百五十六年巴厘海上法宣言千八百七十四
年「ルッセル」條約ノ如キ何レモ其困難ナルコトヲ證明スルニ餘アリ先ツ第一ニ
如何ナル國語ヲ以テ此法典ヲ編成スヘキヤ是レ頗ル困難ナル問題ナリ從來ノ
例ニ條約文ハ多クハ佛文ナレトモ國際法團體ノ全體ヲ拘束スル一般條約ニ佛
語ヲ用フルハ果シテ適當ナルヤ否ヤ是レ未決ノ問題ナリ又法典論者中ニハ往
往獨逸ノ先例ヲ引證シテ國際法ヲ法典トスルトキハ之カ爲メニ國際法團體ヲ
組織スル各國ノ關係ヲ親密トラスルコト云フ者アレトモ英米二國ノ如キハ歐
洲大陸諸國ト國際法ニ就キ見解ヲ異ニスルカ故ニ此見解ノ衝突ヲ調和スルハ
容易ノ業ニ非ス又國際法ヲ一旦法典トスルトキハ之ヲ改正スルコト容易ナラス
蓋シ一國內ノ法律ハ他國ノ承諾ヲ經シテ之ヲ改正スルコトヲ得ルモ國際法
典ノ改正ハ條約當事國ノ承諾ヲ要スレハナリ而シテ國際法ヲ法典ト爲シタル
後ニ於テ猶ホ國際慣例ヲ認ムヘキヤ否ヤハ問題ナリ「ホルセンドルフ」氏ノ云フ
如ク從來ノ學者ハ全ク此問題ヲ等閑ニ附シシハ解スヘカラサルナリ

第二編 各論

第一章 國際法ノ主體

國際法ノ主體ハ獨立ノ國家ナルコトヲ要ス所謂半主權國ニ付テハ後ニ説明スヘシ)而シテ獨立國ハ三箇ノ要素ヲ有スルコトヲ要ス即チ主權國土及ヒ人民是ナリ

學者ハ往往人民ヲ以テ國際法ノ主體ト爲ス者アレトモ全ク誤解ナリトス從來人民ノ設立シタル商事會社カ往往國際法ノ主體ト同一ナルカ如キ觀アリシハ事實ニシテ例ヘハ東印度會社(千六百年代ニ設立セラレ千八百五十八年ニ至リ始メテ其特權ヲ饒奪セラレタルモノ)ノ如キハ條約ヲ締結シ使節ヲ派遣シ戰爭ヲ爲シタルコトアリシカ英國政府ノ代表者トシテ此ノ如キ權利ヲ行ヒシニ過キス今日ニ於テモ亞弗利加(ニエーケル)河近傍東亞弗利加及ヒ南亞弗利加ニ於テ英國ハ廣大ナル特權ヲ有スル會社ヲ認メ侵害主義ノ機關トセリ獨逸モ亦千八百八十五年以來ニユギニヤニ於テ非常ノ特權ヲ有スル會社ヲ設立ヲ認メタ

リシカ此等ハ殆ト東印度會社ヲ今日ニ復活スルモノナレトモ是レ又國際法ノ主體ニ非サルコトハ一般ノ學說ノ認ムルノミナラス畢竟英國政府ノ意思ニ從ヒ動作スル機關ニ過キス

君主モ亦國際法ノ主體ニ非ス法王モ亦然リ但シ羅馬法王カ國際上並ニ國法上ニ於テ特權ヲ有スルコトハ事實ニシテ特ニ國法上之ヲ伊太利ノ臣民ト認ムヘキヤ否ヤハ未決問題ナリ

叛民モ亦國際法ノ主體ニ非ス叛民ハ國際法中或部分ノ適用ヲ受クルコトアリ即チ交戰主體ト認メラレタル場合はナリ然レトモ單ニ戰時公法ノ範圍内ニ於テ一人ノ人格ト認メラレ得ヘキモノナルカ故ニ之ヲ準主體ト名クル方感ハ穩當ナラン

獨立國ハ主權ヲ有スヘキコトハ前ニ説明シタル所ナレトモ主權ノ意味ハ國法上ニ於ケル意味ト異ナルモノトス今主權ニ關スル「ホルツユンドル」ヲ定義ヲ紹介スヘシ同氏曰ク主權トハ國民カ外部ニ對シ其生存ヲ維持スルモノヲ得ヘキ勢力狀態ニシテ他ノ國民ニ對スルモノヲ謂フ而シテ同氏ハ二箇ノ場合モ主權ノ

存在ヲ證明スルコトヲ得ヘシト謂ヘリ即チ第一ハ獨立シテ戰爭ヲ爲スコトヲ得ル場合第二ハ自由ニ憲法ヲ改正又ハ廢止スルコトヲ得ル場合ニシテ此等ノ事實アル以上ハ主權ヲ有スル獨立國ナリト觀ルコトヲ得ヘシト謂ヘリ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ一國カ主權ヲ有スルヤ否ヤハ二箇ノ事實ニ徴シテ之ヲ明カニスルコトヲ得ヘシ即チ第一ハ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル資格ニシテ第二ハ不法行爲ヲ爲ス資格是ナリ

國際法上ニ所謂法律行爲ハ國際法上ノ權利ヲ取得シ又ハ義務ヲ負擔スル等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル資格ヲ指稱ス但シ民法ノ行爲能力ニ類スル者ニシテ唯其異ナル點一アリ民法ニ於テハ權利能力ヲ有スル者ハ必スシモ法律行爲ヲ爲スモノナリト言フヲ得サレトモ國際法上ニ於テ行爲能力ヲ有スル者ハ必ス權利能力ヲ有シ權利能力ヲ有スル者ハ又行爲能力ヲ有スルコト是ナリ國家カ爲ス所ノ法律行爲ハ其例一一列擧スルニ違アラスト雖モ就中最モ重大ナルモノハ條約ヲ締結スル行爲及ヒ戰爭ノ行爲是ナリ戰爭ヲ爲ス行爲ハ一見不法行爲ナルカ如キモ國際法ノ一部分タル戰時公法ニ於テ之ヲ認ムルカ故ニ其行爲ハ

適法行爲即チ法律行爲ナリ要スルニ戰爭ノ行爲ト其原因トヲ混同セザルコトヲ要ス戰爭ハ不法行爲ニ基因スル場合頗ル多シト雖モ一旦戰爭ナル關係發生スルヤ否ヤ其關係ハ適法的ナリ又戰爭ハ戰爭中ニ生スル不法行爲自體ト混同セザルコトヲ要ス例ヘハ戰爭中猥リニ毒藥ヲ使用セ又人民ノ財產ヲ掠奪スル等ノ所爲ハ何レモ國際法ニ違反スルモノニシテ不法行爲ナリ其他國家ノ行ハ所ノ不法行爲ノ例ハ枚擧スルニ違アラスト雖モ就中重大ナルモノハ條約違反ノ行爲是ナリ然レトモ國家ハ往々其臣民ノ爲シタル不法行爲ノ爲メニ責任ヲ生スルコト亦之アリ要スルニ法律行爲及ヒ不法行爲ニ付キ責任ヲ負擔スルニ足ル事實アル以上ハ主權國ナルコト明白ナリ

國家カ主權ヲ制限セラレタル場合ハ國際法ノ主體ニ非スシテ或ハ國際法ノ準主體ト爲ルコトアルヘシ然レトモ國家カ主權ノ作用ヲ制限スルハ隨意ニシテ獨立國タルヲ失ハサルモノトス例ヘハ普佛戰爭ノ際佛國カ媾和條約ニ依リ獨兵ノ自國ニ留在スルヲ認メタル如キ或ハ日清戰爭ノ際上海ヲ以テ中立地ト爲シ日本カ此地ニ對シ戰鬪權ヲ行使スルコトヲ得サリシ如キハ何レモ主權其モ

ノヲ制限シタルモノニ非スシテ其行使ヲ制限シタルモノナリ蓋シ國家ハ此場合ニ主權ノ制限ヲ承諾セサルコトヲ得ルカアルモノニシテ主權作用ノ制限ハ國際法ノ主體タルヲ妨ケサルモノトス然ルニ茲ニ一問題アリ外國ノ君主又ハ使節等ニ對シ主權ヲ行使スルコト能ハサルハ國際法上ノ原則ナリ人或ハ此場合ヲ以テ主權ノ制限ナリト云フ者アリ假ニ之ヲ主權ノ制限ナリトスルモ或特別ノ國ノミカ外國ノ君主等ニ對シ主權ヲ行フコト能ハサルモノニ非スシテ國際法團體ヲ組織スル國家ノ全體カ外國ノ君主等ニ對シ主權ヲ行使スル能ハサルモノナリ故ニ予輩ノ所謂主權トハ此等ノ範圍内ニ於ケル勢力狀態ヲ意味スルモノニシテ主權ノ制限トハ更ニ此範圍内ニ於テ制限ヲ加フルコトヲ意味スルモノト知ルヘシ猶ホ國際法上ヨリ生スル制限ニ付テハ後ニ章ヲ分チテ説明スヘシ

現行ノ國際法ニ於テハ領地ノ廣狹ニ由リ國際法ノ主體タルト否ヤトヲ區別セサルモノトス別ヘハ「モナコ」ノ如キハ今日最小國ノ一ニ算セラレルモノナレトモ國際法ノ主體トシテ外國ニ使節ヲ派遣シ又ハ外國ノ使節ヲ接受シ其他條約

ヲ締結スルコト等國際法上大國ヲ有スル權利ヲ全然享有セリ蓋シ中國ハ宗教ハ國家カ國際法ノ主體タルト否ヤトニ關係セサルコトハ既ニ國際法ノ定義ヲ説明スルニ當リ陳述シタル所ニシテ今日一定ノ宗教ヲ以テ國際法ノ主體タル要件ト爲スカ如キハ實際ヲ知ラサルノ論ナリ政體モ亦同シ即チ君主國ナルト將タ共和國ナルトハ國際法ノ主體タルカ爲メニ何等ノ關係ナキモノナリ隨テ國家カ舊政體ノ時ニ締結シタル條約又ハ國際上ノ行爲ニ付テハ新政體ヲ施行シタル後ニ於テモ之ヲ遵奉スルカ若クハ責任ヲ負ハサルヘカラス面シテ舊政體ノ時ニ締結シタル條約カ依然トシテ其效力ヲ保有スルコトハ從來學者間ニ議論アリタル所ナレトモ千八百三十一年ノ倫敦條約ニ由リ其效力ヲ保有スヘキ旨ヲ宣言セラレルニ至レリ一定ノ王統又ハ君主ノ眼目トシテ締結シタル條約ハ此王統若クハ君主ノ滅亡ト共ニ其效力ヲ失フモノトス例ヘハ「ブールボ」ン家ノ爲メニ締結シタル佛奧條約「シエテワルト」家ノ爲メニ締結シタル佛英條約ノ如キ又拿破崙第三世カ「マキモ」リアン帝ノ爲メニ締結セタル佛墨條約ノ如キ孰レモ此事ヲ證明スルニ足ル

國家カ無政府ノ狀態ニ陥リタル場合ニ於テ其事實ノ繼續間國際法ノ主體ハ依然トシテ存在スルヤ此問題ニ付キ說ヲ爲ス者アリ曰ク無政府ノ狀態ハ繼續スル時間長キトキハ國際法ノ主體ハ消滅シタルモノナレトモ之ニ反シテ無政府ノ狀態カ繼續スル時間短少ナルトキハ國際法ノ主體ハ依然トシテ存在スルモノナリト云ヘリ然レトモ此說ハ不當ナリト信ス何トナレハ國際法ノ主體タルカ爲メニハ一定ノ要件ヲ備フルコトヲ要スルコト前述ノ如シ然ルニ一定ノ國カ無政府ノ狀態ニ陥ルヤ治者及ヒ被治者ノ關係ハ絶滅シ主權者ナキニ至ル是レ國際法主體ノ要件ヲ缺クモノニシテ一旦之ヲ缺クトキハ縱令其時間極メテ短少ナルモ國際法主體ノ消滅ヲ妨クル能ハス然リト雖モ實際ヲ觀ルニ諸外國ハ多ク之ヲ國際法主體ノ存續スルモノト認ムルカ如シ

國王カ貶位セラレ又ハ放逐セラレタル後更ニ舊位ニ復シタルトキ其中間政府ノ爲シタル行爲ヲ認ムヘキヤ否ヤ此問題ニ付テハ認ムヘシトスル說頗ル多ト雖モ事實ハ同軌ニ非サルカ如ク例ヘハ「シニチワルト」王「ハク」ロソウエルヲ締結シタル條約ヲ認メタリシカクエモン「ト」反ヒ「ク」ール「ヘ」ツセ「ン」フ君主ハ中間政府

第二章 國際法主體ノ成立

國家カ成立スル原因ハ千差萬別ナリト雖モ國際法ニ何等ノ關係ナキモノトス維納會議ノ際多數ノ列席員カ代表シタル適法主義ノ如キハ國家成立ノ原則ニ大關係アル所ナレトモ現行國際法ニ於テ採用セラレズ而シテ一定ノ國家カ國法上成立スルモ國際法ノ主體ト爲ルカ爲メニハ所謂承認ナル手續ヲ要ス蓋シ國際法團體ヲ組織スル國ハ合意ニ因リテ互ニ連結セラルルモノニシテ國際法團體ノ一員ト爲ルカ爲メニ此合意ニ加入スルノ必要アリ且ツ一定ノ國ハ其成立ト共ニ當然國際法團體ニ加入スルモノトセハ往來國際法團體ノ利益ト衝突スル場合ヲ生スヘシ蓋シ國際法團體ヲ組織シタル所以ハ他ナシ國家カ互ニ其利益ヲ保護セントスルニ在リ然ラハ新ニ成立シタル國カ國際法團體ノ利益ヲ侵害スル恐アルニ於テハ其加入ヲ拒絕スルコトヲ得ルコト當然ナリ而シテ國家カ實際獨立國ナル場合ニ於テハ國際法團體ハ必ス之ヲ承認スルノ義務アリ

ヲト云フ者アレトモ先ニ述ベタル如ク國際法團體ハ自己ノ利益ヲ拋棄スルノ義務ナキモノナリ然レトモ叛民カ適法政府ト交戦中之ヲ承認スルハ國際法違反ナリト云フホルツェンドル²ノ説ハ予輩ノ首肯スル所ナリ例ヘハ米國獨立戰爭ノ際佛國カ其獨立ヲ承認シタルハ國際法ニ順適シタル所爲ト解フヘカラス

承認ノ順序ニ付テハ一定ノ規則ナシ即チ國際法團體ノ全體カ同時ニ之ヲ承認スルモ將タ順次ニ承認ヲ爲スモ差支ナキモノトス從來ノ例ヲ觀ルニ叛民ヲ各國ニ於テ承認シタル後始メテ適法政府カ之ヲ承認スル例尠カラズ例ヘハ北米合衆國希臘ノ如キ即チ是ナリ

承認ノ方式ハ一定セス然レトモ承認ノ性質上之ヲニ分ツコトヲ得ヘシ即チ明諾及ヒ默諾是ナリ明諾ハ條約外交文書等ヲ以テ承認ヲ與フル場合ニシテ例ヘハ前後ノ伯林條約ニ於テ「バルガン半島ノ諸國並ニコンゴ」國ヲ承認シタル如キ又「ルーメニヤ」ヲ外交文書ニ依リテ承認シタルカ如キ即チ是ナリ默諾ノ例ヲ舉クレハ使節ヲ派遣シ又ハ接受シ條約ヲ締結シ又ハ承認國被承認國ノ人民

カ交通スルコトヲ默認スル場合ノ如キ是ナリ而シテ被承認國ノ勳章ヲ佩用スルコトヲ許ス場合ニ之ヲ承認シタリト看做スヘキヤ否ヤニ付キ議論ヲ爲ス者アレトモホルツェンドル²氏ハ承認シタルモノト看ルヘカラスト云ヘリ

承認ニハ一定ノ條件ヲ付スル例尠カラズ例ヘハ宗教ノ自由ヲ擔保シタル伯林條約千八百七十八年ヲ觀ルニ宗教自由ヲ擔保スルコトヲ承認ノ條件ト爲シタルカ如シ然レトモ同條約ノ解釋ニ付テハ大ニ議論アリ「リスト」³如キハ右ノ條款ヲ以テ特別ノ義務ヲ規定シタルモノナリト云ヘリ要スルニ一定ノ事實ヲ條件ト看做スヘキヤ將タ義務ト看做スヘキヤハ之ヲ確定スルコト頗ル困難ナリトス

叛民ヲ交戦主體ト認ムルコトハ承認ト同一ニ非サルコトハ既ニ前ニ陳述セシ所ナリ然ルニ實際ニ於テハ交戦主體ノ承認ハ國際法主體ノ承認ニ變更スル例甚タ多シ而シテ叛民ヲ交戦主體ト承認シタル以上ハ之ト條約ヲ締結シ又ハ使節ヲ交換スルハ固ヨリ自由ナリトス

承認ハ既往ニ其效力ヲ及ホスヤ否ヤ既往ニ效力ヲ及ホスヘシト主張スル者ハ曰

ク若シ其效力ヲ既往ニ及ホサストスレハ承認前ニ爲シタル行爲ハ國際法主體ノ行爲ニ非ス隨テ種種ノ困難ヲ生ヌヘシト云フニ在リ然レトモ如何ナル時期ニ遡リテ之ヲ承認スルヤ頗ル曖昧ナリ蓋シ一定ノ國ハ條約ニ因リテ成立シタル場合ニ於テ其成立ノ時期ヲ確定スルハ困難ニ非ス例ヘハ殖民地カ母國ニ叛キテ國家ヲ組織シタルカ如キ或ハ「トランズバル」ノ如ク又ハ「リベラ」ノ如ク無主ノ地ヲ先占シタル後ニ國家ヲ樹立シタル國家成立ノ時期ヲ知ルハ頗ル困難ナリトス殊ニ我國ノ如ク從來數千年存在シタル國ヲ承認スル場合ニ於テ既往ニ遡ルモノトスルモ國家成立ノ時期ヲ知ル能ハサルヲ奈何セン

第三章 國際法主體ノ消滅

一國ノ法律ハ國家ノ生存ヲ前提トスルカ故ニ其消滅ヲ規定スルコトナシ然ルニ國際法ハ國際法主體ノ消滅ヲ規定モリ是レ一國ノ法律ト異ナル所ナリ而シテ國際法主體タル國家カ消滅スル原因ハ一ニシテ足ラスト雖モ要スルニ國際法主體ノ要件ヲ喪失スル場合ニ於テ其消滅ヲ見ル例ヘハ國民カ四方ニ散亂ス

ル場合ノ如キ或ハ地震其他自然ノ作用ニ因リテ國土カ陷落スル場合ノ如キ是ナリ又國民ノ全體カ死亡シタル場合ノ如キ例ヘハ猶太人カ「バビロニ」ニ於ケル小邦ノ國民ヲ殺戮シタルカ如キ即チ是ナリ又中世日耳曼人カ所謂國民移轉ノ時ニ他國ニ移住シタル場合ニ於テモ亦國家ノ消滅ヲ見ル而シテ戰爭ノ結果國際法主體タル國家カ消滅スル場合亦尠カラス

國際法主體カ消滅スル場合ニ國際法ノ存立ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤ蓋シ從來ノ例ニ徴スルニ國際法團體ヲ組織スル國カ多少消滅スルモ國際法ハ依然トシテ其效力ヲ保有セリ然ラハ幾許ノ主體カ消滅シタル場合ニ國際法ノ消滅ヲ來スヤハ一ノ疑問ニシテ抽象的ノ答辯ヲ爲スコト能ハサレトモ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ所謂國際法團體ニハ一般的ノモノト特別ノモノトノ二種アリ歐米並ニ亞細亞ノ諸國ハ唯一ノ國際法團體ヲ組織スルモノナレトモ其中箇箇ノ主體ハ互ニ團結シテ小國際法團體ヲ組織ス而シテ此小國際法團體ヲ組織スル國家カ消滅スル場合ニ於テ其間ニ行ハレタル條約ハ依然トシテ保有スルヤ否ヤハ條約ノ性質ニ由リテ其結果ヲ異ニスヘシト雖モ不明ナル場合ニハ依然トシテ其效

力ヲ保有スルモノト推定スルコトヲ得ヘシ

國際法主體ノ消滅スルトキハ其享有シ又ハ負擔スル權利又ハ義務ノ當然消滅スルコトハ別ニ説明ヲ要セザレトモ國際法主體ノ消滅カ他ノ主體ノ行爲ニ關係スル場合ニ於テ他ノ主體ハ消滅シタル國家ノ權利義務ヲ相續ス所謂國家相續ノ問題ナリ此問題ハ自然法學者カ從來研究シタル所ナリシカ其後此問題ヲ研究スル者漸ク其數ヲ減シ「フタル氏以來再ヒ此問題ヲ研究スル者ヲ見ルニ至レリ就中「ウエスフッリヤ」ノ「亡滅」ハ學者間ニ研究ノ材料ト爲リ隨テ意見ヲ法ニシタル者尠カラサリシカ「ウエスフッリヤ」ノ「亡滅」ニハ國際法ノ所謂相續ノ公理ヲ擬スルヤ否ヤノ點ノミヲ説明スルニ止マルカ故ニ參考ニ供スル價值ナシ「グラルク」「フオンマルタンズ」「クリウベル」「ホイトン」等ハ國家相續ノ問題ヲ研究セシカ相續ノ問題ト國家内部ノ變動問題トヲ混淆セリ「フタル」ハ國家相續ノ種類ヲ明カニセシ點ニ於テ少クトモ此問題ノ研究ニ付テ一進歩ヲ與ヘタルモノナリ又英國ニテハ「フ井リモーア」氏カ此問題ヲ研究セシカ多クハ民法上ノ問題ト混同セリ之ニ反シテ「フネオー」ル「マルテンズ」「ブラジフオデー」等ハ此

問題ノ研究上學者ニ巨多ノ材料ヲ供スルニ至レリ然レトモ今日此問題ノ研究上吾人ノ最モ參考ト爲ルヘキモノハ伊太利ノ「ガッパ」及ヒ佛國ノ「アッブレ」ン「兩氏ナリトス又獨逸ノ「ホルツェンデル」ノ如キハ真正ナル國家相續及ヒ不真正ナル國家相續ヲ區別シ此問題ノ研究方法ニ付キ新機軸ヲ出セリ

此ノ如ク今日此問題ヲ研究スル者頗ル多ク隨テ其學說種種アレトモ就中最モ議論ト爲リタルハ國家相續ノ法理是ナリ今此等ノ學說ヲ大別スレハ民法上ノ相續說ト利得說トニアリ民法上ノ相續說ハ自然法學者以來世間ノ學者中之ヲ贊成スル者甚タ多カリシカ今日ニ於テハ衰頹セリ而シテ相續說ヲ駁スル者ハ曰ク相續ハ一定ノ法律ヲ待チテ始メテ生スルモノナレトモ國際上ニハ此事ヲ規定シタル法律ナシト然レトモ相續國カ被相續國ノ權利義務ヲ或程度マテ相續スルハ學說上竝ニ實際上一般ニ認メラレタル所ナルカ故ニ反對說ノ如ク國際法ヲ以テ法律ト同性質ノモノト爲サハ國際上ニ相續ノ規定ナシト云フヘカラス予ヲ以テ之ヲ觀ルニ國際上ノ相續ハ民法上ノ相續ト其精神ヲ異ニス蓋シ民法上ノ相續ハ舊人格ハ財產上猶ホ存在スルモノト認ムルモノナレトモ之ニ

反シテ國家相續ノ場合ニハ相續國ハ被相續國ノ權利義務ヲ從來享有シ又ハ負擔シタルモノト看做スモノトス

政府ノ變更ハ國際法主體ノ消滅原因ト爲ラス古ノ學者アリスタラレスア如キハ之ヲ消滅ノ原因ト認メタレトモ今日ノ學說ハ一般ニ之ヲ否認セリ近來ニ於テハ拿破崙三世カ帝位ニ上リタル時ニ舊政體ノ時ニ締結シタル條約ハ新政體ノ佛國ニモ亦其效力ヲ及ホスヘキコトヲ歐洲諸國ニ於テ一般ニ認メタリ又千八百三十一年ノ倫敦條約ニ於テ政體ノ變更ハ條約ノ效力ニ影響ヲ及ホササル旨ヲ明カニセリ此等ノ實例ハ孰レモ政體ノ變更ハ國際法主體ノ消滅原因ト爲ラサルコトヲ間接ニ認メタルモノナリ「ホルツェンドルフ」ハ國際法主體ノ消滅ノ五原因ヲ擧ケタリ

第一掠奪

第二法律行爲ニ因ル主權ノ解除

第三主權ノ斷絶

第四各邦カ外交ヲ爲ス能ハサル所ノ組織國ヲ建立シタル場合

第五國家一部ノ消滅

(甲) 國家ノ一部カ獨立シテ新ナル國ヲ建立シタル場合

(乙) 國家カ半主權國ト爲リタル場合

相續國カ被相續國ノ權利義務ヲ相續スル程度ニ付テハ議論アル所ナルカ故ニ左ノ數項ニ分テテ説明スヘシ

第一 條約 「ホルツェンドルフ」ハ條約ヲ二箇ニ區別シ一ハ國際法ノ要素タル條約ニシテ一ハ此以外ノ條約ナリト爲ス而シテ國際法ノ要素タル條約ハ當然相續國ニ效力ヲ及ホスモノナレトモ其他ノ條約ハ國力人口政體等ヲ標準トシテ締結シタルモノナルカ故ニ國際法主體ノ消滅ト共ニ條約モ亦消滅スヘシト曰ヘリ然レトモ被相續國ノ土地ニ關スル條約ハ此例外ナルコトヲ認メタリ又「ブアツアル」ノ如キハ屬地の條約ト屬人の條約トヲ區別シ前者ハ被相續國ニ效力ヲ及ホセトモ屬人の條約ハ其效力ヲ及ホサスト論セリ蓋シ所謂屬地の條約トハ例ヘハ國際地役河川ノ交通境界ノ確定等ノ條約ヲ指稱ス又「フッーベル」ノ如キハ屬地の條約及ヒ財政的條約ハ相續國ニ效力ヲ及ホスヘキコト今日ノ定論

ナリト曰ヘリ蓋シ財政的條約トハ公債擔保條約ノ如キモノ是ナリ
「キヤチビヤン」氏ハ左ニ列記シタル以下ノ條約ハ相續國ニ移ルヘキモノナリト
曰ヘリ

- (一) 政治上ノ意味ヲ有スル條約 例ヘハ條約同盟條約中立條約ノ如キ是ナリ此等ノ條約ハ一國ノ政治ト離ルヘカラサル關係ヲ有スルカ故ニ國家カ消滅スル場合ニ於テ相續國ニ移ルヘキモノニ非スト
- (二) 通商條約 此條約ハ一定ノ關稅區域ヲ前提トスルモノナルカ故ニ此關稅區域ノ消滅ト同時ニ通商條約モ亦消滅スヘキモノトス若シ通商條約カ相續國ニ移ルモノトセハ相續國ハ二箇ノ關稅區域ヲ有スルニ至ルヘシ即チ併合セラレタル國家ノ部分ニハ被併合國ト第三國トノ間ニ締結シタル通商條約行ハレ而シテ併合國カ有スル從來ノ領土ニハ併合國カ第三國ト締結シタル通商條約行ハルルニ至リ通商條約ノ性質ニ反スルモノナリト
- (三) 法律上ノ事項ヲ定メタル條約 例ヘハ犯罪人引渡條約郵便條約等はナリ此種ノ條約ハ國家ノ行政司法等ニ關スル制度ヲ標準トシテ定メタルモノナルカ

故ニ國家消滅ノ結果トシテ行政及ヒ司法ニ關スル制度ノ消滅スルト同クニ又此種ノ條約モ當然消滅スヘシト

以上ノ諸説ヲ按スルニ屬地的條約及ヒ屬人的條約ノ二箇ニ區別セシ説最も適當ナリト信ス蓋シ予ノ見解ニ依レハ屬地的條約トハ國家ノ領土ヲ主眼トシテ締結シタル條約ヲ謂フモノニシテ陸地ノミニ限ラス海水ヲ主眼トシテ定メタル條約モ亦屬地的條約ナリト信ス例ヘハ平時ニ國家領海ノ一部分ヲ以テ外國艦隊ノ本據ト定メタル條約ノ如キ所謂國際地役ノ條約ニシテ之ヲ締結シタル國家カ消滅シタル後ニ於テモ相續國ハ此條約ヲ守ラサルヘカラス之ニ反シテ國家ノ信用ヲ主眼トシタル條約ハ總テ屬人的條約ナリ從來屬地的及ヒ屬人的條約ノ二箇ニ區別セシ學者ト雖モ此條約ノ範圍ニ付テハ其見解ヲ異ニセリ然レトモ通商條約條約同盟條約等ハ屬人的條約ナリト爲ス說多數ヲ占ム而シテ實例ヲ按スルニ佛蘭西カ「マダガスカル」ヲ併合シタル場合ニ於テ「マダガスカル」締結シタル通商條約ハ佛蘭西ニ移ラサリキ

以上ノ說明ハ國家相續ノ一種類タル所謂併合ニ付テ述ヘタルモノニシテ併合

ノ例ハ近世ニ於テ尠カラス拿破翁一世カ諸國ヲ併合セシ例ハ姑ク措キ維納會議ニ於テモ種種ノ併合ヲ認メタリ其他埃太利カ「クラカウ」ヲ併合シ又佛蘭西カ「サボーエ」ヲ併合シ普魯西カ「ハンノーブル」「クールヘッセン」「シユレスリッヒ」ホ
ルスタイン「フランクタルト」等ヲ併合シ又佛蘭西カ「マダカスカル」ヲ併合シ
北米合衆國カ布哇ヲ併合シタル如キ是ナリ以下尙ホ併合ニ就キ説明スヘシ
第二 公債 被併合國カ負擔スル公債ハ併合國ニ於テ之ヲ引受クルモノトス
此事ニ付テハ今日ノ學說ハ何レモ一致セル所ナリ但シ從來ノ學說例ヘ「ハグロ
チユース」時代ノ學說ハ全ク之ニ反對セリ今此原則ヲ認メタル實例ヲ舉ケレハ
千八百三年獨逸帝國議會ノ決議千八百五年「グーリエ」ノ併合千八百十年「
ンノーブル」ノ併合千八百十年「フランクタルト」ノ併合千八百四十九年「ホーヘンツ
オレルン」ノ併合即チ是ナリ然ルニ公債ノ分配ニ付テハ學說一定セス或ハ人口
ヲ標準トシテ此分配ヲ定ムヘシトノ說アリ或ハ領地ノ大小ニ依リテ之ヲ定ム
ヘシト云ヘル說アリ或ハ租税ノ分配ヲ標準トスヘシトノ說アリ而シテ第三說ハ
今日最モ勢力アリ然レトモ此問題ハ元來國際法上ノ問題ニ非スシテ國法上ノ

問題タリ

國家ノ相續ニハ所謂限定ノ承認ヲ認メス之ヲ解スル者ハ曰ク限定承認ハ晚年
ニ起リタル民法上ノ制度ニシテ相續ノ法理ニ適合セサルナリ隨テ限定ノ承認
ハ特別ノ規定アルコトヲ要ス今甲國ヲ乙國カ併合シタル場合ニ於テ當然其財
產ヲ相續スル以上ハ又其公債ヲモ當然相續スヘキ必要アリト
公債ヲ辨濟スル者ハ相續國ノ全體ニ非スシテ被相續國ナリトノ說尠カラス予
ヲ以テ之ヲ觀ルニ此說ハ何等ノ價值ナキモノナリ何トナレハ國際法上ノ辨濟
者ハ必ス人格ヲ有スル者ナルニ拘ラス被相續國ハ既ニ消滅シタルモノナレバ
ナリ

國際法學者ハ往往行政上ノ公債ナル名稱ヲ用フルモノアリ蓋シ行政上ノ公債
トハ官吏ノ恩給等ヲ云フモノニシテ此場合ニハ相續國カ當然恩給ノ請求ニ應
スヘキモノナリト曰ヘリ又貯金、保險等ノ爲メニ國庫カ負擔スル債務モ亦當然
相續國ニ移ルモノナリ予ノ觀ル所ニ依レハ此等ノモノハ孰レモ既得權ニ屬ス
ルカ故ニ相續國ニ於テ之ヲ負擔スルハ當然ナルヘシ

第三 財產 被併合國カ有シタル財產ハ總テ併合國ニ移ル是レ亦學說竝ニ實例ニ於テ均シク認ムル所ナリトス然ルニ右ノ財產ヲ相續スル者ハ併合國ノ地方團體ト爲リタル被併合國ナリト云フ者アリ此說ハ公債ノ負擔者ヲ以テ被併合國ナリトスル說ト其根據ヲ同シウス然レトモ被相續國ハ前ニ一言シタル如ク人格ニ非サルカ故ニ財產ノ所有者タルコト能ハサルハ勿論ナリ然ルニ國法上ニ於テ財產ノ所有者ト認ムルコトハ無論差支ナキモノニシテ其例亦尠カラス例ヘハ千八百六十七年、クルム(ケルム)併合千八百六十八年、ハンノーベル併合千八百七十一年、エルザース(ロートリンゲン)併合ノ如キ是ナリ但シ被併合國ノ君主カ有シタル財產ト實際ニ區別スルノ困難ナルハ先例ノ示ス所ナリトスノ財產ト君主ノ財產ト實際上區別スルノ困難ナルハ先例ノ示ス所ナリトス終ニ臨ミテ國家併合カ併合國ノ法律及行政ニ及ホス影響ヲ略述スヘシ此事ハ寧ロ國法上ノ問題ナレトモ國際法ノ教科書中此事ヲ説明スル者多キカ故ニ始ク其例ニ依フノミ被併合國ニ行ハレタル憲法刑法訴訟法等ノ公法ハ國家ノ消滅ト共ニ消滅スルモノニシテ行政ニ關スル制度モ亦然リ之ニ反シテ私法ハ

相續國ニ於テモ亦行ハルモノニシテ官吏ノ如キハ國家消滅ト同時ニ其資格ヲ喪失スルモノナレトモ實例ヲ見ルニ相續國ニ於テ新ニ官吏ヲ任命スルマテ假ニ職務ヲ行フ例頗ル多シ又私法上ノ法人ハ相續國ニ於テ認メラルルヲ例トス兵士ハ相續國ニ於テ其兵役ヲ解除スルマテ其資格ヲ保有スルモノニシテ士官モ亦從來ノ地位ヲ保有スルヲ例トス
國家相續ノ第二ヲ混和トス即チ數國カ其主權ヲ拋棄シテ新ニ一國ヲ組織スル場合ニシテ千八百一年「ヘルウエチク」共和國ヲ組織セシ如キ又千八百十九年「ロンビヤ」共和國ヲ組織シタル如キ僅ニ此例ニ屬ス混和ニ因リテ國際法ノ主體タル資格ヲ失ヒタル國ハ當然其權利義務ヲ失フコト併合ノ場合ト毫モ異ナラサルモノニシテ之ヲ相續スル者ハ混和國ナリトス而シテ相續スル權利義務ノ範圍ハ併合ノ場合ニ說明シタル所ト全ク同一ナリトス
以上ハ學者カ所謂完全ナル國家相續或ハ全部國家相續ト稱スルモノニシテ以下一部ノ國家相續ニ付キ説明スヘシ
(甲) 領地割讓 領地割讓トハ甲國カ其領土ノ一部分ヲ乙國ニ讓與スル場合ヲ指

稱スルモノニシテ其原因一ナラス或ハ媾和條約ニ因ルコトアリ或ハ買賣交換贈與等ニ基因スルコトアリ從來ノ學者ハ領地割讓ノ性質ヲ研究スル者少ク往之ヲ以テ土地及ヒ臣民ノ二ヲ目的物トシタル主權ノ讓與ナリト解セリ然ルニ予ハ領地割讓ヲ以テ領地主權ノ讓與ナリト斷言セントス即チ領地割讓ハ單ニ土地ニ對スル主權ノミヲ移轉スルモノナリ若シ世ノ學者ノ如ク土地及ヒ臣民ノ二ヲ移轉スルニ非サレハ領地割讓ニ非スト言ハハ無人島ヲ割讓スルコト能ハサルニ至ルヘシ而シテ從來ノ例ヲ按スルニ領地割讓ニハ必ス領地ニ關スル主權ヲ讓渡ササルコトナク之ニ反シテ臣民ハ所謂選擇條款ニ依リ依然トシテ讓渡國ノ臣民タル資格ヲ保有スルコトヲ認ムルヲ以テ之ヲ觀レハ領地割讓ニハ臣民ヲ目的物トスル主權ノ移轉スル必要ナキヲ知ルヘシ近例ヲ以テ之ヲ言ヘハ下ノ關係條約第五條ニ依リ清國臣民ハ依然トシテ從來ノ國籍ヲ保有スルコトヲ認メ之ヲ爲メ二箇年間ノ選擇期間ヲ與ヘタリ當時此選擇期間内ニ於ケル割讓地住民ノ國籍ニ付キ我國ノ學者間ニ議論アリシカ我國國際法學會ハ清國臣民ナリト決定セリ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ領地割讓ニハ必ス臣民主權ノ移

ヲ伴ハサルコトヲ知ルヘシ
「ミンジャミン、コンスタンカ」領地割讓ニ付キ自由主義ヲ唱道セシヨリ以來學者ハ往往從來ノ國際慣例ヲ批難スルニ至レリ爾來就中佛國學者中ニ於テ割讓地住民ノ意見ヲ問ハスシテ其國籍ヲ左右スルコト能ハストノ說ヲ爲ス者漸ク多キヲ觀ルニ至レリ而シテ此說ハ或ハ「プレビスヤット」國民表決ト爲リテ表ハレ或ハ國籍選擇條款ト爲リテ表ハルルニ至レリ但シ「プレビスヤット」ハ近世漸ク其例ヲ減少スルニ至リシカ選擇條款ハ近世ノ領地割讓ニ隨伴セサルハナシ然ラハ選擇條款ノ適用ヲ受クヘキ所謂割讓地住民ハ果シテ如何ナルモノナリヤ近時ノ領地割讓條約中割讓地住民ノ意味ヲ確定スルモノ尠カラス例ヘハ千八百五十九年「テウーリツヒ」條約千八百六十六年「維納」條約千八百七十一年「フランクフルト」條約ノ如キ是ナリ然ルニ日清媾和條約ノ如ク割讓地住民ノ意味ヲ確定セサルモノ亦尠カラス是ニ於テカ學者間ニ左ノ五說ヲ生スルニ至レリ
(一) 出生說 此說ニ依レハ割讓地ニ生レタル者ノミ割讓地住民トシテ選擇條款ノ適用ヲ受クヘキモノトス此說ハ實際上尠カラサル利益アリ即チ割讓地住民

ヲ確定スルノ容易ナルコト是ナリ蓋シ割讓地ニ生レタル事實ハ戶籍簿其他出生ヲ證明スル帳簿ニ依リテ容易ニ知ルコトヲ得レハナリ然ルニ又一方ヨリ觀レハ出生ナル事實ハ往往偶然ニ出ツルコトアルカ故ニ此事實ノミヲ標準トシテ選擇條款ノ適用ヲ受クル者ノ範圍ヲ定ムルハ正當ニ非ス

(二)住所說 此說ニ依レハ割讓地ニ住所ヲ有スル人民ハ割讓地ニ最モ密著ノ關係ヲ有スルカ故ニ選擇條款ノ適用ヲ受クル者ハ即チ此種ノ人民ナリト云フニ在リ此說ハ「ワイス」「コルダ」「パール」等有名ナル學者ハ何レモ唱道スル所ニシテ我國國際法學會モ亦此說ヲ代表セリ

(三)擇一說 此說ニ依レハ割讓地ニ生レタルカ又ハ住所ヲ有スルカ孰レカ右ノ中一條件ヲ具フル者ハ割讓地住民ナリト云ヘリ蓋シ割讓地ニ出生スルト將タ住所ヲ有スルトノ事實ハ割讓地ニ密著ノ關係ヲ有スル程度ニ於テ同一ナレハナリ

(四)併合說 此說ニ依レハ割讓地ニ生レ且ツ住所ヲ有スル人民ノミヲ以テ割讓地住民ト爲スモノニシテ最モ正確ナル說ナリト信ス蓋シ割讓地ニ住所ヲ有ス

ル人民ハ既ニ同地ト密著ナル關係アルモノナレトモ右ノ外此處ニ生レタル者ハ割讓地ニ關係アル點ニ於テ一層親密ナレハナリ然レトモ此說ハ讓受國ノ爲メニ往往不便ナル場合アリ即チ讓受國カ成ルヘク多數ノ人民ノ來化ヲ希望スル場合ニ於テ此學說ニ依ルトキハ來化者ノ數ヲ減スレハナリ蓋シ出生シテ且ツ住所ヲ有スル者ハ他ノ學者ノ所謂割讓地住民ニ比シテ其數少ケレハナリ

(五)ボールルコーウェ氏ノ說 氏ノ說ニ依レハ割讓地ノ憲法カ單純國ニ屬スル場合ト聯邦ニ屬スル場合トニ因リテ割讓地住民ノ意味ヲ異ニスヘシ即チ佛國ノ如キ單純國ニ於テハ住所ハ法律上出生ニ比シ重大ノ關係ヲ有スルカ故ニ佛國ノ如キ領地ヲ割讓シタル場合ニハ其土地ニ住所ヲ有スル者ヲ以テ割讓地住民ト爲スヘク之ニ反シテ瑞西國ノ如キ聯邦ニ屬スル國ノ領地ヲ割讓シタル場合ニハ割讓地ニ生レタル住民ヲ以テ割讓地住民ト爲スヘシ蓋シ聯邦國ニ於テハ生出ハ住所ニ比シ重大ノ關係ヲ有スレハナリ

妻及ヒ未成年者ノ國籍ニ付キ獨佛媾和條約ノ際ニ議論ヲ生シタルコトアリ即チ夫又ハ父母ノ國籍選擇ハ當然婦又ハ子ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤノ問題はナリ

獨逸政府ノ見解ニ依レハ當然影響ヲ及ホスヘキモノトスルモ佛國政府ノ見解ハ全ク之ニ反對ス下ノ開講和條約ニ於テハ此點ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケザラシカ此點ニ付テハ國際上確定シタル慣例ナク又學說モ未タ一定セズ

割讓地住民ハ國籍ヲ選擇スル條件ニ付テハ從來ノ慣例上必スシモ同一ニ非スト雖モ往往不動産ノ賣却ヲ以テ條件ト定ムル例アリ例ヘハ「サンスタフ」ハ條約及ヒ下ノ開講和條約ノ如キ即チ是ナリ蓋シ下ノ開講和條約ニ依レハ條約批准交換後二箇年内ニ不動産ヲ賣却シテ割讓地外ニ退去スル住民ハ清國臣民タル資格ヲ保有スルコトヲ得ヘシ然ルニ若シ此不動産ヲ賣却セザルトキハ不動産ノ運命如何予ヲ以テ之ヲ觀ルニ右ノ不動産ハ所有者ノ拋棄シタルモノニシテ無主物トシテ國庫ニ歸屬スヘキモノト信ス蓋シ從來ノ例ヲ按スルニ領地割讓ノ結果無主ト爲リタル物ノ運命ハ讓受國ノ國法ニ依リテ處分セララルモノトス領地割讓ノ結果ハ批准交換ニ依リテ生スルヲ例トス但シ引渡ノ時ヨリ始メテ效力ヲ生スル例又尠シトセス而シテ領地割讓ノ結果ハ讓渡國ノ領地主權ノ消滅ト共ニ讓受國ノ主權カ割讓地ニ及フモノナリ隨テ讓受國ノ憲法ニ反對ノ規

定ナキ以上ハ當然割讓地ニ實施セララルモノトス普佛戰爭ノ後獨逸憲法ハ割讓地ニ當然行ハレナリシ事實ヲ根據トシテ往往憲法ハ割讓地ニ當然其效力ヲ及ホスモノニ非スト云フ者アリ例ヘハ「フリーベル」ノ如キ是ナリ然レトモ獨逸憲法ハ自ラ其效力區域ヲ定メタルコトヲ忘レタル說ニシテ效力區域ヲ定メサル憲法ハ當然割讓地ニ行ハルルコト有名ナル國際法學者ハ多ク唱道スル所ナリトス「ブルンチユリー」ノ如キハ讓受國ノ公法ハ就レモ割讓地ニ行ハルルモノナリト云ヘリ而シテ實例ヲ見ルニ千八百五十四年「ヤーデン」割讓條約千八百六十七年「ジュレスウツヒ」「ボルスタイン」條約ノ如キ必スシモ一定セスト雖モ多クハ此學說ト一致セリ然ルニ私法ニ至リテハ從來ノ法律慣習カ其效力ヲ保有スルヲ例トス

所謂既得權ニ至リテハ之ヲ享有スルモノノ人民ナルト將タ國家ナルトフ間ハ讓受國ニ於テ尊重スルコトハ全ク確定シタル慣例ナリ其他私法上ノ法人例ヘハ鐵道會社ニ對スル買戻權又ハ監督權ノ如キモ讓受國ニ於テ當然相續スルヲ例トス例ヘハ千八百五十九年佛「サルジ」ニヤ條約千八百六十六年「ニヤチ」ニ

シ割讓條約千八百七十一年、フランス國ト締結シタル條約ノ如キモ皆之ヲ證明スルニ足ル

割讓地ニ於ケル讓渡國ノ官吏ハ主權ノ消滅ト共ニ當然其職務ヲ失フモノトス然レトモ實際ニ於テハ新ニ官吏ヲ任命スルマテ依然トシテ其職務ヲ繼續スルモノナレトモ官吏ノ資格ヲ以テ之ヲ爲スニ非スシテ後ニ任命セラレタル官吏ノ職務カ既往ニ過リ領地割讓ノ當時ヨリ存續セララルモノト看做サル即チ讓渡國ノ官吏ハ讓受國官吏ノ代理ヲ爲スニ過キス

宗教組合ハ領地割讓ト同時ニ其權利ヲ失フモノニシテ宗教條約モ亦領地割讓ト共ニ消滅スルモノトス是レ從來ヨリ一定セル慣例ナリ

次ニ領地割讓カ讓渡國ト第三國ノ間ニ締結セラレタル條約ノ上ニ及ホス效力ヲ説明スヘシ「パツタル」ノ例ニ倣ヒ佛國ノ學者ハ此場合ニモ屬地的條約及ヒ屬人的條約ノ二箇ヲ區別シ屬人的條約ハ一定ノ人格ヲ主眼ト爲スモノナルカ故ニ此人格ノ消滅セザル間ハ其效力モ亦舊ニ依リテ存スルモノトス即チ領地割讓ハ此種ノ條約ノ上ニ何等ノ影響ヲ及ホサザルモノトス然ルニ割讓地ノ全部

又ハ一部分ヲ主眼トシテ締結シタル條約ハ屬地的條約ニシテ此土地ニ附著スルモノナルカ故ニ其所有者ノ何國ナルヲ問ハス割讓地ト共ニ移轉スルモノトス然ルニ如何ナル條約カ屬地的條約ニシテ如何ナルモノカ屬人的條約ナルヤニ付テハ議論一定セズ唯通商條約條約其他政略ニ關係スル條約ハ領地割讓ノ影響ヲ受ケスト解スル者多シ之ニ反シテ割讓地ト他國トノ經界ヲ定ムル條約國際地役ニ關スル條約河川交通等ニ關スル條約ハ屬地的ナリト解スル者多シ而シテ實例モ亦此點ニ付キ殆ト一致セリ例ヘハ千八百十五年巴黎條約ニ依リ瑞西ハ「バーデル」ニ於テ城砦ヲ築カサル義務ヲ負擔セシカ千八百七十一年獨佛媾和條約ノ結果トシテ「エルザ」スカ獨逸ニ割讓セラレタル後ニ於テモ獨逸ハ右ノ義務ヲ今日マテ負擔セリ亦「サネーエン」ノ中立ニ付テモ同シ中立ヲ擔保シタル諸國ハ今日ニ至ルマテ猶ホ右ノ地ヲ中立地ト認メタリ其外千八百六十八年「チウリン」條約モ亦右ノ土地ヲ中立地ト認メタリ佛國ノ學者例ヘハ「スロ」スハ反對ノ說ヲ唱ヘ佛國政府モ亦同一ノ意見ヲ懷キ右ノ中立地ニ城砦ヲ築カントセシトアリシカ瑞西政府ノ抗議ニ遭遇シ千八百八十三年公文ヲ以テ瑞

西政府ニ對シ右ノ土地ヲ中立ト認メタリ此ノ如ク土地ニ密著ノ關係アル條約ハ割讓地ニ附著シテ讓受國ニ移ルモノナレトモ國際地役ニ付テ其原因ノ消滅ト同時ニ國際地役モ亦消滅スルコト尠カラズ例ヘハ「サルビニヤ」カ「サオーエン」ヲ領セシトキ「ワルリス」ヲ通行スル權利ヲ有セシカ「サオーエン」ニ對スル主權ヲ喪失セシ以來國際地役モ亦消滅セリ又混同ニ因リテ國際地役カ消滅スルコトアリ即チ國際地役ヲ負擔セル土地カ權利者ノ爲メニ讓受ケラレタル場合ニ於テ之ヲ見ル

甲國カ其領地ノ一部分ヲ乙國ニ割讓シタル後更ニ丙國ニ之ヲ割讓シタルトキハ孰レノ領地割讓ヲ有效ト認ムヘキヤ學者ハ往往引渡ヲ先ニ爲シタル國ニ讓渡シタルモノト看做スヘシトノ說ヲ唱道セリ例ヘハ「フーベル」ヲ如キハ然リ此問題タルヤ未タ實際ニ生セサル所ニシテ之ヲ研究シタル者極メテ少シト雖モ「フーベル」ヲ說ハ未タ國際法學上ノ典故トスルニ足ラサルナリ蓋シ引渡ハ虛式ニシテ領地割讓ノ上ニ何等ノ影響ヲ及ボササルコトハ近來ニ於ケル領地割讓ノ例ニ照シテ之ヲ知ルヘシ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ引渡ハ羅馬法ノ遺物ニシテ往

時羅馬法ト國際法トヲ混同シタル餘蘊ニ過キサルヘシ引渡ノ方式カ一定セザルヲ見テ之ヲ知ルヘシ而シテ領地割讓ハ果シテ批准交換ニ依リテ效力ヲ生スルモノトスレハ批准交換ノ前後ニ依リテ此問題ヲ決定スルヲ可トス
 次ハ信仰ノ自由ヲ擔保スル條約ニ付キ一言スヘシ即チ甲國カ諸外國ニ對シテ其領地内ニ於テ信仰ノ自由ヲ擔保スル義務ヲ條約ニ依リテ負擔シタル場合ニ其領地ノ一部分ヲ乙國ニ割讓シタリト假定センニ此場合ニ乙國カ諸外國ニ對シ此ノ如キ義務ヲ負擔セサルトキハ諸外國ハ割讓地ニ於テ信仰ノ自由ヲ實行スルコトヲ得ルヤ或ハ曰ク信仰ノ自由ハ政略ト關係アルモノナルカ故ニ所謂屬人的條約ニシテ讓受國ニ移ラサルモノナリ然レトモ予ノ見解ニ依レハ二箇ノ場合ヲ區別スルコトヲ要ス即チ第一ハ此條約カ割讓地ノ範圍内ニ限リテ行ハレタル場合ニハ土地ヲ主眼トシテ爲シタルコト明カナルカ故ニ讓受國ニ移ルヘキモノト解釋スヘシ然ルニ一定ノ土地ヲ限定セシテ信仰ノ自由ヲ擔保シタル場合ニハ政略ト密接ノ關係アルカ故ニ讓受國ニ移ラサルモノトス其他領事裁判權ニ關スル條約ニ付テモ學者ノ見解一ナラス然レトモ予ハ近世ニ於

ケル實例ヲ是認セント欲ス此實例ニ依レハ該條約ハ讓受國ニ移ラス例ヘハ「アルヂーウ希臘等ノ例ニ照シテ之ヲ證スルコトヲ得ヘシ」蓋シ領事裁判權ハ國家ノ制度文明ノ程度等カ劣等ナルカ爲メニ生シタルモノニシテ換言スレハ其國家ヲ信用セサル結果ニ過キス然ルニ信用ナキ國ノ一部分タル土地カ信用アル國ノ版圖ニ歸シタル場合ハ割讓地ニ領事裁判權ヲ存スル必要ナキカ如シ何トナレハ領地割讓ノ結果讓受國ノ制度ハ割讓地ニ行ハルルモノナレハナリ

次ニ領地割讓カ讓受國ノ條約其他ノモノニ對スル影響ヲ説明セント欲ス
 第一 條約 此問題ニ付テハ學說並ニ實例全ク一致シ讓受國ノ條約ハ當然割讓地ニ效力ヲ及ホスコト爲セリ實例ヲ舉クレハ千八百五十九年「チユーリッヒ」條約千八百六十七年和蘭普爾西條約等是ナリ又千八百七十一年獨逸カ「エルザース」ロートリンゲンヲ讓受ケタルトキ獨逸諸邦カ從來締結シタル條約ハ割讓地ニ效力ヲ及ホセリ我國カ清國ヨリ讓受ケタル割讓地ニ付テモ亦同シ然レトモ予ヲ以テ之ヲ觀ルモ條約中單ニ土地ノミヲ主眼トシテ締結セラレタルモノ

必ス之アルヘキカ故ニ此種ノ條約ハ其效力ヲ割讓地ニ及ホササルモノトス
 第二 不法行爲及ヒ准不法行爲 准不法行爲及ヒ不法行爲ニ基ク權利義務ノ關係ハ讓受國ニ移ラス例ヘハ割讓地ニ於テ職務ヲ行フ讓渡國ノ官吏カ外國ノ君主ニ對シテ暴行ヲ爲シタル場合ノ如キ讓渡國ノ政府ハ責任ヲ負フヘキモノナレトモ此土地ヲ讓受ケタル國家ノ惡意又ハ過失ニ基クテセサルモノナルカ故ニ右ノ不法行爲又ハ准不法行爲ニ基ク義務ヲ讓受國ニ於テ相續スルハ正當ニ非ス國際上ノ實例ヲ觀ルニ卓説ト同一ナリ

第三 准契約 准契約ニ基ク義務ハ讓受國ニ於テ相續スルヲ例トス
 第四 財產 割讓地ニ存在スル所ノ財產ニシテ讓渡國ニ屬スルモノハ總テ讓受國ニ於テ相續ス即チ割讓地ニ附著スル財產ハ勿論動産ト雖モ總テ讓受國ニ移轉スルコトハ近世ニ於テ認メラレタル實例ナリ然ルニ讓渡國カ民法上ノ人格即チ國庫トシテ有スル財產ニ付テハ議論アレトモ予ハ此種ノ財產モ亦讓受國ニ移轉スルモノナリト信ス蓋シ如何ナル財產カ公法上ノ人格タル國家ニ屬シ如何ナル財產カ國庫ニ屬スヘキヤハ之ヲ區別スルコト困難ナルノミナラス

反對說ハ公債相續ノ原則ニ比シ權衡ヲ失スレハナリ

公法上ノ人格タル地方團體カ有スル財産ハ右ト趣ヲ異ニシ讓受國ニ移轉セサルモノトス然ルニ讓受國カ有シタル財産ニシテ讓受國ノ法律ニ依レハ國家ノ有スヘカラサル性質ノモノナルトキハ如何實例ヲ按スルニ此場合ニハ讓受國ノ所有ニ歸スルモノトス然ルニ讓渡國ノ法律ニ依レハ一人ノ所有ニ係ル財産ニシテ讓受國ノ法律ニ依レハ國家ノ有スヘキ物ナルトキハ買收スルヲ例トス次ニ讓渡國カ割讓地ニ對シテ有スル債權ト領地割讓トノ關係ヲ説明スヘシ此點ニ付テハ公法上ノ債權ト私法上ノ債權トヲ區別スルコトヲ要ス

(一)公法上ノ債權 公法上ノ債權ノ性質ニ付テハ未ダ詳細ノ説明ヲ爲シタル者アルヲ聞カサレトモ租稅ヲ徵收スル權利ハ公法上ノ債權ト認ムル說頗ル多シ而シテ此種ノ債權ハ領地割讓ト共ニ讓受國ニ移ルモノトス是レ近世ノ實例全ク一致スル所ニシテ例ヘハ千八百十五年普瀋西「グールヘッセン」條約千八百十九年普瀋西索運條約千八百二十八年奧太利「バイエルン」條約千八百三十年普瀋西「ハノーブル」條約等はナリ就中千八百十五年普瀋西「グールヘッセン」條約ニハ

左ノ明文アリ曰ク「引渡ノ當時ニ存スル各種ノ租稅未納額並ニ收入未納額ハ相互ノ清算ヲ要セスシテ新占有國ニ移ル」ト是ニ由リテ之ヲ觀レハ所謂公法上ノ債權トハ公法上ノ人格トシテ國家カ收入スヘキ物ヲ總テ包含ス又割讓地ノ土地ヨリ生スル債權モ亦讓受國ニ移ル例ヘハ割讓地ノ一部分ヲ人民ニ貸貸シタル場合ニ於テ國家ノ收入シ得ヘキ報酬ハ讓受國ニ屬スルモノナリ例ヘハ千八百四十二年普瀋西「ハノーブル」「グールヘッセン」「ブラウンシュワイヒ」條約等ニ徴シ之ヲ知リ得ヘシ所謂公法上ノ債權ハ讓受國ノ既得權トシテ讓受國ニ於テ之ヲ尊重スヘキカ如シト雖モ其然ラサル所以ハ領地割讓ト同時ニ讓渡國ハ割讓地ニ對シテ公法上ノ人格タル資格ヲ喪失スルニ因ルモノトス
領地割讓後發生シタル公法上ノ債權カ以上ノ法理ヲ以テ論スヘカラサルコトハ勿論ナリト雖モ「スロス」ノ如キハ反對ノ論ヲ唱フ然レトモ此說ハ全ク實例ニ反スルモノナリ

行政廳若クハ裁判所間ノ債權ハ讓受國ニ移ラス蓋シ此等ノ官廳間ニ生スル債權ハ讓渡國ノ國庫内ニ於ケル流用ニ過キサルモノニシテ割讓地ト密著ノ關係

ヲ有スルモノナリ例ヘハ千八百十九年普滯西索遜條約ハ此法理ヲ認メタリ
割讓地住民カ豫算ニ於テ承諾シタル債務ハ讓渡國ノ公法上ノ債權トシテ讓受
國ニ移ルモノトス千八百十九年普滯西索遜條約ノ如キ是ナリ

(二)私法上ノ債權即チ讓渡國カ私法上ノ人格トシテ有スル所ノ債權ニシテ例ヘ
ハ賣買ニ基因スル債權ノ如シ)抑モ此種ノ債權ハ公法上ノ人格ニ關係ナキモ
ノナルカ故ニ人民カ此種ノ債權ヲ有スル場合ト異ナルモノニ非ス而シテ人民
カ割讓地住民ニ對シテ有スル私法上ノ債權ハ讓受國カ相續スルコトヲ得サル
カ如ク讓渡國カ有スル私法上ノ債權モ亦讓受國ニ於テ相續セサルモノトス是
レ亦實例ノ認ムル所ナリ

第五 公債 公債ニ二種アリ一ハ國家全體ノ利益ノ爲メニ生シタル公債ニシ
テ假ニ之ヲ一般的ノ公債ト名クヘシ一ハ一定ノ土地ノ利益ヲ保護スル爲メニ
生シタル公債ニシテ假ニ之ヲ地方的公債ト名クヘシ

一般的ノ公債ハ讓受國ニ移ル例頗ル多シ例ヘハ千八百十四年丁抹瑞典條約千
八百十五年普滯西ソツサウ條約千八百十九年普滯西索遜條約千八百五十九年

「テユリッピ」條約千八百六十年佛國サルジニヤ條約千八百六十四年普滯西奧太
利丁抹條約千八百八十一年希臘土耳其條約等一般の公債ノ相續ヲ認ムル實例
頗ル多シト雖モ予輩ハ其法理ニ適合スルコトヲ疑フモノナリ蓋シ一般の公債
ヲ生シタル所以ハ土地及ヒ人民ヨリ組織セラレタル國家ノ統一的ノ觀念ヲ保
護スルカ爲メニ外ナラスシテ一定ノ土地ニ關係ナキモノナリ隨テ此公債ヲ負
擔スル國家カ消滅セサル間ハ其國家ニ於テ依然トシテ之ヲ負擔スヘキモノナ
リト信ス然ルニ以上ニ述ヘタル一般の公債ノ相續ハ交換條約ノ場合ニ行ハレ
ス千八百十七年「ノール」條約千八百四十三年「バーゼル」條約千
八百四十四年瑞典普滯西條約千八百四十四年奧太利「サルジニ
ヤ」條約等はナリ此ノ如ク今日多數ノ實例ヲ見ルニ一般的公債ヲ相續スルヲ例
トスレトモ其分配ニ至リテハ議論アリ此問題ハ純然タル國法上ノ問題ナリト
信ス唯讓渡國ト讓受國トノ間ニ公債分擔ノ程度論ハ國際法上ノ問題ニシテ或
ハ割讓地ト讓渡國ト他ノ領地トノ大小ヲ比較シテ分擔額ヲ定ムヘシト云フ者
アリ例ヘハ割讓地カ讓渡國全土ノ十分ノ一二相當スルトキハ讓受國カ相續ス

ル一般的公債ノ額ハ全額ノ十分ノ一ナリ又割讓地住民ノ數ト讓渡國ノ他ノ領地ノ住民トノ比例ニ依リテ分擔額ヲ定ムヘシトノ説ヲ爲ス者アリ或ハ租稅ノ收入額ヲ標準トシテ分擔額ヲ定ムル例アリ例ヘハ右ニ示シタル千八百十五年普滯西ナツサウ條約ノ如キ即チ是ナリ

地方的公債ハ割讓地ニ附著シテ讓受國ニ移ルヘキモノトス蓋シ此種ノ公債ハ屬地的ノモノナレハナリ此問題ニ付テハ殆ト議論ナキカ如ク實例モ亦大抵一致セリ例ヘハ千八百七年佛蘭西普滯西條約千八百十年佛蘭西バイエルン條約千八百十四年巴里條約千八百十五年普滯西サルジニヤ條約千八百十九年普滯西索遜條約千八百五十九年埃太利佛蘭西條約千八百六十年佛蘭西サルジニヤ條約千八百六十四年埃太利普滯西丁抹條約千八百六十六年埃太利伊太利條約ノ如キ是ナリ

地方的公債ノ利益ヲ受クル土地カ割讓地ヨリ大ナルトキ換言スレハ地方的公債ノ利益ヲ受クル土地ノ一部分カ割讓セララルトキハ割讓地ト右ノ土地ト比較シテ或ハ土地ノ大小或ハ人口ノ多寡ニ依リテ分擔額ヲ定ムルモノトス

(乙) 國家一部分ノ獨立 國家ノ創始ヲ討論スル一地方ノ住民カ本國政府ト戰爭ヲ爲シ獨立國ヲ組織スル例尠カラス例ヘハ北亞米利加合衆國白耳義等ノ如キ是ナリ此場合ニ於テ又國家相續ノ問題ヲ生ス條約ニ付テ先ツ説明センニ此場合ニ於テモ屬地的條約及ヒ屬人的條約ノ二種ヲ區別スルコトヲ要ス屬地的條約ハ獨立國ニ附著シテ其相續スル所ト爲レトモ之ニ反シテ屬人的條約ハ獨立國ニ移ラサルモノトス而シテ屬人的及ヒ屬地的條約ノ區別ハ前ニ説明セタルカ如シ

財產モ亦獨立國ノ領地ニ存在スル物ハ動產ナルト將タ不動產ナルトヲ問ハス總テ獨立國ニ移ルモノトス債權ノ問題ハ領地割讓ノ場合ニ説明シタル所ト同一ナリ公債ニ付テハ議論アル所ニシテ殊ニ獨立國ト爲ルヘキ土地ハ大抵廣大ナルカ故ニ一切ノ公債ヲ相續スヘシト云フ者多シト雖モ予ハ地方的公債ノミ獨立國ニ移ルモノト信ス

(一) 分裂 一國カ數多ノ獨立國ニ分ルルトキハ所謂國家ノ分裂ニシテ從來ノ國家ハ亡滅シ新ニ獨立國ヲ生スルモノナルカ故ニ均シク相續ノ問題ヲ生スヘシ

第一 條約 義ニ説明シタルト同シク屬地の條約及ヒ屬人的條約ニ因リテ其結果ヲ異ニス

第二 財産 從來ノ國家カ有シタル財産ハ新獨立國ノ共有トス

然レトモ共有ノ關係ヲ生スル前ニ清算ヲ爲スコトヲ要ス所謂清算主義ナルモノ是ナリ而シテ又獨立國ノ領地内ニ存在スル財産ハ所在國ノ所有ニ歸ス所謂屬地主義ナルモノ是ナリ

第三 公債 從來ノ國家カ負擔シタル公債ハ新獨立國ニ移轉ス

(二) 聯邦 數多ノ小國カ亡滅シテ新ニ聯邦ヲ組織シタル場合ニ於テ相續ノ問題ヲ生ス然レトモ既ニ混和ノ場合ニ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス

(丙) 國家破産 國際法學者カ所謂國家ノ破産トハ公債ヲ負擔シタル國カ故意又ハ懈怠ニ因リ其債務ヲ辨濟セサル状態ヲ云フモノニシテ無資力ノ爲メニ辨濟スル能ハサル場合ニ於テモ國家破産アルモノトス此問題ニ付テハ從來ノ學者之ヲ研究セシ者少カリシカ近來希臘國カ破産ヲ爲スニ及ヒ之ヲ研究スル者漸ク多キヲ加フルニ至レリ然ルニ國家破産ニ關スル學說ニハ變遷アリ從來ノ

學者ハ國家破産ニ付テハ豫防手段ニ過キスト唱ヘ又干渉ノ原因ナリト説明スル者モ亦尠カラサリシカ今日ノ學者ハ強制手段ヲ用フルコトヲ得ヘシト論スル者漸ク多キヲ觀ルニ至リタリ

公債募集ノ方法ハ無記名債券ニ依ルコトアリ或ハ記名債券ニ依ルコトアリ或ハ國債帳簿ニ依ルコトアリ而シテ公債償却ノ方法ニハ年金主義ト濟助主義ノ二アリ從來ノ實例ヲ見ルニ年金主義ナルモノ多キカ如シ就中獨逸普魯西ノ如キハ此主義ヲ實行セリ濟助主義コハ又三種アリ比例法買戻法及ヒ抽籤法即チ是ナリ比例法トハ各債權者ノ債權額ニ應シテ一定ノ率ヲ以テ償却スル方法ニシテ買戻法或ハ競買法トハ債權者カ償金ヲ支拂ヒ最先ニ辨濟ヲ受クル方法云云ハ抽籤法ハ當籤シタル債權者カ最先ニ辨濟ヲ受クル方法ヲ云フ
國家破産ノ状態ハ左ノ場合ニ於テ存在スルコトニ付テハ學說一定セルカ如シ
第一 債務國カ債權者ノ承諾ヲ得シテ限ニ利率ヲ減少シタル場合
第二 粗惡ノ貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲シタル場合
第三 補助貨ヲ以テ辨濟ヲ爲シタル場合

第四 債務國カ支拂停止ノ宣言ヲ爲シタル場合ニレブリヤーション

普埃戰爭ノ後埃太利ハ國家破産ヲ爲シタリ葡萄牙國モ亦嘗テ破産ヲ爲シタルコトアリシカ千八百九十三年希臘カ破産ヲ爲シタル時ノ如ク世論ヲ喚起シタル例ナシ當時希臘ハ新ニ法律ヲ制定シテ根ニ利率ヲ減少セシ且ツ公債ノ擔保ヲ引上ケタリ是ニ於テ各國ノ債權者ハ委員ヲ選定シテ希臘財政監督ノ任ニ當ラシメ且ツ未済ノ利息ノ辨濟ヲ求メントセシ希臘國ハ遂ニ之ニ應セザリキ債務國カ破産ヲ爲スコトハ決シテ不法行爲ニ非スト云フ者アリ此說ヲ批評スルニ先チ公債ノ性質ニ關スル學說ヲ紹介スヘシ

公債ノ債權者カ内國人ナル場合ニ於テハ國家ハ之ニ對シテ萬能ノ力ヲ有スルカ故ニ之ニ對シテ爲シタル主權ノ作用ハ法理上適法ナリト謂ハサルヘカラス雖テ國家カ其臣民ニ對シテ負擔シタル公債ヲ辨濟セサル新法ヲ制定シタル場合ニ於テ其行爲ハ又適法ナリ此說ハ學者間ニ一定セル所ナリ然ルニ外國人カ債權者ナル場合ニ於テハ外國人ハ内國臣民ト同シテ國家ノ主權ニ服従スルカ故ニ此債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲ササル新法ヲ制定スルモ亦適法ノ行爲ナリト

云フコトヲ得ルヤノ問題はナリ本說ハ即チ予輩カ批評セントスル所ナリ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ外國人カ國家ノ主權ニ服従スルハ國家ノ領地内ニ居住スル場合ニ限ルモノニシテ外國人ニ主權ノ及ハサルハ主權ハ國境ヲ超ニスルノ原則ヨリ生スル結果ナリト云フヘシ而シテ國家カ内國ニ於テ公債ヲ募集シタル場合ニ於テハ此公債ハ國法上ノ概念ナリト信ス蓋シ外國人ハ内國臣民ト同一ノ資格ヲ以テ債權者ト爲リタルモノナレハナリ故ニ此點ヨリ云ヘハ國家カ辨濟ヲ爲ササル新法ヲ發スルモ適法行爲ナリト云フコトヲ得ヘシ然レトモ此適法行爲ハ單ニ其國ノ法律上ヨリ觀察シタル結果ニシテ國際法上ヨリ觀レハ不法行爲タルニハ相違ナキモノトス何トナレハ國家ハ不當ノ利得ヲ得ンカ爲メニ故意ニ法律ヲ制定シタルモノナレハナリ但シ現行國際法ニ於テハ國家ハ外國ニ於ケル臣民ヲ保護スル責任アリ故ニ例ハ我國ニ於テ新法ヲ制定シテ債權者タル英國人ヲ侵害シタルトキハ英國政府ハ之ヲ國際法上ノ問題ト爲スコトヲ得ルモノトス之ニ反シ外國ニ於テ國家カ公債ヲ募集シタル場合ハ外國主權ノ行ハルル範圍ニ於テ爲シタルモノナルカ故ニ其行爲タルヤ一箇人ノ行爲ト同

ジク外國法律ノ管轄ニ屬スルモノトス隨テ外國人タル債權者カ外國法ニ依リテ得タル權利ヲ我國ハ新法ノ制定ニ依リテ侵害スルコト能ハサルモノトス故ニ此場合ニ國家カ債務ヲ辨濟セサルトキハ不法行爲ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス

以上ノ所說ハ卑說ナレトモ一般ノ國際法學者ハ全ク異ナリタル見解ヲ抱クモノノ如ク「エリテ」之ノ如キハ公債ヲ募集スル行爲ハ國家ノ主權ヨリ生スル必然ノ結果ニ非ス國家ハ便宜上債務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ民法上ノ人格ヲ以テ此行爲ヲ爲シタルモノトス之ニ反シ公債ヲ以テ公法的ノモノトスル說ニ依レハ公債ハ國家ノ生存ヲ維持スルカ爲メニ募集シタルモノニシテ之ニ依リテ公法上ノ人格タル國家カ其經費ヲ支辨セント欲スルモノナルカ故ニ民法上ノ性質ヲ有スルモノナリト之ヲ唱フル學者ハ甚タ少シ公債ヲ以テ私法的ノ性質ヲ有ストノ說ヲ爲ス學者ハ多ク之ヲ消費貸借ト同一ニ看做セリ此說正當ナルカ如シ然レトモ消費貸借ニ關スル民法ノ規定ヲ全然適用スルコトヲ得ルヤ否ヤハ問題ナリ又適用セラルヘキ民法ハ債權者ノ國法ナリヤ或ハ債務者ノ國

法ナリヤ又ハ契約ヲ爲シタル國ノ法律ナルヤハ問題ナリトス予ヲ以テ之ヲ觀ルニ當事者カ意思ヲ明示セサル場合ニ於テハ契約ヲ爲シタル國ノ民法ナリト信ス

公債條約ハ國際法上ノ條約ナリトノ說ヲ爲ス者アリ例ヘハ埃太利ノ「ノイマン」ノ如キ是ナリ然リト雖モ箇人ハ國際法ノ主體ニ非サルカ故ニ此間ニ條約ノ成立スヘキ理由ナキモノト信ス

公債ハ民法上ノ消費貸借ナリトハ學者ノ多數カ唱道スル所ナルコトハ既ニ上述セル所ナレトモ純然タル消費貸借上ノ債權ト公債ニ基因スル債權トノ間ニ左ノ點ニ於テ明白ナル差異アリ

- 第一 公有財産ハ決シテ公債ヲ擔保セス蓋シ私債ニ付テハ債務者ノ總財産ハ擔保物ナリト雖モ公債ニ付テハ單ニ私有財産ノミ擔保物タル資格ヲ有ス
- 第二 私債ヲ擔保スルハ主トシテ現 財産ナレトモ公債ニ付テ債務者カ擔保物トシテ最モ信用ヲ置クモノハ寧ロ將來ニ於ケル國家ノ收入ナリトス
- 第三 私債ニ付テハ不履行ノ場合ニ債務者ノ財産ニ對シ權利ノ執行ヲ爲スコ

トヲ得ルモ公債ニ付テハ執行ヲ爲スコトヲ得ス
 以上ノ如キ差異アルカ故ニ公債ノ債權者ハ私債ノ債權者ニ比シ不安ノ地位ニ在ルモノトス是レ國家破産ニ對スル處分ニ付テハ學者間ニ種種ノ見解ヲ生シタル所以ナリ然レトモ前ニ一言セシ如ク從來ノ學說ハ單ニ豫防ノ方法若クハ干涉ヲ以テ唯一ノ處分ナリト看做シ其以外ニ於テハ何等ノ救済處分ナシト信シタルナリ左ニ其二三ノ學說ヲ紹介スヘシ

例ヘハ「スタイン」ハ曰ク此ノ如キ擔保ハ(抵當效力少シ何トナレハ此ノ如キ擔保ノ力ハ裁判上ニ係ルモノナレトモ國家主權ノ本體トシテ執行ヲ受クヘキモノニ非ス又「ケルチル」ハ曰ク公債ニ因ル債務ノ不履行ハ債權者ノ權利ヲ毀損シタルモノナレトモ此毀損ニ對シ被害者ハ訴訟ヲ提起スルコト能ハサルモノナリ「バーン」ハ曰ク國家ハ先ツ第一ニ自存ノ途ヲ講セサルヘカラス而シテ債務者ノ辨濟ハ第二位ノ問題ナリ「ビューム」ハ「バーン」ト同一ノコトヲ唱ヘ且ツ曰ク破産ノ宣告ヲ爲スハ國家ノ得策ナリト「ボリビス」ハ曰ク破産ノ制裁ハ國家カ信用ト名譽トヲ失フノミ「ケウエリッ」ハ曰ク人民カ公債募集ニ應ズル投票事業ナ

ト

前ニ一言セシ如ク從來ノ學者ハ干涉ヲ以テ國家破産ニ對スル良好ノ手段ト認メタレトモ干涉ヲ爲シタル實例ヲ見ルニ其效力頗ル微弱ナリ加之債權者タル臣民カ本國政府ニ對シ干涉ヲ請求スル場合ニ本國政府ハ甘シテ此請求ニ應シタル例極メテ尠シ殊ニ干涉ヲ爲シタル例ハ被干涉國カ小弱國ナル場合ニシテ大國ニ向ヒテ國家カ干涉ノ勢ヲ取リタル例ナシ例ヘハ土耳其埃及「コツナリカ」ガ「アマラー」等ノ國カ干涉ヲ受ケタルノミニテ埃太利葡萄牙國ノ如キ破産ヲ爲シタル場合ニ債權者ハ本國政府ニ干涉ノ請求ヲ爲シタルモ本國政府ハ此請求ヲ容レザリキ殊ニ英國ノ如キハ其臣民中何レノ國ノ公債ニモ債權者トシテ關係セサルモノナキ程ナルニ拘ラス干涉ノ請求ニ應ジタルロトナシ其他埃太利土耳其葡萄牙ノ如キモ亦非干涉ノ政略ヲ實行セリ

國家破産ノ場合ニ干涉ヲ爲シタル實例ヲ見ルニ其方法タルヤ單ニ外交文書ニ依リテ債務國ニ對シ抗議ヲ爲スニ過キス故ニ干涉カ僥倖ヲ奏シタルハ埃及及ヒ土耳其ニ對スルニ簡ノ場合アルノミ就中土耳其ニ對シテ干涉ヲ爲シタル結

果土耳其政府ハ將來ノ收入ノ一部分ヲ債權者ニ讓渡シタリ
 近來ワグネル氏ハ下ノ如キ說ヲ公ニセリ曰ク國家カ破産ヲ爲セタル後ニ於テ
 ハ必スシモ辨濟ヲ爲スヲ要セス一ニ債權者ニ變動アリタルヤ否ヤニ因リテ沽
 論ヲ異ニスルモノナリ即チ債權者カ債權讓渡ニ因リテ變更シタル場合ニ於テ
 ハ債務國ハ辨濟ヲ爲スコトヲ要セス但シ國家カ破産ノ宣言ヲ爲シタルトキ辨
 濟ノ約束ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス然ルニ債權者ニ何等ノ變更ナキ場合
 ニ於テハ債務國カ支拂能力ヲ回復シタルトキニ辨濟ヲ爲ササルヘカラス或ハ
 債務國ノ良心ニ倚賴スル以外ニ於テ方法ナシ蓋シ國家カ破産ニ因リテ信用ヲ
 喪失シ之カ爲メニ再ヒ公債ヲ募集スルコト能ハサルニ於テハ遂ニ國家ノ自存
 スル能ハサルコトアルカ故ニ苟モ良心ノ存スル國家ニ於テハ破産後ト雖モ必
 ス辨濟ヲ爲スヘキ時期アルヘキカ故ニ債權者ハ此時期ノ至ルヲ待ツニ如カス
 ト云ヘリ

然レトモ此說タルヤ又不完全ナリ蓋シ債權者カ不定ノ時期ヲ待ツカ如キハ到
 底望ミ得ヘキコトニ非サルノミナラス千八百十四年及ヒ千八百十八年關東ニ

國ノ實例ニ徵スルモ此說ハ債權者ノ利益ヲ保護スルニ足ラサルコトヲ知ルム
 餘アリ是ニ於テ物上擔保ニ依リテ公債ヲ擔保スルハ最モ完全ノ方法ナリト云
 フ者アリ然ルニ此議論モ亦空論タルノ嫌アリ
 先ツ不動産ヲ以テ擔保物ト爲シタル場合ヲ想像センニ不動産ニ對シテ擔保權
 ヲ實行スルコトヲ得サルハ先ニ國家ノ一般ノ財産ニ對シテ執行ヲ爲ス能ハス
 ト説明セシ所ト法理ヲ同シラシ執行ヲ命スル機關カ外國ノ裁判所ナルト將タ
 內國ノ裁判所ナルトヲ問ハサルモノトス學者ハ往往物上擔保ハ從來良結果ヲ
 奏シタルコトヲ主張スル者アレトモ是レ國際法上ノ擔保ト私法上ノ擔保トヲ
 混同スルモノナリ蓋シ從來良結果ヲ奏シタル物上擔保ハ條約ヲ擔保シタルモ
 ノニシテ擔保物ト爲ル物ハ私有地ニ在ラスシテ多クハ國家ノ領地ナリトス
 動産ヲ以テ擔保ト爲スノ說ハ優レル所アルカ如シト雖モ是レ亦机上ノ空論タ
 ルヲ免レス何トナレハ公債ノ全額並ニ其利息額ヲ擔保スル程ノ價值アル動産
 ヲ國家ノ所有スル例ハ今日ニ於テ全ク之ナキノミナラス第三者例ヘハ皇室カ
 國家ノ爲メニ動産ヲ擔保物トシテ供スル場合モ亦實際在ルヘカラサルナリ何

トナレハ此ノ如キ高價ノ動産ヲ有スル皇室ヲ戴ク國カ破産ヲ爲スカ如キコト
 ナクレハナリ
 對人擔保ノ場合ニハ以上説明スル所ト其趣ヲ異ニス蓋シ第三國カ保證國ト爲
 ル場合ニ於テハ擔保ナキ場合ト毫モ法理ヲ異ニセス何トナレハ擔保國カ好意
 ニ保證ノ義務ヲ履行セザル場合ニ於テ此保證國ニ對シ權利ヲ實行スルコト能
 ハサルハ債務國ニ對シ權利ヲ實行スルコト能ハサル場合ト同一ナレハナリ之
 ニ反シ第三者タル人民カ保證人ト爲ル場合ニ於テハ此者ノ地位ハ國法ニ依リ
 テ管轄セラルルカ故ニ民法上ノ保證ト全ク同一ナリトス隨テ第三者タル保證
 人ニ對シテハ債務國カ義務ヲ履行セザル場合ニ於テ其權利ヲ實行シ得ヘキコ
 勿論ナリトス此種ノ擔保ハ最モ完全ナル方法ナレトモ實際ニ行ハルヘキヤ
 否ヤハ頗ル疑フヘキモノトス
 國家ノ破産ニ對シテ國際法上ノ救済手段ヲ實行スヘシトノ議論ハ近來ニ至リ
 漸ク勢力ヲ得ルニ至リタリ予モ亦其然ルコトヲ信スル者ナレトモ之ニ對シテ
 有力ナル駁論アリ其駁論ニ依レハ公債條約ハ民法上ノ消費貸借ナルカ故ニ債

務者カ債務ヲ履行セザル場合ニ於テ之ニ對スル救済手段モ亦國法上ノ救済手
 段タラサルヘカラス蓋シ臣民カ消費貸借ノ債務者ナル場合ニ於テ其不履行ニ
 對シ國際法上ノ救済手段ヲ用フルコト能ハサル以上ハ臣民ト同一ノ資格ヲ以
 テ債務ヲ負擔シタル債務國カ債務ヲ履行セザル場合ニ於テ國際法上ノ救済手
 段ヲ用フルコト能ハサルヤ明カナリト然ルニ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ債務者タル
 國家ト過失ヲ以テ債務ヲ履行セザルハ債權者ノ本國ニ對シ不法行為若クハ準
 不法行為ヲ爲シタル者ナルカ故ニ權利ヲ侵害セラレタル國家ハ破産國ニ對シ
 國際法上ノ救済手段ヲ實行シ得ヘキコト勿論ナリトス
 是ニ於テ國際法上ノ手段ヲ必要ナリトスル者ハ往往國際裁判所ノ保護ヲ仰ク
 ヘシトノ說ヲ主張ス此說ニ依レハ債務國カ破産ヲ爲シタルトキハ債權者ハ國
 際裁判所ニ訴ヲ提起シ以テ債務國ノ爲シタル行為ノ當否ヲ判定シ併セテ債權
 者ノ請求ニ應スヘキコトヲ債務國ニ言渡スヘシト云フニ在リ蓋シ昔時ノ學者
 カ案出シタル常設裁判所ニシテ兵力ヲ備フルモノノ如キハ今日ニ於テハ單ニ
 空論ニ過キサルカ故ニ今日學者カ往往有力ナル裁判所ト信スルモノハ獨リ仲

裁裁判所アルノミ學者カ所謂國際裁判ノ保護ヲ仰クヘシトノ說ハ仲裁裁判所ヲ想像シタルモノナルヘシト雖モ此仲裁裁判ノ效力ニ付テモ予輩ハ疑ヲ抱クモノナリ何トナレハ仲裁裁判所ノ下シタル判決ニ對シテ被告カ任意ニ服從シタル例アルモ未ダ曾テ此判決ヲ執行シタル例アルヲ聞カス蓋シ判決ハ主權者ノ命令ナリ然ルニ仲裁ヲ爲シタル國ハ破産國ニ對シテ主權ヲ有セサルカ故ニ之ニ對シテ執行スルコト能ハサルヤ言フヲ埃ダス

他ノ學說ニ依レハ國際法ニハ必要の國際法ト合意の國際法トノ二アリ必要の國際法ナルモノハ戰爭局外中立主權強制手段等ニ關スル規定ニシテ合意の國際法トハ私法上ノ事項ヲ規定シタルモノヲ云フ必要の國際法ハ一般ノ國家ヲ羈束スルモノナレトモ合意の國際法ハ一定ノ國家ノミ羈束スルモノナリ故ニ債務國カ破産シタル場合ニ於テ債權者ノ本國ハ必要の國際法ニ依リ強制手段ヲ實行スルノ權利アリ破産國ハ又之ヲ甘受スル義務アリ而シテ強制手段ニハ報復及ヒ復仇ノ二種アリト然ルニ此說ヲ唱フル學者ノ中ニ於テモ復仇ノ方法ニ付キ議論アリ今此說ヲ二箇ニ區別シテ説明スヘシ

第一說 此說ニ依レハ破産國ノ臣民カ外國ニ於テ有スル財產ハ其所謂在國政府ノ爲メニ沒收セララルヲ妨ケスト云フニ在リ此說ハ「グロチエース」以來多ク唱ヘラレタル所ニシテ就中「グロチエース」ノ說ニ依レハ債務國ノ臣民ハ本國ノ債務ヲ擔保スルモノナリ故ニ債務國ノ臣民カ財產ヲ沒收セララルハ保護ノ義務ヲ履行シタルニ過キスト又「バツテル」曰ク臣民ノ財產ハ即チ國家ノ財產ナルカ故ニ臣民ノ財產ヲ沒收スルハ債務國ノ財產ヲ沒收スル所以ナリト然レトモ此說ハ内外人平等主義ニ抵觸スルモノナリ何トナレハ今日ノ學說並ニ各國立法例ノ方針トスル所ハ私權ノ享有ニ付テハ內國人モ將タ外國人モ同等ナルヘシト云フニ在リ蓋シ私權ハ人類カ生存ヲ爲ス爲メニ缺クヘカラザルモノニシテ此必要ハ國ノ内外ニ於テ異ナルモノニ非サレハナリ故ニ外國臣民ノ財產ヲ破産國ノ公債ノ爲メニ沒收スルハ外國ノ臣民ヲ內國臣民ニ比シ劣等ノ地位ニ陷ルルモノナリ是レ何レノ國ノ法律ニ依ルモ臣民ハ其國ノ負擔シタル債務ヲ擔保スル義務ナケレハナリ況ヤ第一說ハ外國人ヲシテ自由ニ生活ヲ爲スコトヲ妨グルモノナリ何トナレハ外國人ハ何時本國ノ破産ノ爲メニ財產ヲ沒收セ

ラルルヤ圖リ知ルコトヲ得サレハナリ羅馬法ハ既ニ國家ノ債務ニ對シテ人民
カ之ヲ擔保スル義務ナキコトヲ定メタリ寺院法モ亦同一ノ精神ナリキ今日ニ
於テハ「マツセーイ」如キ又第一說ヲ批難セリ

●第二說 此說ニ依レハ破産國カ國際裁判所ノ判決ニ服セザル場合ニ於テ國際
法上重大ナル罪ヲ犯シタルモノナルカ故ニ之ニ對シテ總テノ強制手段ヲ實行
スルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ破産國カ外交上ノ抗議ニ應セザル場合ニ於テハ
其罪重キモノニ非ス何トナレハ破産國ハ人ノ身體生命ヲ傷害シタルモノニ非
スシテ單ニ債權者ノ金錢上ノ利益ヲ侵害シタルニ過キス故ニ人ニ對スル救濟
手段モ亦嚴酷ニ失セザルコトヲ要ス隨テ報復以外ニ於テ實行スヘキモノハ單
ニ消極的ノ復仇アルノミ蓋シ消極的ノ復仇トハ債權者ノ本國カ條約上履行ス
ヘキ義務ヲ忘ル類ヲ云フモノナリ又報復ノ手段トシテ外國債券ノ驅逐ヲ正當
ナリト云ヘリ此方法ハ或程度マテ債權者本國ノ目的ヲ滿スコトヲ得ルニ過キ
ス何トナレハ破産國ノ債權者カ債券ノ所有者ナル場合ニ對シテノミ破産國政
府ハ苦痛ヲ感スヘシト雖モ若シ破産國ノ臣民カ債券ノ所有者ニ非ザルトキハ

債券ノ驅逐ハ何等ノ效力ナケルハナリ
予ヲ以テ之ヲ觀レハ國家破産ハ國際法上ニ不法行為ナルカ故ニ普通ノ不法行
爲ニ對スル救濟手段ハ總テ破産ニ對シテモ之ヲ實行シ得ヘキモノトス即チ報
復ハ勿論積極的及ヒ消極的ノ復仇ト雖モ之ヲ實行シ得ヘキモノト信スグル
「ブ」派ノ學者カ單ニ消極的復仇ヲ認ムル理由ヲ知ルニ苦ム然レトモ人民ノ財
産ニ對シテ復仇ヲ爲スカ如キハ過失ナキ者ノ利益ヲ剝奪スルモノニシテ全ク
謂レナキコトト信ス而シテ積極的復仇ヲ實行セザルヘキ財產ハ必ス國家ノ財
産タルコトヲ要スルカ故ニ復仇ヲ實行スルコトヲ得ヘキ範圍ハ實際狹小ナル
ヲ免レス例ヘハ自國ノ領海内ニ碇泊スル破産國ノ官船ノ如キ之ヲ差押フルニ
於テハ往往債權者ノ請求ヲ滿タスニ十分ナリト雖モ右ノ官船カ第三國ノ領海
ニ在ル場合ニハ之ヲ差押フルコト能ハス又葡萄牙カ破産ヲ爲セシトキ佛國ノ
一雜誌ハ殖民地占領論ヲ唱ヘテ佛國ノ輿論ヲ動かシタルコトアリシカ佛國政
府ハ遂ニ之ヲ實行スルニ至ラザリキ要スルニ殖民地ヲ占領スルカ如キハ之ヲ
以テ戰爭ノ開始ト見ルコトヲ得ヘキカ故ニ佛國政府カ之ヲ實行セザリシハ故

ナキニ非ス其他破産國ニ對スル平時封港ノ如キモ破産國ニ對スル良好ナル強制手段ナルヘシ

此ノ如ク國際法ノ解釋トシテハ國家破産ニ對シ以上ノ三手段ヲ實行スルコトヲ得ヘシト雖モ之ヲ圓滑ニ實行シ得ヘキヤハ一問題ナリ蓋シ國際的關係ノ錯綜セル今日ニ於テ單ニ債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ本國政府カ以上ノ手段ヲ實行スルヲ得ルハ容易ノ業ニ非サレハナリ故ニ英國ノ學者カ國家ノ破産ヲ以テ一ノ政利ナリト斷言セシハ或程度マテ眞理ヲ包含セルモノト謂フヘシ蓋シ國家破産ニ對スル先例ヲ觀ルニ破産國ハ之カ爲メニ亡滅ヲ招カスシテ債權者ノ本國政府ハ債權者ノ利益ヲ十分ニ保護スル手段ヲ實行セシモノナキヲ見テ知ルヘシ

尙ホ最後ニ埃及ノ公債整理ノ實況殊ニ同國ノ破産ニ對スル處分ノ實況ヲ紹介スヘシ千八百七十六年埃及ニ於テ始メテ混合裁判所ヲ設置セシカ其裁判所ハ二審級ニシテ第一審級並ニ第二審級共ニ之ヲ構成スル裁判官ノ多數ハ外國人ナリ埃及政府ハ外國政府ノ推薦ニ係リテ必ス裁判官ニ任命スル義務アリ抑

モ此裁判所ハ埃及國ノ法律並ニ財政ノ不信用ヨリ生シタルモノニシテ之ニ依リテ歐洲諸國ノ債權者ハ埃及政府ニ對スル請求ノ保護ヲ受クルコトヲ得タリ然ルニ此裁判所ノミニテハ埃及政府ニ對スル債權者ノ利益ヲ十分保護スルコト能ハサルカ故ニ同時ニ公債委員ナル者ヲ組織シ以テ公債事務ノ管理ヲ掌ラシメタリ千八百八十一年右公債委員ノ組織ヲ一變シテ純然タル國際的組織ト爲シ同時ニ公債事務ノ管理ノミナラス尙ホ埃及ノ財政ヲモ管理セシメタリ今日ニ於テハ此等ノ制度アルカ爲メニ埃及國ニ對スル各國債權者ノ利益ハ十分ニ保護セラル學者或ハ此例ヲ觀テ國家破産ニ對スル完全ナル救濟手段ナリト爲ス者アリト雖モ埃及國ノ如キ貧弱國ニ對シテ權ニ之ヲ實行スルコトニ過キナルコトハ希臘ノ破産ニ際シ希臘政府ノ爲ス所ヲ見テモ之ヲ知ルニ足ルヘシ

第四章 國家ノ大權

國家ノ大權トハ國際法ノ主體タル國家カ其生存ヲ全リスルカ爲メニ國際法上

當然享有スル所ノ權利ニシテ猶ホ吾人人類カ其生存ヲ全ウスルカ爲メニ私權ヲ享有スルカ如シ然ルニ大權ノ意義ニ付テハ學者往往解釋ヲ異ニシ隨テ大權ノ分類ニ付テモ學說一定セス其名稱ニ至リテモ一ナラス或ハ基本權ト曰ヒ根本權ト稱シ若クハ絶對的權利原權等ト曰ヘリ而シテ予ハ左ノ如ク大權ヲ分類ス

第一 獨立權 國家ハ内治外交上外國ノ干渉ヲ受ケサル權利ヲ有ス是レ即チ獨立權ニシテ此權利ナキモノハ國際法上ノ主體ニ非ス若シ或程度マテ制限セラルルトキハ國際法上ノ準主體タルモノトス國際法ノ主體タル國家カ獨立權ヲ有スル結果トシテ自國ニ於テ適當ト信スル法律ヲ制定シ又其適當ト信スル行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ又外國政府ハ獨立權ヲ有スル國家ノ領地内ニ於テ主權ヲ行フコト能ハス故ニ平時ニ於テ軍隊ヲ派遣シ又ハ官吏ヲシテ職務ヲ行ハシムル必要アルトキハ當該國ノ承諾ヲ求メサルヘカラス其他外國ノ犯罪人カ内國ニ逃レ來リタル場合ニ内國ハ之ヲ收容シテ犯罪國ニ引渡リサルノ權利アリ此權利ヲ稱シテ容隠權ト曰フ但シ容隠權ニ付テハ三說アリ第一說ハ容隠權

ヲ全然認ムルノ說ニシテ第二說ハ之ヲ否認スルモノ第三說ハ犯罪ノ性質ニ因リテ容隠權ヲ是認シ若クハ否認スルモノナリ今日實際ノ例ヲ見ルニ多クハ非國事犯ニ付キ引渡條約ヲ締結セサルハナシ故ニ反對解釋トシテ條約ナキ場合ニ於テハ犯罪人ヲ引渡ス義務ナシト斷定セサルヘカラス要スルニ容隠權ハ獨立權ヨリ生スル結果ナリ

國際法ノ主體タル國家ハ獨立權ヲ有スルカ故ニ條約ヲ締結シ若クハ公使ヲ派遣シ接受シ其他外交ヲ爲スニ當リテハ全ク自由ナリ

第二 自衛權 國家ハ其生存ヲ全ウスルカ爲メニ自ラ衛ラサルヘカラス此權利ヲ稱シテ國家ノ自衛權ト曰フ但シ國家ニ對スル危害ハ必スシモ現在ノモノタルコトヲ要セス猶ホ將來ノ危害ニ對シテモ自衛ノ途ヲ講スルコトヲ得ヘシ蓋シ國家ハ危害ノ發生スルヲ待ツヘキ必要ナケレハナリ

此ノ如ク國家ハ自衛權ヲ有スルカ故ニ外國ニ對シテ戰爭ヲ爲シ復仇ヲ爲シ又ハ平時ニ於テモ陸海軍ヲ備ヘ砲臺ヲ築ク等ノ豫防方法ヲ爲スコトヲ得ルナリ又外國人ノ來往ヲ禁止スルコトヲ得又ハ自國內ニ住スル外國人ヲ國外ニ追放

スルコトヲ得ヘシ或ハ又國家ノ權利ヲ侵害セラレタル場合ニ國家ハ干涉ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ皆自衛權ヨリ生スル結果ナリ從來ノ學者ハ往往利益ノ侵害ヲ以テ干涉ノ原因ト認メタリ例ヘハ權力平均ノ侵害ヲ以テ干涉ノ原因ト認メタリシカ今日ニ於テハ陳腐ノ說ニ屬ス

第三 名譽權 人類カ名譽ヲ有スルカ如ク國際法ノ主體タル國家モ亦名譽ヲ有スルモノニシテ此名譽ヲ尊重セシムル權利ヲ稱シテ名譽權ト曰フ或ハ之ヲ相互尊重權トモ曰フ國家ハ此權利ヲ有スルカ爲メニ其旗章紋章等ヲ外國ニ於テ濫ニ使用スルコトヲ得サルノミナラスニ對シテ敬意ヲ表示スルヲ例トス面シテ平時ニ於テ他國カ旗章ヲ濫用スルコト能ハザルハ一般ニ認メラレタル所ナレトモ戰時ニ於テハ一ノ問題ナリ例ヘハ露土戰爭ノ際ニ起リタル中立國ノ旗章ヲ詭計トシテ用フルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ノ如キ是ナリ 國際法ノ主體タル國家ハ其強弱ヲ問ハス全ク同等ナルカ故ニ名譽權ノ範圍モ亦異ナル所ナシ例ヘハ千八百八十三年佛國ノ賊民カ西班牙ノ皇室ヲ侮辱シタルカ如キ佛國政府ハ西班牙國ノ名譽權ヲ侵害シタルヲ以テ賠償ヲ爲シタリ然

レトモ實際上ニ於テハ國ノ強弱ニ伴ヒテ待遇ヲ異ニスルコトヲ免レス

第四 交通權 國際法主體ハ互ニ交通ヲ爲ス所ノ權利アリ故ニ甲國ハ乙國ニ向ヒテ擅ニ交通ヲ拒絕スルコト能ハス然ルニ多クノ學者ハ交通權ヲ以テ拋棄スヘカラザルモノト爲セリ是レ議論ナリ蓋シ各國カ國際法團體ヲ組織シタル所以ハ他ナシ自國ノ生存條件ヲ全ウセントスルニ在リ故ニ國際法團體ニ籍ヲ列スルコトノ自國ノ爲メニ不利益ナル場合ニ於テハ何時タリトモ國際法團體ヨリ脱退スルコトヲ得ヘシ

各國ハ交通權ヲ有スルカ爲メニ互ニ使節又ハ領事ヲ派遣シ若クハ接受スルコトヲ得ヘシ又其國民ニ通商航海ヲ爲スコトヲ許スモノトス然レトモ交通ノ條件ヲ定ムルハ各國ノ自由ナリ例ヘハ船舶ノ碇泊場ヲ指定シ旅行券ヲ交付シ貿易ノ規定ヲ定メ又ハ關稅規則ヲ制定スル等ノ自由ヲ有ス然ルニ關稅及ヒ通商ノ事タル各國ノ利益ヲシテ互ニ衝突セシムルモノナルカ故ニ通商若クハ航海條約ヲ締結シテ詳細ノ事項ヲ定ムルヲ例トス又今日ニ於テハ沿岸貿易ヲ外國人ニ許サザルヲ例トス

國際法團體ニ籍ヲ置カサル國ニ對シテ交通ヲ強フルコトヲ得ルヤ否ヤハ問題ナリ然ルニ多クハ之ヲ強制シ得ヘシト信スルカ如シ然レトモ予ハ此說ヲ否認スルモノナリ其理由ハ交通權ノ拋棄ニ付キ先ニ説明シタル所ニ同シ

甲國ノ臣民カ乙國ノ產物ニ因リテ生命ヲ維持スル場合ニ甲國ハ產物ノ輸出ヲ禁スルコト能ハスト曰フ者アリ然レトモ予ハ絕對ニ之ヲ認ムル能ハス即チ甲國ノ臣民カ必要トセザル產物ノ輸出ヲ禁止スルコト能ハサレトモ甲國ノ臣民カ依リテ以テ生命ヲ維持スル產物例ヘハ米穀ハ其輸出ヲ禁止スルコトヲ得ルモノトス是レ國家自衛權ヨリ生スル結果ナリ

大權ヲ侵越シタル場合ニ國家ハ被害國ニ對シ損害ヲ賠償スル責任ニ任ス而シテ如何ナル場合ニ國家カ大權ヲ侵越シタルヤ否ヤハ之ヲ定ムルコト頗ル困難ナリ就中從容議論ヲ生シタルハ内亂ニ對スル國家ノ責任ナリ但シ此問題ハ二箇ノ點ニ於テ決定セラレタリ即チ内亂者カ第三國ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ第三國カ内亂者ヲ獨立國ト認メタルトキハ國家ハ賠償ノ責任ヲ解除セラレルコト其一ナリ又兵力ノ微弱ナルコトハ責任ヲ免ルル理由ト爲ラサルコト其二ナリ

臣民カ第三國ニ加ヘタル損害ハ必スシモ大權侵越ト爲ラス例ヘハ臣民カ外國ノ皇族ニ對シ犯罪ヲ爲シタル場合ニ刑法上之ヲ罰スルヲ例トス然ルニ政府カ故意又ハ過失ヲ以テ制裁ヲ加フルコトヲ爲ササルカ若クハ民事ノ訴訟ニ付キ裁判ヲ拒絕シタルトキハ始メテ大權ノ侵越アルモノトス其他國家カ損害ヲ豫知シテ豫防ノ方法ヲ設ケサル場合ニ於テモ大權ノ侵越アリタルモノトス

官吏ノ加ヘタル損害ニ付テハ國家ハ絕對ニ責任ヲ負フモノトス而シテ其國法カ反對ノ事ヲ定ムルト否トハ問フ所ニ非ス君主ノ加ヘタル損害ニ付テモ亦同シ損害ヲ加ヘタル官吏又ハ主權者ハ民法上ニ於ケル未成年者ノ如キモノニシテ加害者タル官吏又ハ主權者ニ制裁ヲ加フルコト能ハス唯其不法行為ヲ防タカ爲メニ自衛スルノ途アルノミ而シテ損害ノ測定スル標準ニ付テハ議論アレトモ要スルニ國際裁判所ナキ今日ニ於テ損害ノ額ヲ確定スルハ容易ノ業ニ非ス

第五章 領地ノ對質

第一節 領地ノ性質

國際法ノ主體タル國家主權ノ行ハルル區域ヲ稱シテ領地ト曰フ而シテ此領地ヲ統治スル權利ヲ稱シテ領地主權ト曰フ今領地ヲ別ツコト左ノ如シ

第一 浮動領地 所謂浮動領地トハ國家ノ軍艦又ハ船舶ニシテ此軍艦又ハ船舶ニハ本國ノ主權行ハルルカ故ニ學者ハ之ヲ浮動領地ト名クタリ浮動領地ノ範圍ハ古今同シカラス舊時ニ於テハ軍艦又ハ船舶ノ周圍ニ於ケル海水ヲ以テ均シク領地ト認メタレトモ今日ニ於テハ軍艦又ハ船舶ノ範圍ヲ以テ領地ト看做セリ軍艦ハ公海ニ於ケルト外國ノ領海ニ於ケルトヲ問ハス均シク浮動領地ナリト雖モ船舶ハ公海ニ於ケルト外國ノ領海ニ於ケル場合トニ因リテ結果ヲ異ニス公海ニ於ケル船舶ハ浮動領地ナリト雖モ外國ノ領海ニ於ケル船舶ハ其國ノ主權ニ服従スルモノトス但シ大陸主義ハ之ニ反セリ

大陸主義ニ依レハ内國ノ港灣内ニ碇泊シタル船舶内ニ於テ犯シタル罪ハ其港灣ノ安寧ヲ害スルカ又ハ内國臣民カ此犯罪ニ關係スル場合ニ非サレハ内國ノ

法律ニ依リテ制裁ヲ加フルコトヲ得ス

船舶若クハ軍艦カ有スル國籍ヲ表識スル方法ハ今日ニ於テハ旗章アルノミ然レトモ如何ナル要件ヲ備フル船舶カ此旗章ヲ掲タルコトヲ得ルヤ否ヤハ國際法上ノ問題ニ非スシテ各國ノ法律ニ依リテ定マルモノトス之ニ關スル各國ノ制度ヲ分チテ二ト爲ス一ハ英米主義ニシテ一ハ大陸主義是ナリ英米主義ニ依レハ船舶ノ所有カ總テ英米ノ臣民ナル場合ニ非サレハ英米ノ船舶ト看做サス隨テ此要件ヲ備ヘサル船舶ハ英米ノ旗章ヲ掲クルコトヲ得ス之ニ反シテ大陸主義ニ依レハ船舶所有者ノ或部分カ内國ノ臣民タル場合ニ於テ之ヲ内國ノ船舶ト看做セリ此ノ如ク各國ノ制度ニ依リ旗章ヲ掲クル權利ナキ船舶カ其旗章ヲ用ヒタルトキハ自國ノ旗章ヲ用ヒラレタル國ハ責任ヲ負ハサルモノトス旗章ハ國家ヲ表彰スルモノナルカ故ニ國家カ旗章ヲ定メタルトキハ之ヲ外國ニ通知スルコトヲ要ス獨逸政府ハ嘗テ此事ヲ爲サザリシカ爲メニ外國政府ノ抗議ニ遭遇シタルコトアリ

軍艦ト船舶トハ國際法上ノ地位ヲ異ニス即チ軍艦ハ外國ノ領海内ニ於テモ事

實上本國領地ノ一部分ト看做サレ隨テ外國ノ犯罪者カ軍艦内ニ逃レ來リタルトキニ於テ外國政府ハ司法權ヲ行使スルコト能ハス此權利ヲ稱シテ軍艦ノ容隠權ト云フ然レトモ公海ニ於ケル軍艦及ヒ船舶ノ地位ハ全ク同一ナリ往時ノ學者ハ船舶及ヒ軍艦ヲ以テ國土ノ一部分ナリト信シタリシカ今日ノ學者ハ之ヲ以テ國土ノ一部ナリト假定セリ故ニ往時ニ於テハ公海ニ於ケル軍艦又ハ船舶ノ周圍ニ於ケル海水ハ一定ノ區域マテ軍艦又ハ船舶ノ屬スル國ノ領地ト看做サレタリシカ今日ニ於テハ此ノ如キ慣例ナシ

内國ノ臣民カ所有スル船舶ト雖モ他人ノ財產ヲ掠奪スル目的ニ使用スルトキハ其性質ハ一變シテ海賊船ト爲リ國際法ノ保護ヲ受ケルコト能ハス蓋シ海賊ハ所謂萬國ニ對スル犯罪ナルカ故ニ今日ニ於テハ何レノ國民ト雖モ隨意ニ之ヲ逮捕シ其船舶ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

船舶カ難破シタル場合ニ之ヲ救助スルハ領海所屬國ノ義務ナリ然ルニ往時ニ於テハ難破ノ場合ニハ領海所屬國ニ其船體ヲ取得スルノ權利アリキ今日ニ於テハ其船體カ無主物ト爲リタル場合ニ之ヲ先占スルコトヲ得ルノミ然レトモ

如何ナル場合ニ無主物ト爲リタルヤハ問題ナリ英米ノ慣例ニ依レハ乗組員カ船舶ヲ去リタル時ニ之ヲ拋棄シタルモノト看做セリ

第二 國土及ヒ領海 或ハ此領地ヲ本來ノ領地ト曰フ者アリ而シテ今日ノ慣例ニ依レハ海岸ヨリ三哩ノ海水ハ其國ノ領海ト認メラル但シ學者間ニ於テハ頗ル議論アリ伊太利國ノ學者ハ百伊里又ハ六十伊里以内ノ海水ヲ以テ領海ト爲スヘシトノ議論ヲ唱ヘ千八百九十六年ニ於ケル國際法學會ハ六哩以内ノ海水ヲ以テ領海ナリト決議セリ昔時ニ於テハ海岸ヨリ砲丸ノ到達スル區域内ヲ領海ト認メタリシカ砲術及ヒ砲製ノ發達シタル今日ニ於テ此區域ハ頗ル狹少ニ失スルカ故ニ遂ニ三哩ノ慣例ヲ生スルニ至レリ其三哩ノ起算點タル海岸ハ干潮ノ時ニ於ケル海水ト陸地トノ接續線ヲ謂フモノナレトモ昔時殊ニ羅馬時代ニ於テハ滿潮ノ時ニ於ケル接續線ヲ以テ海岸ト定メタリ

領海ニハ數種アリ内海海灣又ハ海峽沿岸海等是ナリ此等ノ領海ハ國際法上全ク同一ノ地位ヲ有スルモノナレトモ如何ナル海水カ内海ナルカ或ハ海灣ナルヤ否ヤハ箇箇ノ場合ニ於テ之ヲ確定スルコト困難ナリ然レトモ内海又ハ海灣

ノ入口カ六哩以下ニシテ其全岸カ同一國ニ屬スル場合ニ於テハ之ヲ領海ト看做スヘキモノトス 黒海ノ如キハ其入口六哩以下ナルモ其全岸カ同一國ニ屬セサルカ爲メ領海ニ非ス

第二節 境界

境界ヲ定ムル方法ニ二アリ一ハ人爲的ノ方法ニシテ例ヘハ經度緯度ニ因リテ境界ヲ算定スルカ如キ或ハ石標石壁抗木濠渠等是ナリ一ハ天然的ノ方法ニシテ山嶽河川等ヲ標準トシテ境界ヲ定ムルモノアリ河川ニハ交通スヘキモノト否ラサルモノトニ因リテ其結果ヲ異ニス 交通スヘキ河川ニ付テハ航路ノ中央ニ畫シタル線ヲ以テ境界ト爲ス之ニ反シテ交通スヘカラサル河川ニ付テハ其中央ニ畫シタル線ヲ以テ境界ト爲ス

第三節 領地ノ取得

領地取得ノ方法ニ原始的取得方法ト承繼的取得方法トノ二種アリ原始的取得

方法ヲ別チテ三種トス曰ク先占曰ク増殖曰ク時効是ナリ先占トハ何國ニモ屬セサル土地ヲ取得スル場合ニシテ無人島ヲ占領シ又ハ野蠻人ノ棲息スル地ヲ占有スル場合ノ如キ是ナリ往時ニ於テハ河口又ハ海灣ノ入口ヲ先占シタルトキハ同時ニ其内地ヲモ先占シタルモノト認ムヘシトノ説行ハレタリシカ方今ニ於テハ實際占有ヲ爲シタル領地ノ取得區域ノミ取得セラルルモノトス増殖トハ隆起又ハ寄洲ニ因リテ新ニ國土ヲ生シタル場合ヲ云フモノニシテ領河カ土砂ヲ公海ニ流出シテ之カ爲メニ生シタル島嶼ハ領河所屬國ノ領地ト看ルヘキヤ否ヤニ付テハ議論アレトモ米國ハ此説ヲ是認シタリ寄洲トハ海岸ニ附著シタル土地ヲ謂フモノニシテ和蘭ノ如キ人工ヲ以テ此種ノ取得方法ヲ實行スル者アリ時効トハ一定ノ年限間國家カ外國ノ領地ヲ占有スルカ爲メニ其土地ヲ取得スル場合ヲ謂フモノニシテ今日ニ於テハ此例極メテ尠シ

承繼的取得方法トハ甲國ノ意思ニ基キ甲國ノ所有シタル領地ヲ取得スル場合ヲ謂フモノニシテ其種類頗ル多シ例ヘハ賣買交換ノ如キ是ナリ

第四節 國際河川

國際河川トハ數國ノ領地ニ跨ル河川ニシテ或ハ數國ヲ貫流スルモノアリ或ハ二國ヲ隔離スルモノアリ此種ノ河川ハ萬國ノ公道ト看做サレ各國ノ船舶ハ自由ニ交通スルコトヲ得ルモノニシテ萬國ニ於テ始メテ之ヲ定メタルハ維納會議ノ時ニ在リ

第五節 公海

公海ハ自由ナリトハ國際法學者カ一般ニ唱フル所ノ格言ニシテ各國ノ臣民カ公海ヲ以テ公道ト爲シ且ツ各國ハ之ニ對シテ主權ヲ行フコトヲ得サルコトヲ意味スルモノナリ往時ニ於テハ葡萄牙、英、吉利等ノ諸國ハ公海ニ對シテ主權ヲ行ヒタリシカ(ゴロチユース)以來右ニ述ヘタル格言ハ一般ニ認メラルルニ至レリ然ルニ何カ故ニ公海ハ自由ナリヤノ問題ニ付テハ學者各其見解ヲ異ニス或ハ曰ク公海ハ人力ヲ以テ占有スルコトヲ得サルカ故ニ主權ヲ行フコトヲ得テ

ルハ公海ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリト或ハ曰ク各國ハ公海ニ對シテ主權ヲ行ヒ得サルニ非ス唯之ヲ行フトキハ各國民ノ交通ヲ阻碍シ隨テ各國民ノ生存條件ヲ妨害スルカ故ニ此原則ヲ生シタルモノナリト後說ヲ以テ正當ナリト信ス

公海ハ自由ナルカ故ニ各國ノ人民ハ外國人民ヲ害セサル範圍内ニ於テ公海ヲ使用シ又ハ其果實ヲ收ムルコトヲ得ヘシ例ハ漁獵ヲ公海ニ於テ爲スハ各國人民ノ自由ナリトス

第六章 條約

條約ハ埃及希臘羅馬等ノ古代ニ於テモ既に其例ヲ觀ル唯今日ノ條約ト異ナル所ハ其效力及ヒ内容ニ在リ往時ニ於テハ條約ハ往來兒戲ニ類スルコトヲ定メタレトモ今日ハ然ラス條約ハ必ス國家ヲ生存條件ト密著ノ關係ヲ有セサルハナシ又往時ニ於テハ條約ノ效力ハ極メテ微弱ナリシカ中世宗教ノ信仰ニ因リテ其效力モ亦漸ク鞏固ト爲ルニ至レリ然レトモ當時國家カ條約ヲ履行スル精

神ハ今日ト全ク異ニシテ天帝又ハ耶蘇ノ命ニ背ク過アルヲ以テ之ヲ履行セシカ今日ハ然ラス條約ノ效力ハ全ク實利ノ觀念ニ根據ス蓋シ今日ノ國家カ漫ニ條約ヲ破ラサルハ天帝ヲ恐ルル故ニ非ス又耶蘇ノ命令ヲ背クヲ恐ルルカ故ニモ非スシテ條約ノ違反ハ自國ニ對シテ不利ナルカ故ナリ例ヘハ甲國カ乙國ニ對シテ漫ニ條約ヲ破ルトキハ國際法團體ニ對シテ信用ヲ失フカ故ニ他日他ノ諸國ト條約ヲ結ビ若クハ平和的ノ交際ヲ爲サントスルモ其目的ヲ負クコト困難ナレハナリ

條約ノ當事者ハ主權國ナルヲ要ス半主權國ハ完全ニ意思ヲ表示スル能ハサルカ故ニ例外ノ場合ニ於テ條約ヲ締結スルコトヲ得ルノミ又條約當事國ノ代表者ハ適法ナラサルヘカラス而シテ代表者カ適法ナルヤ否ヤハ一ニ被代表國ノ國法ニ依リテ之ヲ定ム又代表者ハ委任ノ權限ヲ超エサルコトヲ要ス若シ此權限ヲ超エテ條約ヲ締結スルトキハ被代表國ヲ拘束セサルモノトス但シ被代表國カ之ヲ追認シタルトキハ既往ニ遡ルモノトス而シテ追認ノ方法ハ一ナラス波代表國カ外交文書ニ依リテ追認ノ意思ヲ表示スルコトアリ或ハ條約ヲ履行

シテ間接ニ追認ノ意思ヲ表示スルコトアリ

條約當事國ノ代表者ハ自由ニ意思ヲ發表シタルコトヲ要ス例ヘハ詐欺強暴等ニ因リテ意思ノ自由ヲ妨ケラレタルトキハ其條約ハ無効ナリトス而シテ戰爭ノ場合ニ於テ戰敗國ハ意思ノ自由ヲ制限サレタルカ如キモ戰爭ハ國際法上公認セラレタル適法行為ニシテ戰敗國ハ其結果ヲ豫期セルモノナルカ故ニ媾和條約ノ無効ヲ主張スルコト能ハス

要スルニ條約ノ效力ハ既往ニ比シテ漸ク鞏固ト爲リタルモノニシテ殊ニ倫敦條約以來條約當事國ハ對手國ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ漫ニ條約ヲ廢棄スルヲ得サルコトト爲レリ

國情一變ヲ理由トシテ條約ヲ廢棄スルコトヲ得ルヤ我國カ歐米諸國ト締結シタル舊條約ハ我國ノ舊國情ニ適シタルモノナルカ故ニ國情ノ一變ト共ニ條約ヲ廢棄スルコトヲ得ヘキカ如シ「パチノ」ノストロー氏ノ如キハ右ノ理由ヲ以テ條約改正論ノ論據ト爲シタリト云フ然ルニ之ヲ駁スル者ハ曰ク單獨行為ニ因リテ漫ニ條約ヲ廢棄スルコトヲ得サルハ倫敦條約ノ規定スル所ナルカ故ニ國

情一變ヲ理由トシテ條約ノ改正ヲ望ムハ國際法違反ナリト此駁論ハ誤謬ナリ何トナレハ我國ハ倫敦條約ノ當事國ニ非サルカ故ニ此條約ノ拘束ヲ受クヘキ理ナケレハナリ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ條約ニ於テ明示若クハ默示ニ條約存立ノ期間ヲ定メサル以上ハ何國タリトモ之ヲ廢棄スルコトヲ得ルモノトス如何トナレハ國家カ條約ヲ締結スルニ當リ存立ノ期間ヲ定メサルハ雙方ノ承諾アル間ノミ互ニ效力ヲ保持スヘトノ意ナレハナリ

條約ノ成立ノ時期ニ付テ今日ノ實際ヲ觀ルニ條約ハ條約締結ノ一事ヲ以テ完成スルニ非スヘテ必ズ第二ノ手續タル批准ヲ要ス蓋シ批准ナルモノハ國家ノ元首若クハ大統領カ條約ノ締結ヲ承認スルノ謂ニシテ書面條約ニハ此手續ヲ缺クコトナシ唯委任狀ニ批准ヲ要セサル旨ヲ規定スル場合若クハ戰時ニ於テ僅ニ其例外ヲ見ル

「グロチユース以來舊時ノ學者ハ批准ヲ以テ條約成立ノ條件ニ非スト云フ者多シ其理由トスル所ハ條約締結後尙ホ批准ヲ要スルトキハ條約締結ノ委任ハ有名無實ニ終ルヘシト云フニ在リ然ルニ「ビンケルシューク以來此說ヲ一變シ今日

ノ學者ハ大抵批准ヲ以テ條約成立ノ要件ト爲セリ然レトモ條約カ如何ナ時ル期ニ於テ成立スルヤノ問題ニ付テハ學說一定セス或ハ曰ク條約ノ批准ハ條約ノ追認ニ等シク唯效力ニ關スルモノニシテ條約ノ成立ニ關セス而シテ條約締結ノ當時ニ條約ハ成立スルモノナリト然ルニ他ノ學者ハ曰ク條約締結後政治上ノ事情一變セシカ爲メニ條約ノ成立ヲ妨クル必要アルヘシ故ニ條約ノ批准ヲ要スルハ國家ヲシテ締結後十分政治上ノ利害關係ヲ考察セシムル所以ニシテ條約ハ批准ニ依リテ成立スルモノナリト予ヲ以テ之ヲ觀ルニ條約ハ批准交換ヲ爲シタルトキ始メテ成立シ且ツ其效力ヲ發生スルモノナリ

條約ノ批准交換後議會カ協贊ヲ爲ササルカ爲メニ條約ヲ履行スルコト能ハサル場合ニ於テ對手國ニ對シテ國際法上猶ホ條約ノ履行ヲ爲ス責任アルヤ此問題ニ付テハ議論一定セス或ハ曰ク條約當事國ハ對手國ノ資格ヲ詳察スヘキ義務アリ即チ對手國ハ國法上條約履行ノ爲メ如何ナル手續ヲ要スルヤヲ知ルノ義務アリ故ニ議會カ協贊セサルカ爲メ條約ノ不履行ヲ來スモ自ラ豫期スル所ナルカ故ニ其履行ヲ請求スルコト能ハス然ルニ他ノ學者ハ曰ク條約當事國ハ

對手國ノ國法ヲ知ルヘキ義務ナシ何トナレハ國法上ノ關係ハ國家内部ノ問題ナレハナリ

條約當事國ノ一方カ批准ノ手續ヲ終ルトキハ他ノ一方ハ必ス批准ヲ爲スヘキ義務アリト論スルモ實アレトモ一般ノ學說ハ之ヲ道德論ナリトシテ斥タル所ナリ而シテ條約批准拒絕ノ例ハ諺カラス千八百四十一年佛國カ奴隸事件ニ付キ英國其他ノ國ニ對シテ批准ヲ拒ミタルカ如キ又千八百八十八年土耳其カ英吉利ニ對シテ條約批准ヲ拒ミタルカ如キ是ナリ

次ニ條約ノ種類ニ付キ一言センニ古來ノ學者ハ條約ノ種類ヲ區別スルニ種種ノ標準ヲ擇ヒタリ或ハ條約ノ時期ニ因リテ之ヲ區別スル者アリ或ハ當事國ノ數ニ因リテ之ヲ區別スル者アリ或ハ又締結者ノ種類ニ因リテ之ヲ區別スル者アリ然レトモ此等ノ區別ハ何レモ形式上ノ區別ナルカ故ニ重要ノモノニ非ス「マルナンヌ」ニ實質上ヨリ條約ヲ二箇ニ區別セリ曰ク政治條約曰ク社會條約是ナリ即チ國家ノ政治ニ關スル條約ヲ以テ政治條約ト爲シ國民ノ社會的生存ニ關スル條約ヲ以テ社會條約ト爲セリ例ヘハ媾和條約又ハ領地割讓條約等ハ前

者ニ屬シ航海通商條約郵便電信衛生等ニ關スル條約ハ後者ニ屬ス然ルニ予ヲ以テ之ヲ見ルニ此區別ハ未タ完全ナラス郵便電信衛生等ノ事項ハ國民ノ生存條件ニ關係アルハ相違ナキモ一方ニ於テハ國家ノ政治ニ關セサルハナシ又領地割讓條約又ハ媾和條約ノ如キハ國家ノ生存條件ニ大關係アルモノニシテ甲國ノ臣民タルト將タ乙國ノ臣民タルトハ國民ノ利害ニ大關係アルモノナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ予ハ寧ロ義務ノ性質ニ應シテ條約ヲ區別スルヲ優レリト信ス例ヘハ交換條約賣買條約等ノ如キ是ナリ

第七章 使 節

使節カ如何ナル時ヨリ其權利ヲ開始スルヤノ問題ハ使節カ如何ナル時ニ職務ヲ開始スルヤノ問題ト全ク同一ナルモノニシテ此點ニ付テハ從來種種ノ議論アリタレトモ今日ニ於テハ接受國ニ於テ之ヲ承認シタル時始メテ其權利ヲ開始スルモノトス

使節ノ種類及ヒ階級ニ付テハ古代ヨリ變遷アリ第十八世紀以前ニ於テハ君主

ヲ代表スル大使ノミナリシカ十八世紀以來大使ノ外ニ今日ノ所謂特命全權公使若クハ辦理公使ヲ生スルニ至レリ然ルニ其權限頗ル曖昧ニシテ之カ爲メニ國際上ノ紛議ヲ生ゼタルコト懽カラサリキ是ニ於テ千八百十四年維納會議ニ於テ使節ノ種類ヲ三分スルニ至リタリ即チ大使、特命全權公使及ヒ代理公使是ナリ而シテ同會議ノ決議ニ依レハ大使ハ君主ヲ代表シ特命全權公使及ヒ代理公使ハ國家ノミヲ代表シ其任命ノ手續及ヒ禮遇ハ異ナリト雖モ職權ニ付テハ三者間ニ何等ノ差異ナキナリ然ルニ千八百十八年ニ至リアーヘン萬國會議ニ於テ使節分チテ四種類ト爲スニ至レリ即チ大使、特命全權公使、辦理公使及ヒ代理公使是ナリ然ルニ同會議ノ決議ニ依ルモ此四者ハ職權上何等ノ差異アルモノニ非ス又維納會議及ヒアーヘン會議ノ決議ニ依レハ使節ノ階級ニ付テハ大使ハ特命全權公使ノ上ニ立テ特命全權公使ハ辦理公使ノ上ニ立テ辦理公使ハ代理公使ノ上ニ立ツモノトス而シテ同一ノ種類ニ在リテハ駐在國ニ於ケル古參者ヲ以テ筆頭ト爲ス此ノ如ク今日ニ於テハ使節ニ四種アリト雖モ國家ヲ代表スル點ニ於テハ何等ノ差異ナシ唯代理公使ハ一定ノ公使ヲ任命スルマテ假

ニ其職務ヲ行フ者ナルカ故ニ之ヲ派遣及ヒ接受スル者ハ兩國ノ外務省ニ限ル維納會議ノ決議ノ明文ニ依レハ大使ハ君主ノ一身ヲ代表スルモノナレトモ今日ニ於テハ一ノ空文ニ屬ス何トナレハ佛、米ノ如キハ君主國ニ非サレトモ猶ホ且ツ大使ヲ派遣スレハナリ

次ニ使節ノ權利ニ付キ一言スヘシ使節ハ駐在國ニ於テ所謂治外法權ヲ享有ス往時ノ學者ハ此理由ヲ説明シテ曰ク使節ハ駐在國ニ其身體ヲ置クモ猶ホ本國ノ領地ヲ去ラサルカ如ク推定セラルルカ故ニ駐在國ノ主權ニ服從セサル結果ヲ生スト然レトモ此說ハ原因ト結果トヲ顛倒シタル論ナリ蓋シ使節カ治外法權ヲ享有スルハ其職務ニ必要ナルカ爲メナリ今使節ニシテ駐在國ノ裁判所ニ引致セラレ其秘密書類ヲ差押ヘラルルニ於テハ使節ハ其職務ヲ完サスルコト能ハサルヘシ是レ使節カ治外法權ヲ享有スル所以ニシテ駐在國ノ主權ニ服セサル狀態ハ恰モ本國ノ領地ニ在ルカ如シ故ニ右ノ如キ誤謬ヲ生シタル所以ナリトス

使節ハ治外法權ヲ享有スルコトハ右ニ述ヘタル所ナレトモ單ニ使節ノ一身ヲ

駐在國ノ主權以外ニ假クノミニテハ使節ノ職務ヲ十分保護スルコト能ハサルカ故ニ遂ニ左ノ結果ヲ生セリ即チ公使館モ亦治外法權ヲ享有スルコト是ナリ往時ニ於テハ公使館ノ存在セル一地方ハ總テ治外法權ヲ享有セリ第十六世紀ニ於ケル狀態即チ然リ例ヘハ公使館ノ存在スル地方ニハ鎖鑰其他ノ物品ヲ以テ他ノ地方ト隔離シ此地方内ニ起リタル總テノ事項ハ駐在國ノ干渉スル能ハサル所ナリキ其一例ヲ示セハ犯罪人カ公使館所在ノ地方ニ逃レ入りタルトキハ駐在國政府ニ於テ逮捕スルコト能ハサリシカ如シ然ルニ羅馬法王イノノーヘンド^一一世カ公使館所在地ノ治外法權ヲ撤回セリ

此ノ如ク公使館所在地ノ治外法權ハ漸ク廢滅スルニ至リシモ使節ハ本國ヲ去ラストノ觀念ハ猶ホ頗ル盛ニシテ往時ヨリ行ハレタル容隠權ハ暫時其跡ヲ絶タタリキ例ヘハフヒリツツ第五世ノ大臣カ英國公使館ニ逃レ入りタルトキニ英國公使カ之ヲ容隠シテ引渡ヲ肯セテリシカ爲メ遂ニ兵力ヲ以テ英國公使館ヨリ犯罪人ヲ引致シタル事件ノ如キハ當時既ニ公使館容隠權ノ弊害ヲ一般ニ認ムルニ至レリ又瑞典ニ駐劄セル英國公使カ叛逆人ヲ容隠シタルカ爲メ瑞典

政府ハ遂ニ兵力ヲ以テ英國公使館ヲ圍ミタルコトアリ當時英國公使ハ其結果駐在國ヲ退去セリ是ヲ以テ今日ニ於テハ公使館ノ容隠權ヲ廢止スルニ至レリ左ニ使節カ享有スル治外法權ノ内容ヲ説明スヘシ

第一 刑事裁判權ニ服從セザルコト

使節カ駐在國ニ於テ罪ヲ犯スモ駐在國ニ於テ之ヲ裁判スル能ハサルハ現行國際法ノ認ムル所ナリ然ルニ使節カ犯シタル罪ノ種類ニ因リテ多少結果ヲ異ニス即チ使節カ非國事犯ヲ犯ストキハ犯罪人ハ使節ノ資格ヲ喪失シタル者ト看做ナレ派遣國ニ向ヒテ召還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス之ニ反シテ國事犯ヲ犯ストキハ駐在國ニ於テ召還ノ請求ヲ爲サス直チニ國外ニ追放スルヲ例トス此ノ如ク非國事犯ト國事犯トノ間ニ差異アル所以ハ他ナシ國事犯ハ駐在國ノ安寧ヲ害スルコト非國事犯ニ比シテ一層大ナレハナリ而シテ國事犯ノ爲メニ使節ヲ追放シタル例數カラス例ヘハ千八百五十八年オレアン侯カ英國ノ使節ヲ國外ニ追放シタルカ如キ又有名ノ小説家タル英國公使バルガンカ國外ニ追放セラレタルカ如キ即チ是ナリ

第二 民事上ノ裁判權ニ服從セサルコト

使節ハ駐在國ニ於テ民事上ノ裁判權ニ服從スルコトナシ是レ其職務ヲ安全ニ行ハシメンカ爲メナリ例ヘハ使節カ類ニ法廷ニ訴ヘラレ又ハ證人トシテ召喚ヲ受タルコトアルニ於テハ公務ヲ十分行フノ暇ナカルヘシ蓋シ外交ノ事項ハ時機ヲ過ルヘカラサルカ故ニ民事ノ裁判ニ付テハ使節ノ一身ヲ保護セサルヘカラス又債權者ト雖モ使節ノ本國ニ於テ訴ヲ起スノ途アルヲ以テ實際不利益ヲ被フル恐ナシ然ルニ茲ニ一問題アリ駐在國ノ法律カ認メタル留置權ハ使節ノ財產ニ對シテ之ヲ認ムルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題是ナリ米國公使ホウイト氏カ嘗テ獨逸ニ駐在セシトキ其借家ノ貸主ハ或原因ニ由リテ米國公使ノ財產ヲ留置シタリ然ルニ獨逸ノ法廷ハ貸主ノ所爲ヲ以テ法律ニ反セサルモノトセシニホウイト氏ノ抗議ニ遭ヒ獨逸政府ハ外國公使ニ對スル自國裁判所ノ裁判權ヲ否認セリ是ニ於テ其獨逸法律ニ依リ獨逸國民ノ享有スル留置權ハ外國公使ノ財產ニ對シテ認ムルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ハ遽ニ解釋セラレタリキ予ヲ以テ之ヲ見ルニ留置權ノ實行ハ一種ノ自衛法ナルカ故ニ使節ノ性質ト相

容レサルモノトス

此ノ如ク使節ハ駐在國ノ民事裁判權ニ服從セサルヲ原則トス然レトモ是レ亦例外ナキニ非ス其例外ノ場合ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 使節カ駐在國ノ臣民ナル場合但シ此問題ニ付テハ議論ナキニ非ス
- (二) 商事上ノ取引ヨリ起ル訴訟例ヘハ手形訴訟ノ如キ是ナリ
- (三) 不動産ニ關スル訴
- (四) 使節カ原告トシテ駐在國法廷ニ訴ヲ提起シタル場合

使節ハ臣民ノ資格ヲ以テ支拂フヘキ租稅ヲ納ムルヲ要セザレトモ間接ノ租稅ハ之ヲ納ムルコトヲ要ス關稅ト雖モ亦同シ然ルニ今日ノ實例ヲ見ルニ各國ハ外國公使ニ全然租稅ヲ課セザル例頗ル多シ然レトモ此實例ハ國際法上ノ原則ニ非スレテ單ニ禮儀上ヨリ出テタル特別ノ待遇ニ過キス故ニ往往相互主義ニ依リ之ヲ免除スル例アリ關稅ノ免除ニ付テハ各國法律ニ於テ特ニ之ヲ規定スル例アリ例ヘハ地地利ノ如キ是ナリ

使節ト同一ノ權利ヲ享有スル者ハ使節ノミナラス使節ノ家族但シ家族ノ範圍

ニ付テハ議論アリ(公使館吏員及ヒ從僕是ナリ(從僕ニ付テモ議論アリ))
 使節ハ其監督スル人員ニ對シテ裁判權ヲ有セザルハ今日ノ實況ナリ然ルニ往
 時ニ於テハ其監督スル人員ニ對シテ民事上及ヒ刑事上ノ裁判權ヲ享有セリ例
 (ハ千七百十四年英王シヤコツマフ)朝廷ニ派遣セラレタル佛國使節カ其監
 督スル吏員ニ對シ死刑ノ宣告ヲ爲シタルカ如キ是ナリ使節ハ此ノ如ク訴訟事
 件ニ付テハ裁判權ヲ有セスト雖モ非訟事件ニ付テハ自國臣民ニ對シ管轄權ヲ
 有ス

使節ノ職務ハ左ノ場合ニ於テ終了スルモノトス

- (一) 接受國ノ君主カ崩御シ若クハ位ヲ退キタルトキ 使節ハ接受國ノ君主ノ承認ヲ待チテ始メテ其職務ヲ開始スルモノナルカ故ニ之ヲ承認シタル君主カ崩御若クハ位ヲ退キタルトキハ使節ノ職務ハ終了ス
- (二) 使節カ職務ヲ退キタルトキ
 使節カ接受國ト交通ヲ絶テタルトキ 此場合ハ使節ヨリ進ミテ交通ヲ絶テタルト又接受國ヨリ交通ヲ絶テタルト問ハサルモノトス但シ此場合ニ於
- (三) 使節ノ職務ノ停止ニ過キスト云フ者アリ

テハ職務ノ停止ニ過キスト云フ者アリ

- (四) 接受國カ使節ノ召還ヲ請求シタルトキ 此實例ハ鈔カラス瑞典(グスタ
 一)三世カ露國ノ使節ノ召還ヲ請求シタルカ如キ又西班牙政府カ英國公使ノ
 召還ヲ請求シタルカ如キ是ナリ
 - (五) 派遣國カ使節ヲ召還シタルトキ 此場合ニ駐在國ノ宮中ニ解任狀ヲ捧呈
 スルヲ例トス
 - (六) 使節在職ノ期間終了シタルトキ
 - (七) 使節カ委任事項ヲ終了シタルトキ
 - (八) 戰爭開始シタルトキ
- 往時ニ於テハ戰爭カ開始スル場合ニハ更ニ使節ニ虐待ヲ加ヘタルノミナラス
 其財産ヲ沒收シタル例屢々之アリタレトモ今日ニ於テハ使節ニ旅行券ヲ與ヘ
 駐在國ノ國境ヲ辭スルマテ之ヲ保護スルモノトス又使節死亡シタルトキハ遺
 骸ノ葬送ニ付キ往時ノ如ク特別ノ禮式ナシ但シ遺産ハ使節ノ本國ニ行ハルル
 規則ニ從ヒ之ヲ處分スルモノトス而シテ有價證券ノ如キハ公使館官吏又ハ和

親國ノ使節封印ヲ施スヘシ若シ此等ノ事ヲ行フ者ナキトキハ駐在國ノ外務省
 カ遺産管理ノ手續ヲ爲スモノトス
 使節ノ職務ハ右ニ述ヘタル原因ニ由リテ消滅スルモノナレトモ其特權ハ接受
 國ノ領地ヲ辭セサル間ハ享有スルヲ得ルモノトス但シ實際ニ於テハ駐在國ニ
 於テ右享有期間ヲ定ムルヲ例トス而シテ此期間ノ保護ヲ受クル者ハ使節ノミ
 ナラス其家族公使館吏員等ナルコトハ上述セシ所ナリ

次ハ外交上ノ用語ニ付キ一言スル所アルヘシ中世以來十八世紀ノ初マテ外交
 上ニ使用セラレタル語ハ羅典語ナリシカ時勢ノ變遷ト共ニ社會ノ事情ノ複雜
 ト爲リタル爲メ羅典語ヲ以テ其複雜ノ事情ヲ表明スルコト能ハサリシカ故ニ
 遂ニ佛蘭西語ヲ一般ニ使用スルニ至レリ然ルニ各國ノ宮中ニ於テハ今日ニ於
 テモ佛語ヲ使用セリ蓋シ「ヒリッ」二十世カ其勢力ヲ歐洲ニ振ヒシトキニ當リテ
 各國宮中ハ何レモ西班牙語ヲ用ヒタリシカ西班牙ノ勢力衰ヘシ以來此語ヲ用
 フル者減少シ「ルイ」十四世以來一般ニ佛語ヲ宮中ノ用語ト爲スニ至レリ此ノ如
 ク外交上佛語ヲ用フルハ一般ノ例ナレトモ各國ノ便宜上ヨリ起リタルモノニ

シテ各國カ自國ノ言語ヲ用フルハ勿論差支ナキモノトス但シ東洋諸國ニ於テ
 ハ近來英語ヲ一般ニ外交ノ用語ト爲スニ至リタリ
 今日各國君主カ互ニ文書ヲ往復スルハ往時ニ比テ頗ル僅少ナリトス是レ各
 國政體ノ變更ヨリ生スル結果ナルヘシ然レトモ今日各國君主カ文書ヲ往復ス
 ル例尠カラス而シテ之ニ使用スル書式凡ソ三アリ

第一式ハ國字ヲ使用スルモノニシテ多クハ禮式的ノ文書ニ使用ス

第二式ハ御璽ヲ用フルモノニシテ國際的事項ニ關スルモノトス

第三式ハ自己ヲ指稱スルニハ單數ヲ用フルモノニシテ第一式第二式ハ複數ヲ
 用フ例ヘハ我等「ウヰル」我等「ビクタトリヤ」ト云フカ如シ

外交上ノ談判ヲ爲ス方法ニハ口頭上ノモノト書面上ノモノトアリ口頭ヲ用フ
 ル場合ニハ覺書ヲ使用スルコトヲ妨ケス而シテ書面上ノ談判ニ至リテハ又使
 節ノ署名ヲ用フルモノアリ或ハ之ヲ用ヒサルモノアリ例ヘハ國際談判ノ經過
 ヲ報道スル場合ハ署名セサルヲ例トス然レトモ此二者ハ就レモ外交通知書ト
 謂フコトヲ得ヘシ

第八章 領事

希臘羅馬ノ時代ニ於テハ今日ノ領事ニ於ケル制度アリタリシカ當時ノ領事ハ現ニ職務ヲ行フ地ノ人民カ選舉スルヲ例トス然ルニ今日ノ領事ハ外國ヨリ派遣セラレタル官吏ナリ而シテ今日ノ領事ハ十字軍以後ニ始メテ其萌芽ヲ生シタルモノノ如シ當時十字軍ニ從ヒシ歐洲人民殊ニ伊太利ノ小民ハ亞細亞ニ於テ交易上ノ原理ヲ發見セシ以來亞細亞ニ赴ク者漸ク多キヲ加フルニ至リ東西貿易ノ面目ハ茲ニ一變スルニ至レリ而シテ當時亞細亞ニ赴キテ商業ニ從事シタル者ノ間ニ訴訟事件ヲ發生シタルトキハ一定ノ官吏ヲシテ其裁判ヲ司ラシメタリ領事ノ制度蓋シ之ニ基因ス

領事ハ右述ヘタルカ如ク外國ニ居留スル臣民間ノ訴訟ヲ裁判スルヲ以テ職務ト爲セシカ時ヲ經ルニ隨ヒ居留地人民ト領事ノ駐在セル國ノ人民トノ間ニ生シタル訴訟ヲモ裁判スルニ至リ其他領事ハ居留地内ノ行政ヲモ司リ又刑事裁判權ヲモ行フニ至レリ此ノ如ク領事ノ職權ハ頗ル廣大ト爲リ土耳其帝國ノ勃

興セル後ニ至リテモ此職權ノ範圍ハ變動ヲ生スルコトナキノミナラス遂ニ條約ヲ以テ從前ノ職權ヲ確定スルニ至リタリ

歐洲大陸殊ニ地中海ニ瀕セル諸國(佛伊等)ニ於テ東洋ニ行ハルル制度ヲ採用スルニ至リタルモ其行政權ノミハ領事ノ享有セザリシ所ナルカ如シ英國ニ於テハ第十四世紀ノ初ニ於テ伊太利領事ノ派遣アリ又是ヨリ先キ和蘭ニ於テハ伊太利領事館ヲ設置セリト云フ英國モ亦第十五世紀ニ至リ丁扶和蘭等ノ諸國ニ領事ヲ派遣スルニ至リシ以來歐洲大陸ハ何レモ外國ニ領事ヲ派遣セリ特ニ露國(ペートル)大帝以來外國ニ領事ヲ派遣シタリト云フ

歐洲諸國ノ派遣シタル領事ノ職制ハ所謂屬地主義ノ勃興ト共ニ大ニ變更スルニ至リタリ蓋シ屬地主義ニ依レハ一國ノ領地上ニ存在スル物及ヒ人ハ總テ其國ノ主權ニ服從セサルヘカラス隨テ從來ノ如ク外國ノ領事カ領地内ニ於テ裁判權ヲ行使スルコトヲ許ササルニ至レリ是ニ於テカ領事ハ唯居留地人民ノ商業上ノ利益ヲ保護スルニ止マリ從來ノ如ク廣大ナル職權ヲ有セサルニ至リ殊ニ第十八世紀以來使節ヲ一般ニ用フルノ風行ハレ又領事ノ必要ヲ認ムル者

ナキニ至レリ是ヲ以テ領事ノ職務モ亦曖昧ト爲レリ然ルニ佛國革命後歐洲諸國ハ平和的交通ヲ盛ニスルノ必要ヲ感シ各國ハ何レモ領事ヲ外國ニ派遣シ商業保護ノ機關ニ供スルニ至リシナリ然レトモ昔時ノ如ク裁判權ヲ享有セザリキ

次ニ領事ノ種類ヲ説明スヘシ領事ハ土地人及ヒ階級ノ上ヨリ區別スレハ左ノ如シ

第一 土地ニ因リ領事ヲ區別スレハ一定ノ管轄區域ヲ定メテ其職務ヲ行ハシムル者アリ又職務ノ區域ヲ限定セサル者アリ今日一般ニ行ハルル實例ニ依レハ領事ノ管轄區域ハ本國政府ニ於テ之ヲ指定ス而シテ承認國カ領事ノ本國ニ向ヒテ其管轄區域ノ指定ヲ請求スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ多少議論アレトモ請求スルコトヲ得ト云フ說多數ナルカ如シ蓋シ領事ノ管轄區域ヲ確定スレハ地方官廳若クハ人民ハ領事ト往復ヲ爲スニ付キ大ニ便益アレハナリ

第二 人ニ因リテ領事ヲ區別スレハ普通領事及ヒ名譽領事ノ別アリ普通領事ハ自國臣民ヲ領事ニ任命シタル者ニシテ名譽領事ハ承認國ノ人民特ニ商人中

ヨリ採用スルヲ例トス然レトモ第三國臣民ヲ名譽領事トスルコトヲ妨ケス蓋シ名譽領事ハ普通領事ヲ設置スル程ノ必要ナキ地ニ置タラ例ト爲ス

第三 階級ニ因リ領事ヲ區別スレハ總領事アリ副領事アリ代理領事アリ總領事ハ領事以下ヲ監督スル者ニシテ一方ニ於テハ使節ノ監督ヲ受ケ他ノ一方ニ於テハ本國政府ノ監督ヲ受テ領事ハ通例首府開港場等ニ於テ職務ヲ行ヒ副領事之ヲ輔佐ス而シテ代理領事ハ領事カ旅行疾病其他ノ事故ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ領事ニ代リテ領事ノ職務ヲ行フ者ニシテ其所爲ニ付テハ總テ領事ニ於テ責任ヲ負フモノトス又副領事ト雖モ本國政府ヨリ直接ニ任命セラレタルトキハ領事ヲ輔佐スル點ニ於テ獨立ノ職務ヲ行フコトアリ領事ハ本國政府ヨリ任命セラレタルトキニ駐在國ニ對シテ職務ヲ行フノ資格ヲ得タルモノニ非スシテ駐在國ニ於テ之ヲ承認シタルトキ始メテ領事ノ資格ヲ取得スルモノトス而シテ領事ハ本國政府ノ信任狀ヲ提示シタル後ニ始メテ駐在國政府ノ承認ヲ受タルモノトス然レトモ駐在國政府ハ之ヲ承認スルノ權利アルモ義務アルコトナシ近世外國領事ヲ承認セザリシ例ヲ舉クレハ千八百

六十九年北米合衆國カ英國ニ領事ヲ派遣シタルトキ英國政府ハ承認ヲ與フルコトヲ拒ミタリ蓋シ此領事ハ素ト愛蘭人ニシテ米國ニ歸化セタル者ナリト云フ又駐在國政府ハ一旦與ヘタル承認ヲ取消スコトヲ妨ケス例ヘハ千八百七十八年獨逸政府カ土耳其ノ領事ニ對シ承認ノ取消ヲ爲セタル如キ是ナリ又千八百三十四年佛國政府カ局外中立違反ノ故ヲ以テ普魯西國ノ領事ニ與ヘタル承認ヲ取消シタルカ如キ即チ是ナリ

駐在國ノ政體カ變更セタルトキハ領事ハ更ニ駐在國政府ノ承認ヲ受クヘキモノナルヤ否ヤ此問題ニ付テハ學說及ヒ實例共ニ稍ヤ一定セリ唯少數ノ學說ニ依レハ政體ノ變更ハ承認國ノ變更ト看做スヘキカ故ニ新ニ承認ヲ經サルヘカラス又或實例ハ此學說ト符合セリ例ヘハ千八百三十六年佛國政府カ新ニ露國領事ニ承認ヲ與ヘタルカ如キ即チ是ナリ然レトモ多數ノ實例ハ何レモ之ニ反對セリ

國家ニ内亂起リ國際法上ノ交戦主體ト爲リタル場合ニ此交戦主體ニ領事ヲ派遣スル所爲ハ獨立ノ承認ナリト云フ說アレトモ國際上ノ先例ハ全ク之ニ反ス

ルカ如シ例ヘハ南北戰爭ノ例ニ徴セテ之ヲ知ルヘシ

領事ノ地位ニ付テハ議論アリ一說ニ依レハ領事ハ外交機關ニシテ使節ト同シク駐在國ニ於テ特權ヲ享有スヘシト他ノ一說ニ依レハ領事ハ普通人民ト異ナラサルカ故ニ國際法上特權ヲ享有セスト第三說ニ依レハ領事ハ外交機關ニ非ス隨テ使節其他ノ外交官ト同一ノ權利ヲ享有スルコト能ハスト雖モ亦外國ノ官吏ナルカ故ニ普通人民ト同一ノ地位ヲ享有スト謂フヘカラス若シ外國領事ニシテ普通人民ト同一ノ待遇ヲ受クルニ於テハ其職務ヲ十分行フコト能ハサル處アリ故ニ或程度マテ特權ヲ與フル必要アリト云フニ在リ

右ノ三說中第三說ハ正當ナルカ如シ即チ同國領事カ其職務ヲ行フニ必要ナル程度内ニ於テ特權ヲ與フヘキモノナリト信ス之ヲ實例ニ徵スルモ領事ハ民事上ノ拘留ニ處セラルルコトナシ例ヘハ西班牙露西亞間ニ締結シタル條約ノ如キハ特ニ此旨ヲ明言セリ又使節ト領事ト異ナル點ヲ舉クレハ管ニ一身上ノ權利ノミナラス其職務ヲ行フ場所ニ付テモ亦國際法上ノ保護ヲ異ニス即チ領事館ハ不可侵權ヲ享有スルコト能ハス然レトモ領事ハ本國ノ旗章及ヒ紋章ノ保

護ヲ受タル權利アリ蓋シ此權利ハ外國ノ名譽權ヲ重スル精神ニ基因スルモノ
ノ如シ而シテ領事ノ使用スル本國ノ旗章又ハ紋章ヲ傷害シタル爲メ國際上ノ
紛議ヲ生シタル例尠カラス歐洲諸國ハ往往條約ヲ締結シテ或程度マテ領事ニ
對シ刑事上ノ裁判權ヲ行ハサル旨ヲ定メタル例尠シトセス然ルニ此條約ハ國
際法ヲ宣言シタル條約ナリヤ或ハ國際法ノ原則ヲ確定シタル條約ナリヤハ問
題ナリト雖モ此條約ヲ締結セサル國ニ於テ外國領事ニ對シ刑事上ノ裁判權ヲ
實行シタル例アルヲ觀レハ確定的條約ニ非スト信ス民事ノ訴訟ニ付テハ領事
ハ勿論駐在國ノ裁判權ニ服セサルヘカラス即チ單ニ被告トシテ訴ヘラルル場
合ノミナラス原告トシテ訴ヲ起シタル場合ニ於テモ判決ノ執行ヲ受タルコト
ヲ免レス

第九章 國際爭議ノ調和手段

國際爭議ヲ決定スル最後ノ手段ハ唯リ戰爭アルノミ然ルニ戰爭ハ戰時公法ノ
範圍ニ屬スルカ故ニ其他ノ調和手段ニ付キ説明スヘシ抑モ戰爭ハ害毒ヲ流布

スルコト大ナルカ故ニ多數ノ學者並ニ實際家ハ成ルヘク戰爭以外ノ方法ニ依
リテ此爭議ヲ調和セシトテ希望セリ而シテ今日國際上認めラレタル調和手
段ハ仲裁裁判和解周旋及ヒ仲介是ナリ此等ノ方法中其效力ノ稍ヤ確定セルモ
ノヲ仲裁裁判トス

第一 仲裁裁判 仲裁裁判トハ爭議當事者カ第三者ニ依頼シテ爭議ヲ決定セ
シムル方法ニシテ希臘羅馬ノ時代ニ於テ其例ヲ見ル中世ニ於テ仲裁裁判ノ例
ハ尠カラサレトモ其效力頗ル微弱ナリ近世ニ追ヒテハ仲裁裁判ノ必要ヲ感ス
ル者益々多キヲ加ヘ往往現行國際法中唯一ノ調和手段ナリト曰フ者アリ或ハ仲
裁裁判者ヲ以テ國際法ノ完全ナル裁判官ナリト云フ者アルニ至ル殊ニ千八百
七十三年英國議會ニ於テ萬國間ニ仲裁裁判ニ關スル條約ヲ決定スル必要アリ
トノ決議ヲ爲スニ至レリ又同年伊太利ニ於テモ「マンチニ」ノ意見ヲ採用シ成
ルヘク仲裁裁判ヲ國際上實行スヘシトノ決議ヲ爲セリ國際法協會ノ如キモ亦
此必要ヲ認メ之ニ關スル條約ヲ數國間ニ締結スルニ至レリ近世著名ナル仲裁
裁判ノ例ヲ舉ケレハ千八百五十二年佛國ノ仲裁事件ノ如キ千八百六十四年歐

逸仲裁裁判事件ノ如キ即チ是ナリ左ニ今日行ハルル仲裁裁判ノ慣例ヲ示スハ
 争議ノ當事者カ仲裁裁判ヲ受クル必要ヲ生シタルトキハ互ニ條約ヲ締結シテ
 争議ノ標準タル規則ヲ定メ並ニ其争點ヲ明カニスルモノトス而シテ仲裁裁判
 者ハ此條約ニ基キテ裁判ヲ爲スモノニシテ仲裁裁判者ニハ共和國ノ大統領ア
 リ或ハ君主アリ又ハ羅馬法王アリ之ヲ選定スルハ當事者ノ自由ナリ又一私人
 ト雖モ仲裁裁判者ニ選定セラレタル例尠カラス而シテ仲裁裁判者カ判決ヲ下
 シタルトキハ争議ノ當事者ニ其判決ヲ通知ス今日ニ於テハ此判決ニ服スル者
 漸ク多キヲ加フルニ至リタリ例ヘハ「アラバマ」事件ニ付キ英國政府カ北米合衆
 國ニ辨償ヲ爲シタル金額實ニ千五百萬弗以上ニ上レリ是ニ於テ學者ハ往往仲
 裁裁判ヲ以テ國際法上ノ判決ト同視スル者アリ然レトモ此說ハ全ク根據ヲ缺
 タモノニシテ争議ノ當事者カ仲裁裁判者ノ裁判ニ服スルハ之ヲ命令ト認メテ
 服スルニ非スシテ任意ニ服スルニ過キス蓋シ仲裁裁判者ハ争議ノ當事者ニ對
 シテ主權ヲ有スル者ニ非サレハナリ故ニ争議當事者ニ因リ將來仲裁裁判ニ服

セサル者アルニ至ルハ現行國際法ニ於テハ此裁判ヲ施行スル能ハサルモノナ
 レハナリ

茲ニ一問題アリ第三國ハ國家自體トシテ仲裁裁判者ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤ
 ノ問題はナリ或ハ國家自體ハ國際法ヲ解釋スル能力ナキカ故ニ仲裁裁判者ト
 爲ルコト能ハスト云フ者アレトモ國際法主體タル國家トシテ國際法ヲ知ラザ
 ル理由ナシ隨テ國家自體カ仲裁裁判者ト爲ルコト能ハストノ說ノ理山ナキコ
 トヲ知ルニ足ルヘシ而シテ仲裁裁判者タル資格ハ争議當事者タル國家ノ滅亡
 其間ニ起リタル戦争争議當事者ノ委任取消等ニ因リテ消滅スルモノトス
 仲裁裁判ハ國際判決ト同一ナルモノニ非サルカ故ニ予輩ハ争議當事者ニ於テ
 之ニ服従スル義務ナシト斷定セント欲ス蓋シ敗訴者ハ必スシモ國際法違反ニ
 非サルコトハ學者ノ唱道スル所ナルカ故ニ此點ヨリ觀ルモ裁判ニ服スル義務
 ナシト判定スヘキナリ

第二 和解 和解トハ争議ノ各當事者若クハ其一方カ己ノ請求ヲ拋棄スル狀
 態ヲ指稱スルモノニシテ國際上多ク例ヲ見タル所ナリ何トナレハ争議ノ各當

事者カ一旦其主張シタル所ヲ拋棄スルカ如キハ一國ノ體面ニ關スルコト重大ナレハナリ近世ニ於テハ千八百四十二年英米二國カ境界確定ニ付キ互ニ讓歩シタルカ如キ即チ和解ノ例ナリトス而シテ和解ノ手續ハ爭議當事者間ノ外交談判ニ由ルモノニヤテ第三國ノ力ヲ假ラサルモノナリ然ルニ勢力ノ微弱ナル國ハ動モスレハ對手國ノ爲メニ屈伏セラルルカ故ニ和解ハ同等ノ國力ヲ有スル者ノ間ニノミ行ハルルヲ例トス又對手國ヨリ和解ノ申込アルモ之ヲ承認スルニ及ハサルモノトス又學者ハ往往對手國ヨリ和解ノ申込アリタルトキ之ヲ承認セサルニ於テハ必ス仲裁裁判ヲ仰クヘシト云フ者アレトモ是レ實際ニ適セサルノ論ナリ

第三 周旋 周旋トハ第三國カ爭議當事者ノ主張スル所ヲ媒介スル方法ニシテ維納會議ノ議定書ニモ既ニ之ニ關スル規定アリ要スルニ第三國ハ爭議ニ關シテハ毫モ主動的動作ヲ爲サズ唯二國ノ意思ヲ交換スル媒介ニ過キス隨テ實際爭議ノ調和手段トシテハ其效力微弱ナリト謂フヘシ然レトモ周旋國ノ勢力地形等ハ爭議國ノ意思ヲ動カス誘引ト爲ルコト往往ニシテ之アリ近世ニ於テ

ル周旋ノ一例ヲ舉クレハ西班牙國ノ皇子繼承問題ニ付キ佛普二國カ其意見ヲ異ニシ爭議ヲ生シタル際英國カ周旋ヲ申込ミタルカ如キ是ナリ當時英國ノ申込ハ拒絕セラレタレトモ勢力微弱ナル國ハ英國ノ如キ強大國ノ申込ヲ拒絕セタルハ勿論ニシテ而シテ周旋ノ結果和解ト爲ルコトアルヘシ又仲裁裁判ト爲ルコトアルヘシ又周旋ト仲裁裁判ノ差異ヲ舉クレハ仲裁裁判ハ國際法上ノ問題ヲ決定スルヲ目的トスレトモ周旋ハ國際法上ノ見解ハ勿論政治上ノ意見マヲ合併セテ之ヲ媒介スルモノトス

第四 仲介 仲介トハ第三國カ爭議國ノ間ニ立チ入りテ兩國ノ主張スル所ヲ調停スルモノニシテ周旋ト異ナル所ハ條約其モノニ參加スルニ在リ即チ條約各當事者カ爭議落著ノ條約ヲ締結スル場合ニ其條約中ニ第三國ノ仲介ニ因リテ調停ヲ爲ス旨ヲ記載シテ仲介者タル第三國モ亦此條約ニ署名スルモノトス而シテ周旋ト異ナル所ハ主動的ニ爭議ノ調停ヲ試ムルコト即チ是ナリ即チ仲介者タル第三國ハ自ラ信スル所ニ從ヒ國際上ノ解釋ヲ爭議ノ當事者ニ示シ又ハ爭議當事者ノ意見ヲ批評シ若クハ將來ニ生スル政治上ノ結果ヲ豫定スルコ

トヲ得ルモノトス故ニ仲介ハ周旋ニ比シテ其效力顯著ナリ今仲介ト仲裁裁判
ノ異ナル點ヲ擧ケレハ仲介ハ法理問題ノミナラス政治上ノ問題ニモ立入ルモ
ノトス

國際公法(平時) 終

講習科規則摘要

- 一 乙種講習科ハ講義録ニ依リテ獨習ヲ爲スモノトス
- 一 講習期ハ二月ニ始リ十一月ニ終ル
- 一 講義録ハ各講師擔任ノ部分ヲ一括シテ配布ス
- 一 講習科ハ金拾貳圓トス但三十四年度ニ限り左ノ一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得
 - 第一部(民事) 訴訟法 金六圓
 - 第二部(商法、經濟學) 金四圓
 - 第三部(刑法、刑事訴訟法、民法、行政法、國務私法) 金五圓
- 一 右講習科ハ何レモ一个月分以上ヲ分納スルコトヲ得(但入學ノ際ニハ成ルベシ)
- 一 講習生ハ講義録ニ掲載セル事項ニ付キ質問ヲ爲スコトヲ得但一間毎ニ別紙ニ認メ且一間毎ニ一普信科ヲ添フルコトヲ要ス
- 一 講習科ハ和佛法律學校會計課宛ニテ送付スヘシ但郵券代用ハ一割増ノ事



明治二十二年十二月九日內務省許可

明治三十四年五月廿四日印刷
明治三十四年五月廿七日發行

編輯者 小田幹治郎
發行所 東京市芝區四谷仲町三丁目卅八番地

印刷者 金子鐵五郎
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

發行所 東京市總町區富士見町六丁目十六番地
指定 司法省
和佛法律學校
(電話番町百七十四番)